

第三 貴顯ノ接遇 明治十九年十一月、本會創始ノ時ニ際シテ芳川内務次官ノ來
巡アリ、翌二十年二月

熾仁親王殿下ノ御參向アリ、三月

皇太后陛下ノ行啓アリ、恰モ賓日館ノ落成ニ際シテ千歳一遇ノ光榮ヲ荷ヒ、六月
ニハ

朝彦親王殿下ニ謁シテ親シク獎諭ヲ賜ハル、爾後貴賓接踵冠蓋相望ミ、或ハ獎辭
ヲ蒙リ或ハ匡贊ヲ辱フスル等、其事頻繁ニシテ詳叙ニ暇アラズ、要スルニ他日振
張大成ノ運ヲ期スベキ兆候トシテ、堅忍不撓勇躍事ニ從フ所以也

第四 收支ノ金額 創始以來今日迄ノ事端ヲ闡明セシハ、實ニ五萬壹千圓ノ收支
金ヲ經營シタル結果ナリトス、但シ支出ノ如キハ機運草創ニ屬セルガ爲、經費多
端ヲ免レザルモノアリ、事煩瑣ニ涉ルヲ以テ其細目ヲ列舉セズ

第五 將來運動ノ要旨 凡ソ今日迄ニ經歷セシ所ハ、専ラ地方的局部ノ運動ニ止
マリ、根柢ヲ樹植セシニ過ギズト雖モ、前途遠遠是ヨリ進張ヲ策シテ普ク天下大
方ヲ傾動スルニ非レバ、以テ全局ノ完成ヲ望ムベカラズ、果シテ此運ヲ邀ヘント

欲セバ、宜シク都門ニ出デ、貴顯紳士ニ詢リ、總裁會頭以下統督其人ヲ推薦スル
ハ勿論、當路有司ノ獎勵保護ヲ稟請シ、汎ク識者、有力家ノ贊翼ヲ受ケ以テ全國公
衆ニ唱道スルノ大基礎ヲ盤定セザルベカラズ、是レ將來ノ運動ニ關シテ懷抱ス
ル所ノ要旨也

明治二十一年十二月一日

神苑會幹事

太田 小三郎

宮内大臣子爵 土方久元殿

造苑土功ハ客月以來既ニ實施ノ端ヲ舉ゲ、大體ノ圖案モ亦調成ス
ル所アリト雖モ、資金ノ運用、意ノ如クナラズ、爲メニ工事ヲ中斷ス
ルコトアルハ又勢ノ免レザル所ト謂フベシ、今若躑躅セン乎、成苑
ノ期恐ラクハ來秋式年遷宮ノ盛典ニ伴フ能ザランコトヲ、是レ宜
ク臨機ノ措置ヲ施スベキ所ナリ。茲ニ於テ庶務部長村井恒藏提案
シテ工事請負規則ノ特例ヲ設ケ、成功検査ノ後ニ在テモ、代金交付

ノ期ヲ延バスコトアルベキ旨ヲ豫告シ、之ヲ承諾スル者ヲシテ入札セシメントトテ稟議ス。乃チ其議ヲ裁可シ、據リテ以テ工事ノ決行ヲ得タル者アリ。

十二月十五日、幹事太田小三郎、蹶然意ヲ決シテ上京ス、此行實ニ本會ノ運命ヲ定メ、事業ノ消長ヲ決スル所ニシテ、其任ヤ重且大ナルモノアリ。抑モ資金募集ノ法案ヲ立ツルヤ、先ヅ三重縣下ノ寄附額ヲ定メ、而シテ後全國府縣ニ普及スルヲ以テ、順序其當ヲ得ルモノトシ、首トシテ本縣管内ノ募集ニ着手セリト雖モ、豫定期間ニ決了ヲ告グル能ハズ、開苑ノ土功亦從テ滯留セントス。空シク現態ニ處センカ、成苑ノ期或ハ來秋ヲ逸センコトヲ恐ル。第一着步(神苑開設)ノ事業ニシテ、遷延斯クノ如クンバ、何ノ日カ又第二着步(倉田山計畫)ノ事業ヲ奏スベケンヤ、江湖ニ聲言スル所ノ計圖、得テ其成功ヲ

望ムベカラズトセバ、寧ロ今ニ於テ規模ヲ縮小シ、單ニ神苑ノ實施ニ止ムルニ若カザルナリ。之ヲ要スルニ規模計畫ノ程度并ニ組織方法ノ如何等、苟モ一切ノ綱領ニ關シテハ、之ヲ現代ノ名流諸賢ニ諮リ、其清誨ニ接シテ初テ意志ヲ定ムベキナリ、事固ヨリ臨機ノ決ニアリ、乃チ本會ノ全權ヲ委ネテ太田幹事ノ上京ヲ勞スルニ至ル。而シテ其着京以來、祁寒風雪ヲ冒シテ輦轂ノ下ニ奔走シ、遂ニ能ク本會成立ノ基礎ヲ定メ、前途發展ノ機運ヲ開キシ著績ハ、次項以下、第四編中ニ掲グル所ノ事實是ナリ(上京中ノ顛末モ亦第四編中ノ報告書ヲ參看スベシ)。

十二月二十七日、太田幹事上京以來ノ第一報到ル、宮内省御下賜金壹萬圓ノ電報是ナリ。會員相傳ヘテ之ヲ聞キ欣喜措ク所ヲ知ラズ、遙ニ紫闕ヲ拜シテ 聖恩ノ渥キニ感泣ス。

右御下賜金ニ添付セラレタル御沙汰書左ノ如シ。

其縣下有志之者共神苑會ヲ創設シ、神宮宮域外ニ於テ神苑開設ニ従事候趣被聞食、
金壹萬圓下賜候條其縣ニ於テ管理シ、開設費ニ可充事

明治二十一年十二月二十七日

宮 内 省

神苑會史料

第四編

第四編

創立第四期

自明治二十二年一月
至同 年六月

明治二十二年一月一日、事務所ニ於テ新年拜賀ノ式ヲ行フ、客臘賜金ノ恩命ニ接シテヨリ、人心亦自ラ新ナリ。

山崎本縣知事、客臘上京中、太田幹事ト共ニ力ヲ本會ニ盡サル、所多シ、茲ニ於テ一月三日、庶務部長村井恒藏、部員大岩芳逸、參廳シテ新年ヲ賀シ、併テ客歲幹旋ノ勞ヲ謝ス。

宮内省御下賜金壹萬圓、本月五日公然通達書ヲ拜受ス。乃テ速ニ會員ニ告グ、併セテ必要ノ會務ヲ協議セント欲シ、一月八日委員總會ヲ大世古町龍重光ノ邸ニ開ク。此日、明治二十一年一月以後十二月ニ至ル事務成績報告書ヲ配布ス。

明治二十一年五月至十二月神苑會事務成績報告

明治二十一年一月以降ハ、應ニ曠足ヲ展ベテ長大ノ進歩ヲ策スベキノ時ナリ、蓋當時ノ最難件タル 兩宮接近地所并ニ家屋ノ二科ハ、大略其調理ヲ告ゲ、事業實施ノ端ヲ啓發スルト共ニ市街寄附金ノ第一納期ニ接シ、旁ヲ本郡各村ノ成績ヲ報ジ來ルニ會セリ、此時ニ際シテ本會方圖ノ嚮フ所、一ハ速ニ苑地修造ノ續ヲ舉ゲ、一ハ速ニ募集擴張ノ略ヲ定メ、以テ倍々鋪張經營スル所アラント欲ス、而シテ此旨針ニ對スル結果ハ、一月以來四月ニ涉リ、苑地ノ地均、道路ノ修築等、即チ專ラ開苑土木ノ端始ヲ舉ゲ、併セテ粗郡内各村ノ募集ヲ結了セシ事蹟ヲ以テ徵憑スベキノ所也、四月末ニ及ビ更ニ歩ヲ進メテ縣下二十郡ニ向ヒ募集ノ緒ヲ開ク、時ニ縣知事石井君ノ各郡ニ獎勵セラル、アリ、本會亦集經ノ便宜速成ヲ尙ブガ爲メ、豫メ縣下募集ノ法案ヲ立テ、其目途標準ヲ表示シ、各郡衙ニ抵リテ、請フニ督理ノ事ヲ以テセリ、爾來部署ヲ定メテ常ニ係員ノ派出巡回ヲ怠ルコトナシト雖モ、每郡種々ノ情況アリテ未ダ記帳纏了ノ運ニ至ラズ、然レドモ、目下募集中ニアリ、苑地土木ノ續ニ至テハ未ダ遊カニ見ルベキノヲ得ズト雖モ、着々二所ニ向ウテ施工スル所ナクンバアラザ

ル也、凡ソ本會ハ一種特殊ノ協會ニ屬シ、官廳若クハ會社ノ如ク、一定秩然ノ成律的ニ適從セシムルコト能ハズト雖モ、概スルニ寄附金募集及ビ土木施設ノ二件ハ、最首要ノ課程ニシテ、經營上輔車唇齒ノ關係ヲ有チ、双舉駢行始メテ進歩ノ實ヲ望ム所以ノモノ也、今ヤ本年間ノ成績ヲ報ズルニ方リ、須ラク此二件ヲ以テ報告ノ首目ニ置カザルベカラズ、別表ヲ設ケテ其要領ヲ掲グル所以是也、此他諸般ノ常務ニ至テハ、事繁瑣ニシテ逐一臚列ニ暇アラズト雖モ、類聚疏別シテ各表目ニ掲出シ、附スルニ説明ヲ以テシテ展檢參看ノ便ニ資ス、而シテ一月以來ノ施行ニ關シテ、特ニ摘述スベキノ主ナル事項ニ至テハ、之ニ對スル時々ノ旨針ト共ニ左ニ其大要ヲ叙述スベシ

第一項 一月ノ末、神苑計畫ノ豫算書ヲ調製スルニ當リ、大岩芳逸ヲ東京ニ派シテ其著大ノ部目ヲ調整セシム、蓋縣下ノ募集ニ着手スルヲ以テ須要ノ務トナシ、之ガ準備ヲ理センガ爲メ切リニ該書ノ調成ヲ促ガシ、晝夜兼勉二月末ニ及ンデ、成ル、三月ヲ以テ刷行配賦セシ所ノ計畫書即是也、但出京員ハ猶且計畫物ノ稽查ニ關シテ挽留從事、五月ニ及ビ、遂ニ殘務ヲ在京取調員福地復一ニ托シテ歸任ス、時

ニ五月下浣ニシテ、正ニ縣下募集ニ着手シタルノ初期ナリトス

第二項 五月六月以降ニ在テハ、専ラ郡内未決ノ各村ヲ督促シ、及縣下各郡ノ募集ヲ纏ムルヲ以テ要務トシ、幹事ヲ始メ募集其任ヲ負フ者ハ、概ネ各郡ニ奔馳スルヲ事トセリ、次デ七月ニ至リ、遽然縣知事ノ交迭ニ遇ヘリ、此事一時募集上ノ影響ヲ來シ、爲メニ躊躇不振ノ色ヲ呈シタリキ、既ニシテ七月中浣、會員十餘名安濃郡ニ於ル發起贊助者數名ト共ニ、應下ニ前知事ヲ送り、幾モナク更ニ現知事ノ赴任ヲ遂ヘテ、詳細具陳、超前ノ獎勵ヲ被フリ、爾來循々トシテ再ビ力ヲ本事ニ傾ク、而シテ集纏毎ニ期ノ如クナル能ハズ、成績亦全キヲ得ズト雖モ、屈勉從事、以テ完了ノ期ヲ促サント欲セリ

第三項 七月下旬、苑地構造ノ計畫ニ關シ、苑藝家小澤圭次郎氏ヲ東京ヨリ聘致シ、實地ヲ踏査シ、考案ヲ立テシム、其考案ニ係ル意匠ハ、曩ニ刷行報道スル所ナリト雖、本件ハ實ニ千歲景致ノ因テ定マル所、固ヨリ輕忽ノ斷定ニ委スベキニ非ズ、加フルニ參道改更等ノ事、宮城境場ト相關繫スル所ノモノアリ、是ニ於テ十月初旬、太田幹事西京ニ出デ、謁ヲ 久邇宮朝彦親王殿下ニ通ジ、書ヲ呈シ、狀ヲ具ス、

而シテ苑景施設ノ法ニ至テハ、親王殿下又大ニ見ル所ヲ以テ、誨示セラル、是宜シク本會ノ高自標置、出色ノ清案ヲ覈定スベキ所也、願フニ輕舉拙ヲ大方ニ傳フルガ如キハ大ニ取ラザル所ナレバ、他日尙モ適切ノ方圖ヲ講定セント欲ス

第四項 凡ソ主計ノ事ハ公正ヲ以テ信認ヲ憑章セザルベカラズ、土木ノ事ハ練達ヲ以テ精圖ヲ算定セザルベカラズ、本會事務ノ進ムニ從ヒ、益々其爾ルヲ致スヲ要ス、是ニ於テ十月以來、主計及工事ハ二件ヲ以テ、郡衙地方廳ノ監督ヲ請願シ、即チ主計事務ハ郡吏之ヲ督シ、土木工事ハ縣官一員ノ派出ヲ請ヒ、之ニ當ラシム、而シテ土木ニ關シテ苑地實測、起工費目等ヲ查定シ、爾後施行ノ議ヲ決セシハ、十一月十四日ヲ以テ入札請負ニ附セシ三種ノ工事は也

第五項 本會ノ創設ヲ首唱スルト共ニ、神宮ノ古規、神都ノ沿革等ニ就キテ、恬然不問ニ委スベカラザルモノアリ、之ヲ調査スルハ容易ノ業ニ非ズト雖モ、秋季以來、專ラ其概要ヲ拾輯セシメ、十一月末ヲ以テ其數項目ヲ編成スルヲ得タリ、刷行之ヲ願タント欲ス

第六項 十一月初メニ當リ、土方宮内大臣ノ上阪ヲ愛知ニ邀ヘテ、太田幹事具サ

ニ本會ノ情況ヲ陳シ、請フニ巡視ノ事ヲ以テス、後幾クモナク其來臨ニ接セシハ十二月一日ノ事ナリトス、蓋シ特ニ本會ノ事業ヲ實視セラレンガ爲メナリ、當時ノ詳況ハ親シク大臣ニ面謁セシ奉迎員數十名ノ知悉スル所、而シテ同大臣ガ本會ニ對セラル、結果ノ如何ニ至テハ、正ニ他日ヲ俟ツ所也

第七項 宮内省、内務省等ヲ始メ、其他要路貴顯ノ獎勵匡贊ヲ得及ビ總裁會頭以下統督其人ヲ得ルト否トハ、本會將來ノ運命ニ關シ消長伸縮ノ大機ヲ判決スル所也、今ヤ着々經營其緒ニ就クニ方リ、地方的ノ小運動ニ安ンズベキノ時ニ非ズ、而シテ此大機ヲ判決スルハ宜シク中央首府ニ於テセザルベカラズ、縣知事亦大ニ獎示セラル、所アリ、是ニ於テ遂ニ十二月十五日ヲ以テ幹事上京スルコト、ナレリ

以上叙述スル所ハ重モニ運動ノ旨針ヲ見ルベキモノ也、此他諸般處理ノ事件ハ別表中ニ網羅統計スル所ノ如シ

明治二十一年十二月

(別表)

類目	件數若クハ度數	摘 要
合議	六十五	會務上一切須要ノ事件ニ就キ、假會頭幹事ノ裁認ヲ經テ執行處理スル所ノ件々ニシテ、諸般要務ノ由テ起ル所ニ係ル、此他之ヨリ生ズル細務ノ合議ハ數々ニシテ、悉シ難キヲ以テ省ク
會議	五	會務ハ兩部役員及市街各町ノ委員等ヲ會シテ、時々ノ報道若クハ諮詢ヲ開キシモノニシテ、概ネ臨時ノ開會ニ出デ、臨時事件ノ評決ニ屬ス
請願	八	請願ハ重モニ地方廳、神宮司廳、郡役所等ニ對シテ懇願セシ所ノ事實ニシテ、大抵願意ヲ貫通シ運動ノ基礎ヲ定メシモノ也、行政ノ成規ニヨリテ出願セシモノハ、此中ニ加ヘス
派出	四十二	派出ハ概ネ募集ノ爲メ、幹事以下日勤員、募集專務員等ノ巡回セシ度數ヲ算セルモノニシテ、其出張ノ區域ハ縣下二十一郡ニ涉リ、之ガ日數ヲ積算スルトキハ數百日ノ多キニ及ベリ
接遇	十七	接遇ハ概ネ貴顯、紳士、有力者等ノ來遊ニ際シ、他日贊翼ヲ求メンガ爲メ、賓客ヲ以テ待遇セシモノ也
編輯	八	編輯ハ時々ノ必要ニ際シテ、事蹟書、經歷書若クハ緊要ナル文書件ヲ始メ、歴史博物館裝置上ニ關スル稿案、神宮ノ事ニ關スル取調稿案ノ如キ、調製文書ヲ計セルモノ也

明治二十一年十二月現在寄附金統計表

郡名	募 集 額	既 納 額	未 納 額	發起人員	募集人員
度會	五五、九五、一三、一〇	二三、六三、九五、八二	三三、三二、七二、八	一	體
					五八、六

岐阜縣	五〇〇〇	五〇〇〇	
計	九四〇〇〇〇	四九〇〇〇〇	四五〇〇〇〇
			一〇

樹木類寄附表

縣郡名	市町村	樹木員數	人員	器具員數	人員
度會郡	山田村	一六一	一六	二五	四
飯高郡	松坂	二五	三六		
愛知縣	名古屋	一〇	一	雜鯉一萬尾	一
度會郡	宇治村		一村		
	山林地	二畝八步			
	宅地	一反七畝廿八步			

寄附人夫表

人夫總高	市街人夫	村落人夫	出勤人夫	殘人夫
二七〇〇六	七九九一	一五二二二	一三三〇二	三八〇三

自二十一年一月神苑會工事成績表

工事區域	工事種類	間坪個數	既成工事之部		未成工事之部	
			費額	看手中區域	工事種類	豫算額
內宮苑地	宇治館町	長百七間半	五六九六二	宇治幸鈴川石	積三、三五四三四七	
外宮苑地	同	長百六間	七五六二一〇	宇治館町	道路及雨水	
岡中至岡本町	同	長百三間	三五七三六三	豐川町舊田池	掘鑿一、七二二九四	
境須崎川	兩岸石積面	七十坪	三五七三六三			
同	架橋	四間半	一五九〇〇〇			
田中町豐川町	溝敷改修	長三十間	五六四六〇			
境	小石橋修繕	長三十間	五六四六〇			
豐川町苑地	均凡一萬坪餘		一八二二一六			
外宮域內舊田	借	入三反九畝四步				
沼地						
合計			一、五六八二二一		六、一九九六四九	

神苑工事成績表說明

既成工事ノ部

第一 外宮苑地國道改修 家屋撤去ニ次デ着手ヲ要セシハ國道ノ改修是也蓋舊

國道ハ苑地計畫ノ意匠上ニ於テ其風致ヲ損スルノ嫌アルノミナラズ、又 大廟參道ノ便ニ於テ大ニ闕ク所アリ、是レ此改修ヲナスノ已ムベカラザリシ所以ナリ、須崎橋架設并ニ兩岸石積溝敷新設苑地地均、以上ノ工事ハ國道ノ改修ニ連續附帶シテ又已ムベカラザル事業ナリ、而シテ其修築ノ様ハ爾後開苑ニ當リ相適應スルノ意匠ヲ以テ之ヲ修營セリ、其施行ハ專ラ寄附人夫ヲ以テ之ニ充テタリト雖モ、其工事ニ由リテハ公入札ヲ以テ請負ハシメタルモノアリトス

第二 內宮苑地國道ノ改築 起工ノ要旨ハ前項ト異ナルナキヲ以テ之ヲ省略ス、而シテ該工事ニ次デ着手セシモノニシテ、其人夫ハ概ネ寄附ニ係ル夫役ヲ以テ之ニ充テ、實際費消セシ費額即チ表中ニ掲グル費額ハ其人夫使役ニ於ル取締ノ給與并ニ雇人夫其他現使用品ニ要セシモノノミナリトス

未成工事ノ部

第三 勾玉池掘鑿五十鈴川石積 內宮苑地道路修築 以上三項ノ工事ハ目下着手中ノ事業ニ屬セリ、本會創設以來其施行ニ依ル事業ハ一ニシテ足ラズト雖モ、其苑地ノ修營ニ關スル事業ハ此工事ヲ以テ嚆矢トス、故ニ廣ク入札ヲ求メ新聞

紙及近傍戶長役場ニ廣告シ十一月十四日ヲ以テ開票セリ、即其落札人名及金額左ノ如シ

甲號 五十鈴川石積

請負金參千參百五拾四圓參拾四錢七厘 大阪 岸 山 重 朗

乙號 外宮苑地勾玉池掘鑿

請負金千七百拾壹圓貳拾九錢四厘 山田 川 邊 德 次 郎

丙號 內宮苑地道路及雨水拔溝修築

請負金千百參拾四圓八厘 同 平野 久 右 衛 門

附言 本會工事入札ハ從來土木區事務所員立會ノ上施行シ來レリト雖モ、今回ハ苑地計畫ノ工事ナルヲ以テ神宮司廳及郡衙依員モ立會施行セリ、尙目論見豫算書ハ土木區事務所ヲ經テ縣廳ノ檢閲ヲ請ヒ、而シテ廣告ノ上之ヲ實行セリ

明治二十一年度自四月至十一月神苑會收支計算報告書

前年度越高	收入種別	受	拂
		1110160	

神宮補助金		寄附金		雜收入		貸日館收入		借入金		戻入金		支出			
管内寄附	管外寄附	利子貸地料	不用品賣却代	請負保證金	席料茶代	遊覽券賣捌代	不用品賣却代					役員書記手當日當	旅給	諸手敷料	備品
四、〇〇〇〇〇〇	三、九〇五、四六二	二六八、三三四	八、二四〇	二、三三三、一	三八一、〇〇〇	九五、六八八	五一、四一五	七〇〇〇	三、四六一、二〇四	內 七、二六三、九五	借越高	六五、二七七一	一二、七七九〇	四、四、五九〇	一、四、一〇二
										二〇〇〇〇〇					

事務所費		計		工事費		計									
消耗品	印刷費	郵便稅	電信料	運搬費	賄費	雜費	租稅借地料柴草代	修繕費	土木掛月手當	履給	旅費	內宮苑地費	外宮苑地費	苑地計畫取調費	請負保證金
五、一五九〇	六〇、九七五	一、三九三〇	三、九五〇	四、七七九	一、四四九〇	一、二二二、六四	九、五二二、八	一、三三三、一〇	一、一三三、七四六	二、〇〇〇〇	一、三三三、一〇〇	七、四八六、八八	一、〇九七、〇三六	六、八七七、九〇	四、六〇〇〇
															一、二七三、三三、一四

右ハ二十一年度四月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル收支計算及現負債高等書面ノ通相違無之此段報告候也

明治二十一年十二月

神苑會主計部

本會既ニ縣廳ヲ經テ御下賜金ヲ拜受シ、更ニ又之ガ管理ヲ縣廳ニ申請ス。

内宮神苑ハ、俯シテ五十鈴川ノ清泉ヲ掬シ、仰デ對岸ノ山林(丸山、琴ヶ岡、岡田林)ニ面ス、當時此山林皆、民有ニ屬シ、展轉賣買或ハ火災ノ爲メ風致ヲ減損スル數次、是ヲ以テ本會悉ク之ガ購入ノ約ヲ了ス。(其面積丸山二町九反二畝步餘、琴ヶ岡十町五反一畝步餘、岡田林百五十六町四畝步餘、爾後殖林ノ方法ヲ實施シ、永遠ノ風致保存ニ勉ム。

御下賜金拜受ノ故ヲ以テ、自今本會ノ會計ニ關シ、地方廳之ガ監督ヲ加フベキ旨、度會郡衛ニ訓令ノ點アリ、一月二十六日、度會郡長ヨ

リ左ノ通達ヲ受ク。

出達第二號

神苑會

神苑會開設費トシテ、宮内省ヨリ金壹萬圓下賜、本縣ニ於テ管理可致旨、本月五日付第一號ヲ以テ及訓令置候處、自今當廳ヨリ臨時主務ノ官吏ヲ派遣シ、會計上檢査致サス可シ、尤モ平常ハ專ラ其郡役所ニ於テ金錢及物品ノ出納等ヲ監督シ、毎年會計年度毎ニ其豫算及決算當廳ヘ報告致スベキ旨、今般本縣知事ヨリ訓令相成候ニ付、此旨心得ベシ

但本文訓令ニ付、左記ノ廉至急取調、書面ニ通差出スベシ

三重縣度會郡長 滿岡勇之助

明治二十二年一月二十六日

- 一 神苑會ノ組織及設計ノ方法
- 一 同役員及分擔ノ人名
- 一 既往ニ屬スル金錢ノ收支内譯書
- 一 但年度ヲ區分スベシ

一 收支豫算明細書仕譯書様式

一 收支金科目表

但細節迄詳細掲記スベシ

一金錢物品出納順序

但金錢物品ノ收支及其管守方法等ノ類

一金錢物品出納ニ關スル帳簿名及其様式

一 俸給手當旅費辨當料等諸給與ノ方法

一 收支金決算報告ノ方法順序及其様式

一金錢物品收支ニ關スル憑書調理ノ方法

右通達ニ對シ本會左ノ答申ヲ具ス。

神苑會組織

本會ノ要ハ、別冊規則及創立願書ニ基キ、廣ク有志者ノ義捐金ヲ募集シ、神宮宮域外ノ規模ヲ擴張シ、一大神苑ヲ開キ、以テ天下靈境ノ規畫ヲ經理スルニアリ、當初、度會郡宇治山田有志者ノ唱道ニ起リ、明治十九年十二月舊神領内七十二個町村ノ合

意ヲ以テ、創立委員連署請願、其允許ヲ得タリ、因テ此際假會頭ヲ推薦シ、本會一切ノ事務ヲ統督セシメ、庶務主計ノ兩部員ヲ置キ、及募集其他事業上必要ノ爲ニハ、特ニ委員ヲ舉ゲ、又ハ雇員ヲ以テ經理シ來レリト雖モ、會務其緒ニ就キ、愈事務ノ繁忙ヲ告ルニ至リ、二十年七月更ニ内規(別冊章程)ヲ釐整シ、責任者ヲ定メ、以テ會務ヲ分掌セシメ、爾來拮据經營其要ヲ舉ゲ、今ヤ正ニ總裁會頭副會頭及其他役員ノ推薦中ニシテ漸ク本會ノ組織ヲ大成セントスルノ運ニ際會セリ

同設計ノ方法

開苑ノ方法ハ、第一 兩宮接續地第二倉田山神苑トス、其他宮川架橋ノ事等總テ別冊計畫案ニ基キ、順次其事業ヲ經營スルニ在リ、其細節ニ至テハ、實際或ハ變更セザルヲ得ザルモノナキ能ハズト雖モ、其大要ニ至テハ敢テ之ヲ變更セズ、而シテ創立以後既設ノ事業ハ、二見別區賓日館文 兩宮接續地ノ買上民家ノ撤去及道路ノ改修是ナリ、目下着手中ノ事業ハ、專ラ 兩宮神苑ノ造設ニアリ、其方法ハ、毎次仕樣及豫算書ヲ調製シ、寄附人夫又ハ公入札請負等ヲ以テ之ヲ施行セリ、然レドモ其園藝ノ意匠ニ關スルモノハ普通土木法ヲ以テ大成シ得ベキニアラザルヲ以テ、特ニ園

藝専門家ニ委ネ其成功ヲ期シ、次デ第二着步倉田山開苑宮川架橋ノ事業ヲ經營セ
ント欲スルニアリ

日常定日臨時執務分擔人名

假會頭	鹿島 則文
幹事	太田 小三郎
庶務部長	村井 恒藏
庶務	大岩 芳逸
庶務土木專掌	吉川 清三郎
庶務文書專掌	藤井 清司
主計部長	宇仁田 宗馨
主計專務	村田 徳三
同	上野 梧一
同	竹内 善兵衛
同	西田 七左衛門

同	山羽 九郎兵衛
同	小川 宗一
備人名	
三重縣御備 土木專掌	柏木 熊三郎
度會郡役所御原 主計書配	下山 保福
庶務兼募集係	世古口 眞一
募集係	上月 秀三
歴史博物館設置 取會部所御原 調	福地 復一
募集係兼書記	渡邊 漸
臨時雇	
募集係兼雜務	橋爪 佐太郎

主計書記兼雜務	宮本 嘉久三
募集係兼雜務	柴山 佐七郎
測量圖師	藤田 清
外庶務部員	
	山本 伊兵衛
	石丸 弘人
	白井 清右衛門
	山崎 石齋
	辻村 彌八
	久保田 五兵衛
	西井 忠次郎
	岡村 長四郎
	平野 久右衛門
	西川 武右衛門

主計部員

小林 佐平
山中 崔十
大西 六郎兵衛
中西 用亮
佐田 齋次郎
世古口 喜右衛門
野村 四郎兵衛
榎本 三右衛門
秋田 喜助
河村 清兵衛
橋爪 孫七
山下 五郎兵衛
橋村 惣八

橋本 八十八

島田 政充

島田 長兵衛

堀江 徳兵衛

出納事務説明書

- 一 既往ニ屬スル金銀ノ收支内譯書ノ内、十九年度分ハ同年六月中、本會創始ニ付、同月ヨリ二十年三月迄、二十年度分ハ同年四月ヨリ二十一年三月迄、二十一年度分ハ同年四月ヨリ同十一月迄別冊第一號ノ通りニ有之候
- 一 收支豫算明細仕譯書様式ハ、是迄豫算取調書無之候
- 一 收支金科目ハ、二十一年十月以前ニ係ル分ハ、粗、右内譯書下段ノ通ニテ、尙臨時科目廢設等ノ事モ有之候處、同年十一月ヨリ別表第二號ノ通り改正候事
- 一 金錢物品出納ノ順序ハ、別冊第三號ノ通ニテ現金ハ豫備金拾圓ヲ除クノ外、悉皆第百五國立銀行山田支店ニ預ケ置キ、支出ノ時々小切手ヲ以テ引出候事
- 一 金錢物品出納ニ關スル帳簿名及其様式
- 一 俸給手當旅費辨當料諸給與ノ方法
- 右ハ第四號第五號ノ通ニ有之候

一 收支金決算報告ノ方法順序ハ、神宮司廳及郡役所本郡町村戸長役場宇治山田各町等ニ、第一號ノ様式ノ通り報告候事

一 金錢物品收支ニ關スル憑書調理ノ方法ハ、第三號出納概則第三章ニ依リ執行シ、收支報ノ憑號ヲ以テ分チテ順次調理シ、物品ノ受拂ハ第四號ノ通りニ有之候

(附屬添附書類略ス)

太田幹事上京以來、幸ニ貴顯縉紳諸公ノ協贊ヲ辱シ、發展ノ機將ニ近キニアラントス、其書信到ル、毎ニ大ニ會員ノ氣力ヲ鼓舞セリ。二月中旬、

有栖川宮ヲ仰ギテ總裁ニ奉戴スベク、既ニ

熾仁親王殿下ニハ之ヲ御聽許アラセラレ、又松方伯、土方子、佐野子等ノ斡旋ヲ以テ、宮内次官吉川友實伯ヲ會頭ニ推薦スベク、内定セラレタルノ報ニ接ス。茲ニ至リテ本會創立員ノ感喜殆ド名狀シ難シ。

尋テ會員ノ感佩恐悅ニ堪ヘザルノ報道ヲ得タリ、曰ク三月四日
皇太后宮・皇后宮兩陛下ヨリ金五千圓ヲ本會ニ御下賜アラセラ
レ、吉井會頭宮内省ニ於テ之ヲ拜受セラルト。嗚呼、本會ノ光榮何ゾ
之ニ加ヘン。

本會趣旨規則ハ、曩ニ創立ノ際ニ設定セル所ニシテ、未ダ以テ規畫
其完ヲ得タリト云フベカラズ、要スルニ組織成立ト相須ナテ之ガ
整備ヲ期スベキナリ。而シテ太田幹事上京以來、着々成立ノ機運ニ
嚮フ、是ニ於テ奔走ノ傍ラ、自ラ督シテ之ガ修正ニ任シ、本月初旬ニ
至リテ調成ス、附スルニ圖案及豫算書ヲ以テシ一小冊子ヲナセリ、
未ダ評議ヲ經ザルヲ以テ姑ラク題シテ假規則書トス、近日諸賢ノ
清議ヲ待ツ所ナリ、其案左ノ如シ。但其主意書ハ同幹事ノ依囑ニヨ
リテ堤正勝ノ撰スル所、又神苑計畫案ニ屬セル歴史博物館建築圖

并ニ館内裝置ノ圖案等ハ、福地復一ノ擔當調査ニ成レリ。當時既ニ
總額百貳拾萬圓ノ豫言ヲ撒シ、之ヲ四拾萬圓ニ改更セルハ、彪大浮
誇ノ嫌ヲ去リテ、着實妥當ノ進路ニ就ケルモノナリ。

(別冊) 神苑會假規則附計畫豫算書

神苑會開設ノ主意書

我伊勢ノ

大廟ハ、

天祖ノ靈ヲ祀ル所ニシテ、古昔神都ト稱シ、歷朝ノ尊奉スル所、億兆ノ仰敬スル所
ナリ、故ニ古來全國ノ民、皆此地ニ至リ、
神廟ヲ拜スルヲ以テ、畢生ノ至願トシ、遠邇ヲ問ハズ、老幼ヲ論ゼズ、日夜踵ヲ接シテ
輻湊スル者ハ、

天祖ノ德澤深ク億兆ノ腦髓ニ沁洩スルヲ以テナリ、何トナレバ、

天之御中主神天地ヲ開キシヨリ、始テ斯土アリ、

伊邪那岐神、

伊邪那美神アリテ後、始テ人民アリ、

天祖民ニ紅織ヲ教ヘ、農植ヲ察シテヨリ、始テ衣食アリ、且天神ノ遺緒、

天祖ヲ待チ始テ定リ、億兆生々ヲ遂グルヲ得、故ニ

天祖ハ即チ斯土ノ

本主ナリ、人民ノ

宗主ナリ、衣食ノ

始祖ナリ、斯三者ハ、

天祖ノ子孫、永ク斯土ニ君臨シ、斯民ヲ治ムベキ、萬世不易ノ大權ニシテ、彼ノ萬國ノ民アリテ後チ、始メテ君ヲ立ル者ト、同日ニ論ズベカラズ、是レ全國ノ人民、神都ニ廣至シ、參拜シテ、

皇澤ヲ謝スル所以ナリ、夫建國ノ體、斯ノ如ク、億兆ノ心亦斯ノ如シ、故ニ發シテ尊王愛國トナリ、結デ忠勇義烈トナリ、延テ國俗民風トナル、是我國ノ英華精粹、宇内ニ冠絶シテ、獨立ノ精神ヲ無窮ニ維持スル所以ナリ、願フニ

天祖ノ威德、天壤ト窮リナキ者ハ、蓋シ此ヲ以テナリ、夫レ我國ノ宇内ニ獨立シ、皇統一姓、聯綿數千年ノ久シキニ傳フル所以ノモノハ、

天祖建國ノ基業、最モ鞏固ナルニ因ルト雖モ、亦

列聖ノ能ク遺旨ヲ承ケ、億兆ヲ愛育シ、感發振興、能ク彼ノ固有ノ國俗ト、絕美ノ民風トヲ保持スルノ致ス所ナリ、故ニ愈久フシテ愈堅ク、以テ今日ニ至ル、然レドモ民風ノ移リ易キ、水ノ如ク、世態ノ變シ易キ、雲ノ如シ、今ヤ宇内風氣ノ推遷、一瞬ノ中ニ百轉ス、而シテ其轉ズル者、未ダ必シモ皆善ナラズ、唯恐ラクハ吾固有ノ美俗良風、或ハ之レガ爲メニ推移スル者アランコトヲ、夫國俗民風ノ淳漓ハ、必ズ國家ノ汚隆ニ關涉ス、察セザルベケンヤ、慎レザルベケンヤ、維新以前ニ在テハ、全國ノ人民、來テ大廟ヲ拜スル者、毎歲七十萬ニ下ラズ、維新以後、漸次其數ヲ減ズ、是レ特リ神都舊來ノ規模ヲ失フノミナラズ、宮城ノ地ト雖モ、亦從テ衰廢ヲ極メ、天下無比ノ靈地ヲシテ、寒煙荒草ノ間ニ埋沒セシム、嗚呼、

天祖ノ威德、豈茲ニ至テ衰ンヤ、

聖朝ノ億兆ヲ愛スル、豈茲ニ至テ薄カランヤ、而シテ人民ノ廣至シテ、

皇澤ヲ謝スル大ニ曩昔ト異ナル者ハ、豈宇内ノ風氣ニ移サレ、漸ク其舊ヲ失フ乎、將
 タ億兆ノ腦髓ニ存スル者、時アリテ微ナル乎、抑英華精粹ノ氣、卒ニ曩昔ニ如カザル
 乎、民風ノ淳漓、其係ル所、決シテ細ナラズ、而シテ全國民風ノ淳漓ヲ舉ゲテ、之ヲ一
 ノ下ニ徵證スベキ者ハ、宮城ノ景狀ヲ觀テ、之ヲ推知スル、ヨリ確實ナルハナシ、吾
 儕日夜其衰頹ヲ目撃シ、流涕ニ堪ヘズ、因テ自ラ力ヲ揣ラズ、同志ト相謀リ、宮城外
 ノ規模ヲ恢弘シ、仰敬ノ微衷ヲ致サント欲シ、茲ニ神苑會創設ノ舉ヲ首唱シ、以テ全
 國ノ同胞ニ告グ、抑神苑ノ舉タル先ヅ、宮城接近ノ地ヲ購求シ、人家ヲ撤去シ、宮
 城外ノ規模ヲ恢弘ニシ、此事已ニ竣工ヲ告グレバ、即チ歷世ノ風俗ヲ徵ス可キ、歴史
 博物館ヲ倉田山ニ建設シ、之ニ附スルニ圖書室ヲ以テシ、廣ク内外人ノ觀覽ニ供シ、
 學者美術家ノ博考ニ資セントス、嗚呼吾全國ノ同胞、斯土ヲ履マザレバ、則チ已ム、苟
 モ斯土ヲ履ム、誰カ
 本主ノ澤ヲ念ハザラン、人タラザレバ、則チ已ム、苟モ人タリ、誰カ
 宗主ノ德ヲ念ハザラン、衣食セザレバ、則チ已ム、苟モ衣食ス、誰カ
 始祖ノ恩ヲ念ハザラン、況ンヤ

天祖ノ子孫現ニ斯土ニ照臨シ、斯民ヲ愛育シ、中興無比ノ昭代ヲ開ク、其德ノ高ク、其
 澤ノ深キ、曾ニ天覆地載ノミナラズ、而シテ斯民ノ此恩ニ報ルハ、即チ
 天祖ニ報ル所以ナリ、願フニ吾儕ノ此舉アル、亦唯臣民ノ本分ヲ盡シ、
 皇恩ノ萬一ニ奉答スルニ過ギズ、冀クハ全國ノ同胞、遠クハ
 天祖ノ威德ヲ念ヒ、近クハ昭代ノ洪恩ニ答ヘ、此舉ヲ贊成アランコトヲ、若シ同胞ノ
 力ニ藉テ、此志ヲ達スルヲ得バ、獨リ
 神ノ威德ヲ顯カニスルノミナラズ、我國精粹ノ氣ヲ發揚シ、愛國ノ心ヲ振作シ、國家
 獨立ノ業ヲ擁護スルニ於テ、亦豈尠少ノ裨補ナシト謂ンヤ、因テ謹デ同胞ノ諸彦ニ
 告グ、

明治二十一年十二月

三重縣下發起有志者六百十五名恐惶頓首

神苑會假規則書

第一條 本會ハ神苑會ト稱シ、神宮宮城外ノ規模ヲ整理シテ一大神苑ヲ開キ以
 テ、皇祖ノ神德ヲ顯揚シ且歷世ノ風俗ヲ徵スベキ歴史博物館ヲ建設シ内外庶
 人ノ觀覽ニ供セントス

第二條 本會事務所ハ三重縣度會郡宇治山田及東京ノ二個所ニ設置ス

第三條 事業資金及保存資金ハ三重縣内ニ於テ募集ノ餘汎ク全國有志者ノ義捐金ヲ募集ス

但シ募集金及事業費ノ豫算ハ別紙之ヲ定ム

第四條 前條ノ資金ハ明治二十一年一月ヨリ同二十五年十二月ニ至ル五個年ヲ期シテ募集ス

但金額ノ充否ニヨリ募集期限ヲ伸縮スルコトアルベシ

第五條 募集總額五分ノ四ヲ以テ創立并ニ事業ニ要スル一切ノ費途ニ充テ剩餘五分ノ一ヲ以テ保存資金トス

第六條 保存資金ハ縣廳ノ保管ヲ請ヒ利倍増殖ノ法ヲ圖ルモノトス

第七條 寄附金募集中ハ一個月毎ニ取纏メ之ヲ本會ト特約セル銀行ニ預ケ利倍増殖ノ法ヲ圖ルベシ

第八條 寄附金募集ノ方法ハ別ニ條定スル所ノ取扱順序ニ照準スベシ

第九條 寄附ノ金額ハ多寡ヲ論ゼズト雖モ金百圓以上ニ及ブモノヲ特別會員ト

シ拾圓以上百圓未滿ノモノヲ通常會員トシ各其證票ヲ付與ス

第十條 寄附金募集濟ノ上ハ人名及金高ヲ卷軸ニ明記シ之ヲ永遠ニ保存シ又金百圓以上ノモノハ之ヲ石材ニ彫刻シテ苑中適宜ノ地ニ建設スベシ

第十一條 本會ノ土木工事ハ總テ三重縣廳ニ意見ヲ具陳シテ其監督ヲ仰グモノトス

第十二條 本會ノ出納ハ度會郡役所ノ監督ヲ請ヒ其取扱ハ總テ官廳ノ成規ニ準フモノトス

第十三條 本會會員ノ推薦ヲ以テ總裁一名會頭一名副會頭一名評議員若干名及幹事若干名ノ役員ヲ置ク

但幹事二名ニハ相當ノ給料ヲ支給シ專ラ其事務ニ當ラシム

第十四條 總裁ハ本會一切ノ事務ヲ統督ス

第十五條 會頭副會頭ハ常ニ總裁ヲ補佐シ或ハ總裁ニ代リテ幹事以下ノ役員ヲ指揮統督ス

第十六條 幹事ハ總裁ノ意ヲ承ケ一切ノ庶務ヲ整理ス

第十七條 本會ノ事務ヲ處理スル爲メ、事務所ニ庶務及主計ノ兩部ヲ置キ部長各

一名、部員若干名ヲ會員中ヨリ選任シ各事務ニ從事セシム

但事務員ニハ相當ノ給料ヲ支給ス

第十八條 歴史博物館ノ設立ハ別ニ委員若干名ヲ置キ之ヲ取調ブルモノトス

第十九條 本會事業ノ伸縮變更等ハ必ズ評議員ヲシテ評議セシムルモノトス

第二十條 本會事業ノ伸縮變更等ハ總テ評議員ノ議決ニ由ルト雖モ總裁又ハ總

裁ニ代リ會頭副會頭ハ其議決ニ障礙アリト認ムルカ或ハ事急遽ニ出ヅルノ場

合ニ於テハ其議決ニ係ハラズ獨斷專行スルコトアルベシ

第二十一條 毎年四月ヲ以テ特別會員ノ總會ヲ開キ出納報告書ヲ檢シ及本會將

來ノ事件ニ關スル意見ヲ開陳セシムルモノトス

但開會期日ハ一箇月前新聞紙ヲ以テ報道ス

第二十二條 本會ノ規則ハ評議員議決ニ依リ總裁ノ認可ヲ經テ之ヲ改訂増補ス

ルコトヲ得

第二十三條 本會議事細則ハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

寄附金募集取扱順序

第一條 寄附金募集ハ主トシテ三重縣内ニ於テ醜集シ其餘ハ總裁ノ指定ニ依リ

便宜ノ方法ヲ設ケ各府縣ニ於テ之ヲ募集スルモノトス

第二條 募集委員ハ應募者ノ姓名及金高等ヲ記帳シテ本會ニ復命スルニ止マル

モノトス

但募集委員ニハ其權限ヲ明記シタル委任狀ヲ携帯セシム

第三條 有志者ハ其住所姓名及金高ヲ詳記シテ最寄銀行へ回金シ銀行ニ於テハ

金額記入姓名簿ニ照シ假領收證ヲ交付スベシ

第四條 前條ノ手續ニヨリ之ヲ徵收スト雖モ本會ハ更ニ該金取纏ノ爲メ徵收委

員ヲ派遣スルコトアルベシ

第五條 徵收委員ニ於テ直ニ金員ヲ領收シタルトキハ左式ノ受取證ヲ交付スベ

シ

但銀行ノ假領收證ハ本條ノ受取證ト交換スベシ

寄附金受取證

一金若干

右ハ本會規則第一條ノ趣旨ニ因リ御寄附相成正ニ領收致候也

年 月 日

神 苑 會 印

同會寄附金徵收委員

何 之 誰 印

縣 郡 町 村

何 某 殿

第六條 徵收委員ハ前條ノ手續ヲ經タル領收金高及姓名ヲ詳記シ、一週間毎ニ本會ニ報告スルモノトス

第七條 本會ニ於テハ前條報告ヲ得タルノ後更ニ新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告スベシ

第八條 記帳ノ金額ハ一時ニ徵收スト雖モ、寄附者ノ都合ニ依リ募集期限中三回ニ回金スルモ妨ゲナシ

第九條 本會ハ左ニ列記スル所ノ銀行ニ委託シテ各地方最寄ノ寄附金ヲ取扱ハシム

東京 何銀行

大阪 何銀行

其他各地ノ銀行

第十條 寄附金ハ前條ニ記載シタル銀行及徵收委員ノ外一切取扱ハザルモノトス

神苑計畫案

神 苑

兩宮接近ノ地ハ固ヨリ靈秀靜潔ヲ要ス、然ルニ市屋コレニ接シ久ク猥雜塵囂ノ區トナル、是レ時ニ

神威ヲ潰スノミナラズ亦火災延燒ノ虞ナキヲ保セズ、捨テ修メザレバ則チ崇敬ノ意ニ背カン、因テ其地ヲ購求シ其家屋ヲ撤去シ、塵囂ノ區ヲ變ジテ靈秀ノ境ト爲シ、四方參拜ノ徒ヲシテ、一步其境ニ入レバ肅然崇敬ノ念ヲ起サシメントス、因テ現今着手ノ概略ヲ左ニ録ス

内宮神苑

五十鈴川ノ流ニ沿ヒ宇治橋以內、宮域ヲ限リ九千六百三十餘坪ノ地ヲ理シ、中央ニ大道ヲ開キ左右ニ松櫻楓樹ヲ雜植シ四時ノ風致ヲ添フ、又川東ニ峙立セル丸山及琴ヶ岡二丘ヲ取り更ニ其趣ヲ補ヒ、山ノ巔ニ亭舎ヲ建テ、猶其四邊ニ植ウルニ楓樹ヲ以テス、凡ソ神苑ノ周圍ニハ環ラスニ鐵柵ヲ以テシテ莊嚴ヲ添ヘントス

外宮神苑

北御門ヨリ宮南ノ地ヲ通ジ豊宮崎ニ至ルマデ一萬五千二百五十餘坪ノ地ヲ開キ池ヲ鑿チ橋ヲ架シ、又其餘流ヲ以テ苑地ヲ中分セシメ、處々ニ小丘ヲ築キ、或ハ迂路ヲ開キ櫻松梅等ヲ植エ、其他小亭ヲ設ケ床儿ヲ置キ來拜者ニ便ニス、且園道ニ沿ウテ鐵柵ヲ環ラスコト 內宮ノ苑ニ等シ

歴史博物館

歴史博物館ハ神苑ニ屬スル者トス、此館ヲ設ル所以ハ、我國古來ノ風俗及文物技藝ノ沿革ヲ知ラシムルニアリ、館内ニ凡百ノ諸物ヲ陳シ、時代ニ就テ事物ノ沿革ヲ知ラシメ、又事物ニ就テ各時代ノ沿革ヲ示シ、以テ世運推遷ノ次第、文物ノ盛衰

ヲ審ニセシム、其裝置ノ法先ヅ區ヲ分チ室ヲ殊ニシ、室毎ニ皆沿革一覽圖ヲ掲ゲ變遷ノ大要ヲ示シ、其下ニ徵證物タル古器物、古書畫及模造物、想像畫、模寫圖ヲ排置シ以テ徵證物トシ、物毎ニ説明票ヲ附シ、觀者ヲシテ先ヅ一覽圖ニ就テ其大要ヲ領シ、徵證物ニ據テ其詳細ヲ檢覈穿鑿セシメント要ス、因テ陳列ノ目ヲ左ニ示ス

(甲區) 時代ニ就キテ事物ノ沿革ヲ示ス

第一室 神代 家居 祭禮 戰爭 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品
人皇初代 朝廷 祭祀 葬儀 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品

第二室 推古時代 朝廷 交聘 佛寺 講學 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品
奈良朝時代 佛會 奏樂 美術 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品

第三室 延喜時代 朝廷 儀式 宴會 歌會 講學 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品
源平時代 軍裝 軍陣 奏樂 行幸 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品
鎌倉時代 兵家 佛寺 行遊 供養 儀式 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品
南北朝時代 軍陣 朝儀 佛會 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品

第四室

足利時代 邸宅 茗宴 田樂 製作 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品
豐臣時代 武術 軍陣 外交 貿易 航海 建築 製造 等ノ様ヲ示スベキ圖畫及物品

第五室

徳川時代 武家、狩獵、講學、武家、儀式、寺院、歌舞、宴會、行裝、大名邸宅、祭
禮、朝廷ノ儀式、學校、演武、釋奠、法會、製造、關驛、農作、漁獵、商
賈、相撲、婚禮、能樂、演劇、習禮、茶宴、旅行、江戸市中、軍裝、維新
前後風俗 等ヲ示スベキ圖畫及物品

(乙區)

事物ニ就キテ各時代ノ沿革ヲ示ス

第一室

容飾(容貌、風姿、頭髮、鬚眉、化粧、浴類)
飲食(飲食物、調理、調膳、廚器具類)
衣服(衣服、冠帽、履襪、服玩、布帛類)
宮屋(家屋、建具、室內裝飾物、庭園類)

第二室

文藝(文字、文章、諸學術、圖畫、學校、文庫、文房具類)
美術(繪畫、音樂、詩歌、書類)
遊藝(雅藝、戲曲、玩弄類)
醫藥(醫術、藥物類)

第三室

農業(農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類)
工業(工業、製作、建築、土木、造船、採鑛類)
運輸(交通、運搬、船舶、車駕、橋梁類)
商賈(商業、貿易、貨幣、證券、度量衡類)

第四室

宗教(宗教、巫占類)
道德(道德、禮儀類)
政治(政治、法律類)
兵事(兵事、武藝類)

附屬 圖書室

本室ニハ專ラ皇典和書ヲ集メ、傍ラ漢籍及諸學術雜書洋書ヲ備ヘ、廣ク諸人ノ緝
閱ヲ許シ、國史ヲ案シ古今内外ノ智識學藝ヲ探究スルニ便ナラシム

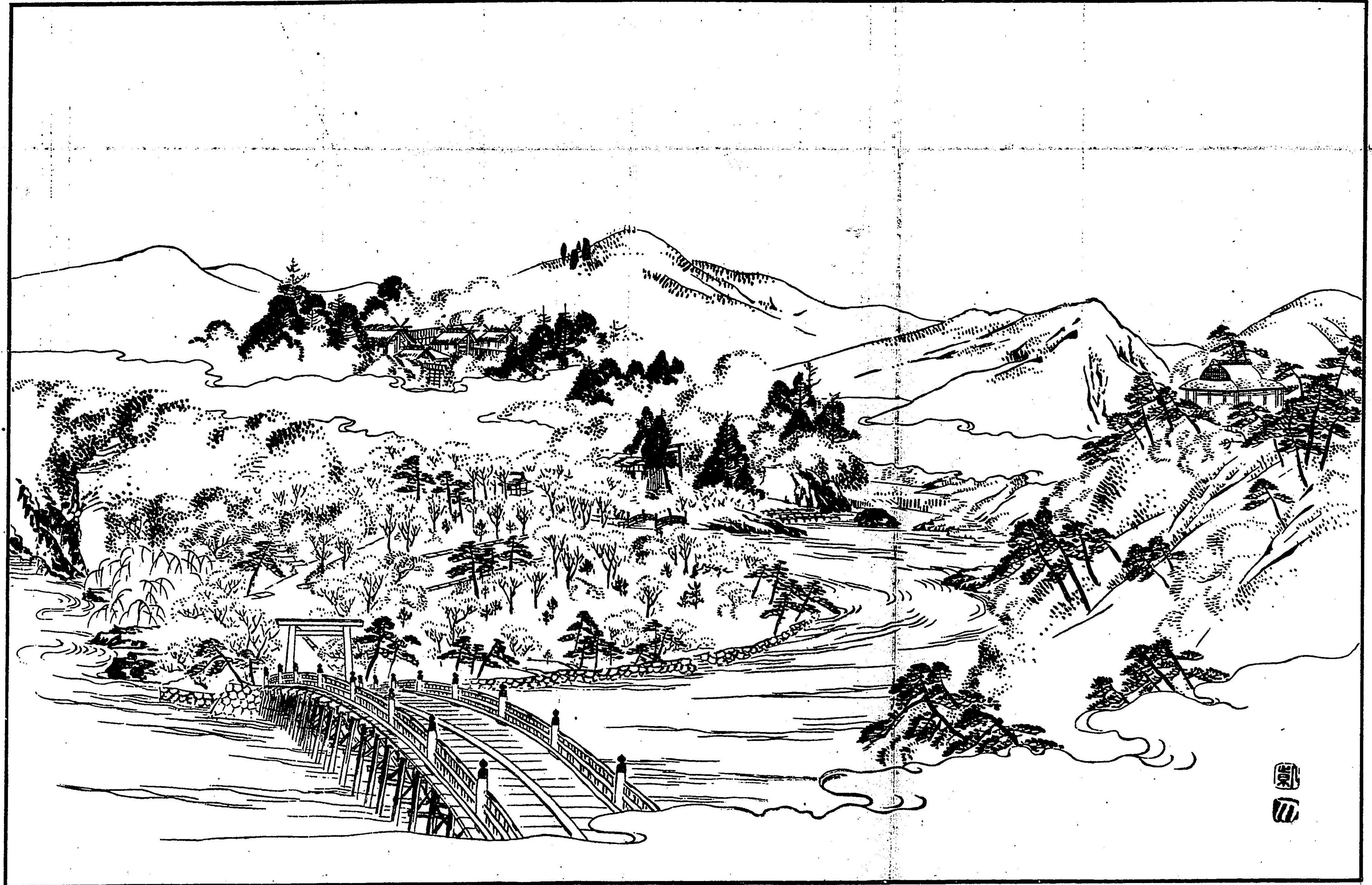
附屬 徵古園

徵古園ハ上古ノ風俗ヲ徵スベキ遺跡古物ヲ模シ、横穴、竪穴塚、穴古墳及埴輪立物
石棺陶棺石人石馬、貝塚、土器塚、環狀石籬等ヲ模造設置シ、以テ考古ノ資料ニ供シ



第四編 創立第四期 明治二十二年
風俗文物ノ沿革ヲ知ラシム

內宮神苑圖



景
四

外宮神苑圖

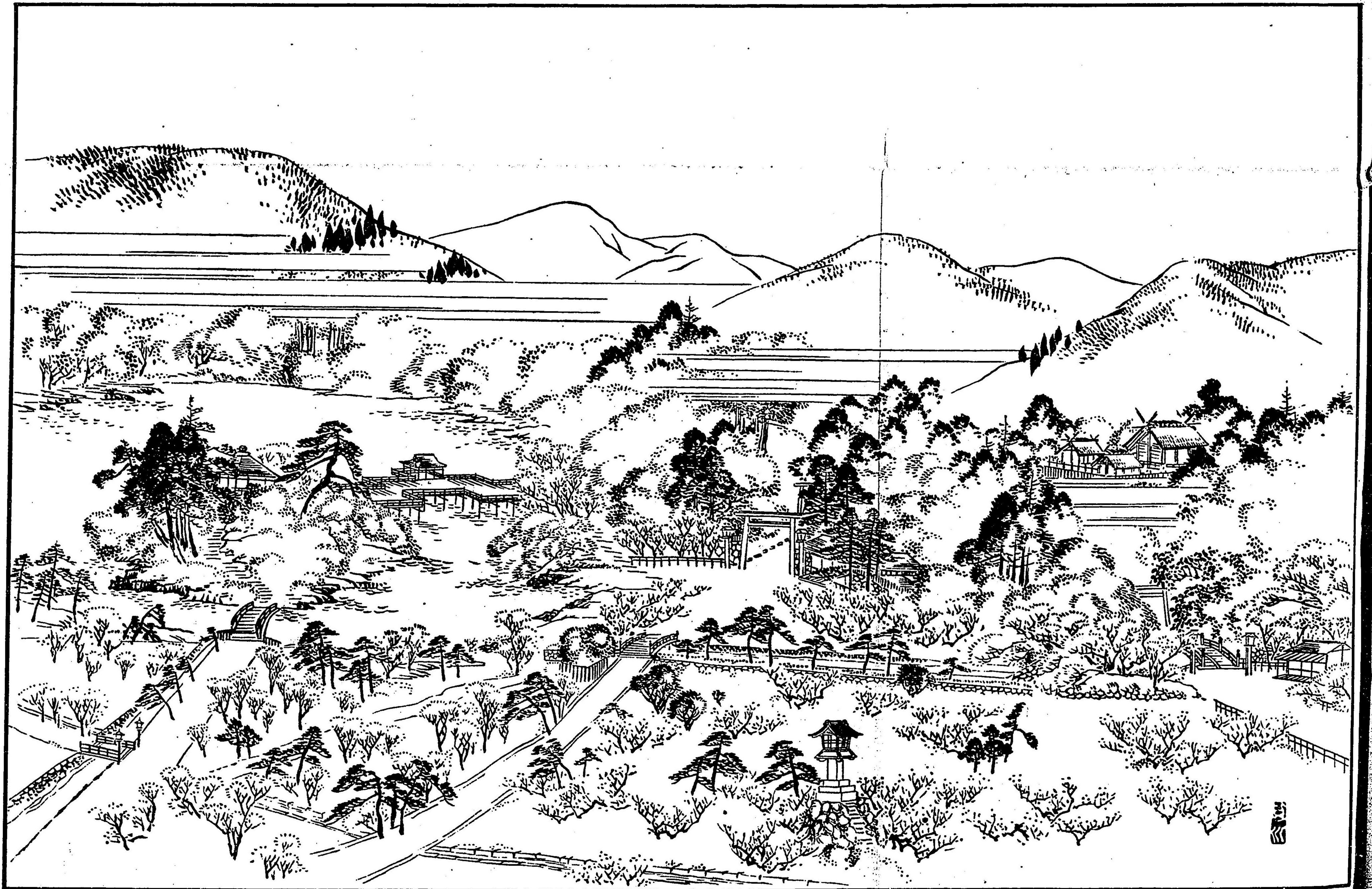
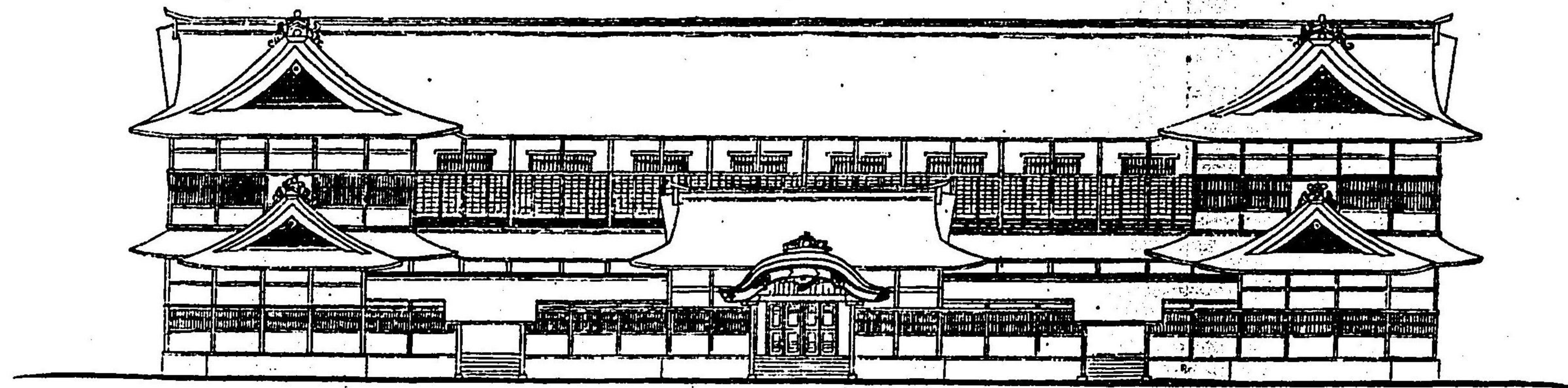


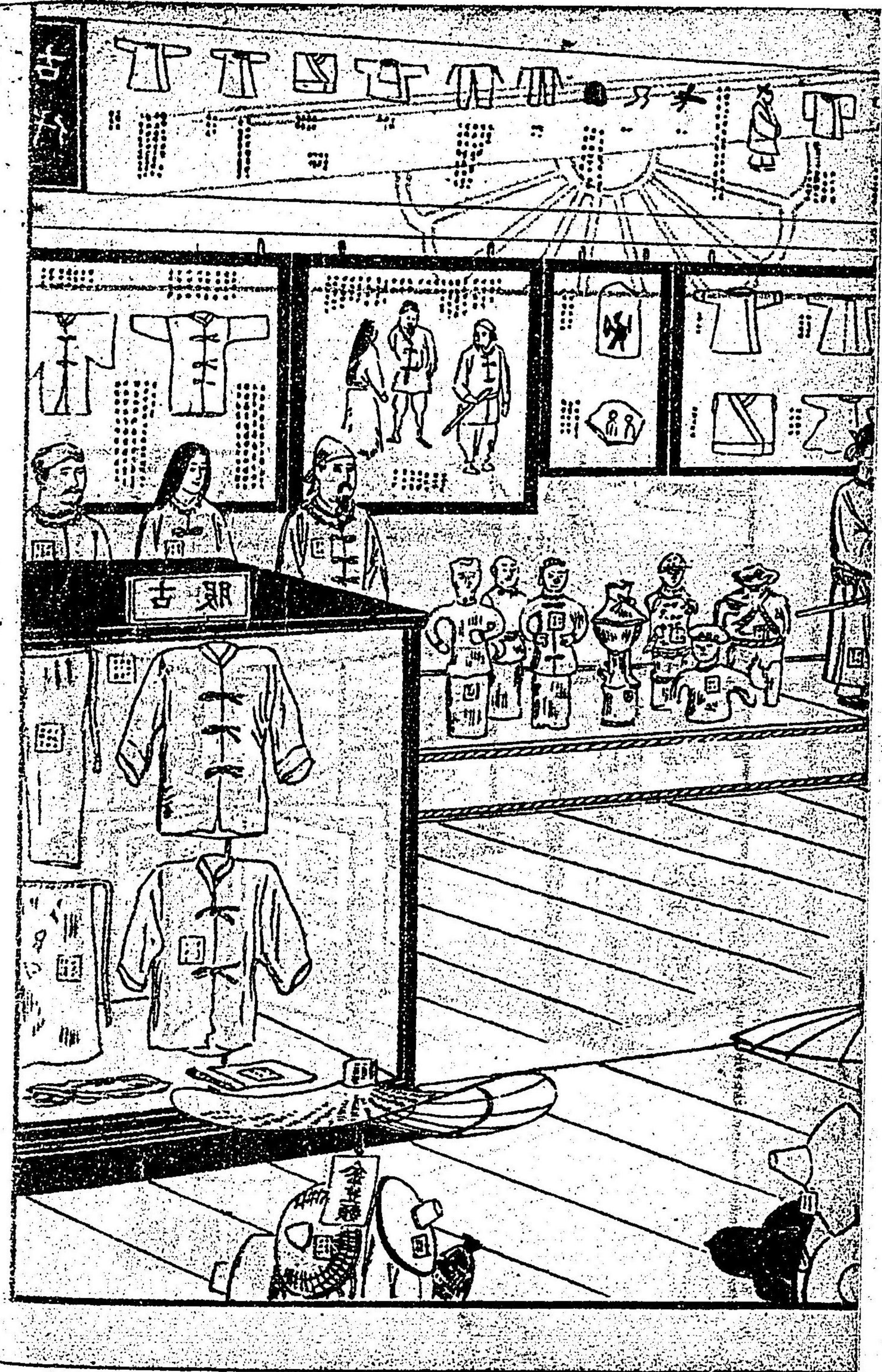
圖 築 建 館 物 博 史 歷



歷史博物館物裝置圖

(乙區衣服部)





豫算概目

一金四拾萬圓也

內 譯

金八萬九千四百七拾圓貳拾四錢九厘

金拾八萬千七百貳拾九圓七拾五錢壹厘

金貳萬五千圓也

金貳萬參千八百圓也

金八萬圓也

計金如元

第一着兩宮接續地開苑費豫算仕譯書

一金八萬九千四百七拾圓貳拾四錢九厘

內 譯

金六千百參拾八圓六拾參錢八厘

但內宮宇治字館町地坪八千三百三十八坪五合五勺同字丸山及字琴ヶ岡山林

兩宮神苑地買上代

募 集 金 總 額

第一着兩宮接續地開苑費

第二着歷史博物館

歷史博物館設立豫備費

創 立 經 費

保 存 資 金

地坪四萬千二百二十七坪外宮山田字豐川町外二個町一萬千五百一坪七合此合坪六萬七百七十七坪二合五勺

金貳萬七百參拾七圓八錢七厘

兩宮神苑地家屋立退代

但家屋百六十九戶此坪四千三百三十坪八合九勺八才

金貳千五百貳拾六圓七拾八錢貳厘

兩宮宮城改修費

但參道改修溝緣花崗石鋪詰延長五百七十二間新規石垣幅六尺高五尺五寸延長六百二十一間新堀幅九尺深六尺延長三百五十四間兩側石積共

金參千八百九拾參圓拾四錢也

兩宮道路改修費

但延長五百三十五間五分五厘兩側溝緣花崗石鋪詰共

金參千八百九拾五圓七錢也

兩宮神苑地均費

但丸山琴ヶ岡及勾玉池園道里道ノ坪數ヲ除キ殘リ一萬八千五百四十六坪九合五勺

金五百圓也

兩宮神苑小徑費

但延長千九百四十間幅三間

金參千七百六拾壹圓拾五錢也

兩宮神苑植物費

但植木三千六百三十個并芝植付風除手當共

金貳千八百六拾貳圓也

兩宮神苑景石代

但景石二千八百六十二個

金壹萬貳千九百七拾五圓五拾貳錢也

兩宮鐵柵費

但鐵柵延長四百七十六間八步土臺花崗石尺角式側積及外側三尺通花崗石鋪詰据付共

金五百五拾圓也

兩宮鐵御門柱

但菊御紋同唐草模様ノ御門柱三組燈籠六個据付共

金八百六拾六圓四拾五錢也

兩宮苑地溝堀費

但延長三百間幅三尺五寸深平均六尺兩側石積共

金參千參百五拾四圓參拾四錢七厘

內宮五十鈴川石積費

但高十六尺延長百八十四間八步

金千六百六拾五圓也

內宮丸山琴ヶ岡道路費

但延長四百六十六間幅三間

金八千參百六拾圓也

內宮丸山新館建築費

但建坪百十八坪雜作疊建具瓦石共

金千五百圓也

同新館付倉庫并備品

但倉庫十坪一棟

金千五百參拾七圓五拾錢也

內宮丸山琴ヶ岡植物費

但楓櫻千五百本植付及風除ヶ手當共

金參百圓也

內宮苑地并腰掛小休所三棟

但館町二個所琴ヶ岡一個所

金五百圓也

兩宮神苑燈銅製二基

但木造常夜燈ノ最好狀形ヲ模シ青銅ヲ以テ鑄造ス高一丈土臺石垣高五尺

金千八百貳拾五圓拾四錢四厘

外宮勾玉池堀鑿費

但此坪四千三百五十四坪六合平均深二尺七寸水門石垣及周圍杭打一ト通
三百四十五間二步

金五百四拾參圓也

同勾玉池畔築山費

但築山石組植木職手間共

金千五百拾貳圓也

同勾玉池橋殿及架橋費

但橋殿十二坪并架橋長二十六間幅二間橋臺石垣共

金參百五拾圓也

同大石燈籠一基

但勾玉池畔雪見形石燈籠高一丈以上

金參百圓也

同小休所并腰掛三棟

但梅林中一個所勾玉池畔二個所

金參百五拾七圓參拾六錢參厘

同須崎川改修

但深七尺幅一丈延長三十間景石取雜兩側石積

金百五拾圓也

同須崎川架橋

但木橋長二間半幅四間

金千圓也

兩宮燈籠

但玻璃燈臺百基

金五千百參拾六圓七拾五錢八厘

二見浦資日館建築費

但建坪百八十坪三合

金五百四拾參圓參拾錢也

同 鋪地買上

但地坪九百四十六坪

金千八百參拾圓也

同 倉庫及備品

但倉庫十一坪一棟

計金如元

第二着歴史博物館建設費豫算仕譯書

一金拾八萬千七百貳拾九圓七拾五錢壹厘

博物館建設費

此 譯

金六萬五千六百貳拾圓也

本館建築費

但木造二階建四百二十坪内外裝飾費共

金千八百圓也

倉庫建築費

但土藏二十四坪

金貳千貳百參拾圓也

附屬舍建築費

但附屬舍三棟總坪四十五坪

金千參百五拾參圓五拾錢也

周圍木柵并ニ木造門建設費

但木柵長二百六間木造門三個所

金七千六百六拾八圓也

掛員諸給料

但取調及設備ニ關スル掛員三個年分給料

金千八百圓也

學藝委員謝禮金

但三個年分

金千八拾圓也

取調物品採集ニ關スル旅費

但三個年分

金千貳百六拾圓也

取調ニ關スル謝禮費

但三個年分

金七百五拾六圓也

取調假陳列所家賃

但東京京都伊勢三個年分

金九百圓也

但筆紙墨薪炭油車賃等三個月分

金千貳百六拾圓也

但車賃郵便賃筆紙墨等三個月分

金百四拾壹圓也

但雜具三百點代

金九千八百圓也

但一萬部代

金壹萬貳百拾五圓也

但大幅畫百九十五枚中幅畫三百八十枚小幅畫四百七十枚

金四萬七千參拾五圓也

但八千五百七十品代

金八千七百四拾圓也

但三百八十品代

取調ニ關スル諸雜費

物品調製并ニ採集ニ關スル諸雜費

假陳列所用雜具代

圖書買上代

畫料

陳列物品買上代

物品模造料

金七千八拾七圓五拾錢也

但千三百二十品代

金千貳百九圓六拾錢也

但三個月分

金參百六拾圓也

但筆紙墨薪炭油車賃等三個月分

金參百八拾四圓也

但小使三人三個月分

金千百貳拾五圓也

但一個月百五十回運賃三個月分

金參千五百四圓參拾參錢壹厘

但築園并ニ古代遺跡模造費共概算

金七千五百五拾壹圓八拾貳錢也

但反別二十一萬七千六百八十五坪三合六勺

裝置用具代

陳列物修繕費

裝置陳列ニ關スル諸雜費

小使雇料

物品運送賃

附屬園設置費

倉田山買上代

計金如元

一金貳萬五千圓也

一金貳萬參千八百圓也

一金八萬圓也

總計金四拾萬圓也

歴史博物館設立豫備費

創立經費

保存資金

三月七日、總裁殿下、親シク三條内大臣・山田司法大臣・土方宮内大臣・吉井宮内次官・松方大藏兼内務大臣・谷中將・副島樞密院顧問官・佐野樞密院顧問官・佐々木樞密院顧問官・山尾宮中顧問官・花房宮中顧問官・杉皇太后宮大夫・香川皇后宮大夫・芳川内務次官・渡邊大學總長・九鬼圖書頭・高崎東京府知事・櫻井内事課長・國重社寺局長・飯田内藏助・原六郎西村虎四郎・澁澤榮一・岩崎彌之助・松尾儀助・鹿島則文・太田小三郎ノ諸氏ヲ霞ヶ關ノ御邸内ニ會シテ評議員ヲ囑託シ、本會ノ事ヲ議セシメ、又副會頭ノ選任未ダ決セザルヲ以テ、特ニ渡邊洪基

ヲ指定シ給フ。評議員并ニ副會頭皆直々ニ命ヲ奉ゼリ、會頭吉井伯趣旨規則ノ草案前掲假規則書ヲ提出シテ評議ニ附ス、審議ノ末、其要綱ヲ定メ、委員五名ヲ舉ゲテ修正ヲ托スルニ決ス、殿下乃チ佐野芳川・櫻井・澁澤原ノ五氏ヲ指命セラレ、了リテ晚餐ヲ賜フ、而シテ會頭吉井伯、伊勢出張ノ事モ亦此席ニ於テ定マル。

此日參殿ノ諸氏ハ、太田幹事上京以來、屢々往訪シテ其匡贊ヲ請ヒ指導ヲ仰ギシ所蓋本會進運ノ樞軸ナリ、而シテ之ヲ率キルニ會頭吉井伯ノ聲望ヲ以テシ、之ヲ統ルニ總裁殿下ノ懿德ヲ以テシ給フ、天下誰カ感奮興起セザランヤ。

是ヨリ先キ、太田幹事奔走經紀、細大遺ス所ナシ、匡贊ノ諸氏皆既ニ内諾セラル、乃チ會頭ヲ經テ之ヲ具狀スルヤ、二月二十七日、總裁宮別當山尾庸三子、台命ヲ奉シ諸氏ニ傳達スルニ、三月七日午後二時

ナ期シ參殿スベキ旨ヲ以テセラル。鹿島假會頭 神宮御用ヲ以テ上京スルニ會シ、太田幹事ト共ニ招集ニ應ズ。既ニシテ日至ル。三條内大臣・山田・松方二大臣・杉皇太后宮大夫・國重社寺局長・岩崎彌之助ノ諸氏事故ノ爲不參

總裁殿下親シク本會ノ主旨目的并ニ將來ノ發展經營ニ關シテ令旨ヲ賜ハリ、且囑托スルニ評議員ヲ以テセラル。諸氏謹デ命ヲ奉ズ。會頭吉井伯之ニ諮ルニ主旨規則ノ草案ヲ以テシ、併セテ事業經營上ノ意見ヲ問フ。副島伯・谷子・佐野子・佐々木子等、帝室ト 神宮トノ關係ヲ説キ、土方子亦意見ヲ述ル所アリ。而シテ其歴史館ノ計畫ニ關シ、副島伯ハ 神宮鎮座ノ靈地ニ於テ佛具若クハ古墳發掘品ヲ採集スルノ不可ナルヲ主張シ、九鬼・渡邊・澁澤諸氏トノ間ニ論駁アリ、遂ニ審議ノ末、左ノ要綱ヲ評決ス。

(一) 本會本部ヲ東京ニ、支部ヲ三重縣下ニ置キ、從來經營ノ事務ヲ東京本部ニ繼續統轄シ、更ニ本支部管理ノ條項ヲ規定スベキ事

(二) 寄附金豫定總額ヲ掲記セザル事

(三) 歴史博物館ハ別ニ館名ヲ設ケ、漸次擴張シテ完全ノ域ニ達セシムベキ事

(四) 主旨規則ノ修正ヲ施シ、且目下須要ノ方圖ヲ定ムル事

(五) 現況實視ノ爲メ會頭吉井伯特ニ宇治山田ニ出張ノ事

右要綱ヲ定ムルヤ、其第四項ニ關スル委員ノ指定ヲ仰グ、殿下乃チ佐野芳川・櫻井・澁澤・原ノ五氏ヲ指命セラル、所謂修正委員是也。此日評議ノ要ニ曰ク、本會ハ三重縣有志者ノ創立ニ係リ、其目的事業ハ既ニ 帝室ニ於テ嘉納アラセラル、天下國民ノ義務トシテ誰カ之ヲ協贊セザランヤ、宜シク之ヲ大日本帝國ノ神苑會トシ、國民一致ノ協同團體ヲ組織スベシ、而シテ今日ノ趣旨猶三重縣下ノ發起者ヲ以テ告白スルハ、幾ンド是レ主客地ヲ異ニスルガ如シ、宜シク

先ヅ主唱者ヲ改メ趣旨ヲ表白スベキノ秋ナリ、其他規則書ニ就テハ計圖尫大ニ失セズ、施設最モ適實ヲ制スルヲ要ス、須ク此意ヲ以テ修正ヲ施シ、天下ノ信憑ヲ博スベキナリト。次デ副會頭ノ推薦ニ關シ、候補其人ヲ擬ス、議輒テ決セズ、茲ニ於テ 殿下特ニ帝國大學總長渡邊洪基ヲ指命セラレ、渡邊氏之ヲ奉承ス、副會頭乃チ定ル、午後五時三十分晚餐ヲ一同ニ賜ヒ、餐了リテ各退散ス。

修正委員ノ會合ニハ宮内省中ノ一室ヲ借用シ、宮内屬及内務省社寺局員ノ内ヲ以テ書記ニ充ツルユトニ決ス、會頭吉井伯伊勢出張ノ事、既ニ本日ノ評議ニ定マル所ナリ、伯乃チ來ル十日ヲ以テ發セシムトヲ聲明セラル。

佐野子モ亦實地ヲ視察スルニ決シ、越テ九日、太田幹事ヲ自邸ニ招キ同行ヲ勸メラル、太田幹事謂ヘラク、上京以降、奔走ノ勞空シカラ

ズ、幸ニ素志ヲ貫通シ、發展組織既ニ今日ノ盛運ニ遇フ、略上京ノ任務ヲ果セリ、一タビ歸リテ伯子ノ待遇ヲ鄉黨ノ會員ト俱ニセント。茲ニ至リテ意ヲ歸國ニ決シ、來十三日出發同行ヲ約ス。而シテ吉井伯ハ明日發程、途次名古屋ニ滞留セララルベキヲ以テ、之ニ後ル、コト三日ナルモ、齊シク十四日神都ニ着スルノ豫定トス。

三月九日午後、修正委員宮内省中ニ會合シ、主旨規則ノ修正ニ着手シ、併セテ刻下ニ處スベキ須要ノ事務ヲ協定ス。

- (一) 各地方知事ヲ委員長ニ、各郡長ヲ委員ニ囑シ、地方寄附ノコトヲ管掌セシムルコト
- (二) 創立ノ地タル三重縣下ハ、知事ヲ幹事長兼委員長ニ、書記官及度會郡長及創立有志中ヨリ若干名ヲ幹事トシ、各郡長ヲ委員ニ囑スルコト
- (三) 東京ニ幹事ヲ置キ、本會一般ニ係ル庶務ヲ處理セシムルコト
- (四) 從來力ヲ盡セシ三重縣ノ首唱者ハ、創立員トシテ向後理事ヲ委スルコトアルベ

- シ、就中巨額ノ寄附ヲナシ若クハ功勞著キ者ハ當ニ優待ノ法ヲ定ムベキコト
- (五) 三重縣幹事ニ於テ專決施行シ得ベキ事項ト、其決ヲ東京本部ニ取ルベキ事項トヲ起案シ、本會ニ提出スベキコト
- (六) 會頭副會頭評議員委員等ニハ總テ總裁ノ囑託書ヲ與フルコト
- (七) 管財ハ第一國立銀行及三井銀行ニ委託シ、各地方ハ之ト連絡ヲ通ズル銀行ニ取扱ハシム、三重縣ニ在テハ、管内各地ノ銀行ニ於テスルモ妨ナキコト
- (八) 三重縣下ノ寄附金ヲ四月三十日迄ニ徵收シ、從來ノ負債ヲ償還シ得ルヲ期トシテ、事務ヲ幹事長ニ引繼キ幹事長ハ書類ヲ東京ニ致シテ會頭ニ具申スルコト
- (九) 庶務主計兩部員ハ、事務引繼ノ時ヲ區域トシテ更ニ役員ヲ選任スルコト
- (十) 山崎三重縣知事ヲ幹事長兼委員長ニ、岩男同書記官、滿岡度會郡長、太田小三郎ヲ幹事ニ任ズルコト

是ヨリ先キ、創立事務所ハ在京幹事ノ報道指揮ニ從ヒ、三重縣下各郡ノ創立代表者ヲ定メ、三月九日連署シテ 總裁宮ニ奉戴狀ヲ捧ゲ、會頭副會頭ニ推薦狀ヲ呈ス。

(奉戴狀寫)

某等誠恐誠惶謹テ白ス、茲ニ神苑會ヲ開設スルニ膺リ、本會ハ辱クモ殿下ヲ總裁ニ奉戴シ、永ク

殿下ノ統攝ヲ仰グノ恩榮ヲ有スル事ヲ得タリ、本會ノ面目何ゾ之ニ加ヘン、洵ニ感喜ニ堪ヘザル所也、乃チ會員一同ノ意ヲ代表シ、以テ其恩榮ヲ謝シ奉ル、頓首再拜

明治二十二年三月九日

- | | |
|---------------|----------|
| 三重縣伊勢國度會郡宇治山田 | 山中 崔 十 |
| 三十個町神苑會發起者總代 | 藤井 市 八 |
| 太田 小三郎 | 喜多 正 兵衛 |
| 村井 恒 藏 | 同 多氣郡發起者 |
| 宇仁田 宗 馨 | 乾 覺 郎 |
| 村 田 德 三 | 西野 利 一 郎 |
| 野村 四郎兵衛 | 萩田 常 次 郎 |
| 同 度會郡發起者總代 | 岡田 吉 次 郎 |

猿木源兵衛

同 飯野郡發起者

齋田 迪

野呂 定吉

同 飯高郡發起者

佐野 直市

小野 高秋

同 一志郡發起者

松島 吉右衛門

信藤 勘十郎

川尻 政央

田中 助一

佐々木 三郎

同 安濃郡發起者

後藤 仁兵衛

川喜多 四郎兵衛

小島 總右衛門

田中 林助

村山 勘七

梅本 惣八

杉村 保壽

同 河曲奄藝郡發起者

矢田 新五郎

矢田 彌四郎

同 鈴鹿郡發起者

館 喜右衛門

館 石三郎

市川 誠造

坂 貞良

高家 友次郎

草川 武八郎

眞弓 藤吉

同 朝明郡發起者

天春 文衛

同 三重郡發起者

九鬼 紋七

田中 武右衛門

三輪 猶作

山中 傳四郎

同 員辨郡發起者

二井 宗十郎

伊藤 条三郎

後藤 舖三郎

民上 良寛

稻垣 春陽

同 桑名郡發起者

佐藤 義一郎

福原 資英

同 伊賀國四郡發起者

森川 六右衛門

福地 次郎

福田 彦八

福喜多 熊吉

同 志摩國二郡發起者

廣野 藤右衛門

押田 素

大矢 善左衛門

同 紀伊國南牟婁郡發起者

鈴木 榮一

片岡 定助

中村 正直

糸川 善左衛門

喜多 貫一

有栖川 熾仁親王殿下

(副會頭推薦狀寫)

某等神苑會會員一同ニ代リ謹デ白ス、

閣下會員等ノ請ヲ容レ、本會(副會頭)タルコトヲ高諾セラレ、ノ榮ヲ得タリ、本會ノ幸福何ゾ之ニ如カン、自今以往永ク、閣下ヲ推戴シ、會員相共ニ奮テ、匪勉事ニ從ヒ、以テ本會ノ目的ヲ達センコトヲ期ス、茲ニ欣喜ノ情ヲ陳ジ、恭ク謝狀ヲ奉呈ス、恐惶頓

同 紀伊國北牟婁郡發起者

土井 忠兵衛

土井 與八郎

土井 市松

速水 熊太郎

莊司 晋太郎

明治二十二年三月九日

神苑會發起者

氏 名 (同前)

正三位伯爵 吉井友實閣下
從三位 渡邊洪基閣下

(各通)

三月十二日、太田幹事東京ヲ辭シ、横濱ヨリ汽船名古屋丸ニ搭シ、歸途ニ就ク、神宮宮司鹿島則文外禰宜二員及苑藝家小澤圭次郎等同船セリ、翌日午前四時、四日市港ニ上陸ス、本會書記渡邊漸ノ來リテ會頭ヲ迎フルニ遇フ。時ニ吉井伯佐野子未ダ到ラザルヲ以テ、幹事先ツ發シテ津ニ至ル。庶務部長村井恒藏、迎ヘテ津ニアリ、亦會頭ヲ待ツ。幹事乃チ之ニ伯子ノ嚮導ヲ托シ、十四日朝故山ニ向フ。宇治山田各町ノ創立員等、出デ、迎フル者殆ド百五十名、松坂町以南途上ニ列ス、蓋會頭ノ同行ヲ期待スル者多シ。此日、會頭吉井伯評議員佐

野子ノ一行、夜ニ入りテ到着セラル、會員迎ヘテ油屋ニ東道ス。吉井伯夫人、近藤宮内屬、美術會幹事前田某、伊集院兼常并ニ夫人等、同行庶務主計兩部ノ役員之ガ接待ニ任シ、又度會郡衙ノ斡旋ヲ以テ、古書畫、器物ヲ旅館ノ一室ニ陳ネ觀覽ニ供ス。

翌十五日、兩氏 兩宮參拜ヲ遂ゲ、神苑地ノ實況并ニ工事ノ現状ヲ踏檢セラル。

越テ十六日、倉田山ヲ踏檢シ、二見浦賓日館ニ臨マル、地方役員及ビ委員創立員等此ニ會同シテ兩氏ニ接見ス。兩氏曰ク、本會ノ目的事業ハ我輩大ニ贊同スル所ナリ、地方有志ノ諸氏ガ、既往ニ於ル創業經營ノ勞苦ヲ想察シ、深ク之ヲ謝セズンバアラズ、今ヨリ以降我輩當ニ本會ノ爲ニ微力ヲ盡ス所アルベシ、幸ニ諸氏ノ協力ニ依リテ相共ニ此美舉ノ完成ヲ期セント欲スト、仍ホ指示スルニ工事ノ順

序ヲ以テセラル。

頃來滯留ノ會頭吉井伯、評議員佐野子、十七日神都ヲ辭シ、伊勢大和ヲ經テ京都ニ發向セラル、本會役員委員等、別ヲ送ルコト逢迎ノ時ニ同シ、太田幹事隨ウテ京都ニ同行ス。

此日山田ヨリ津ニ至ルノ途次、會頭吉井伯、車上目撃スル所ノ通行人員ヲ手記シ、其一時間ノ計數ヲ以テ一日ノ通行人員ヲ測ルヲ得タリ。既ニシテ津ノ旅館ニ投ズルヤ、之ヲ太田幹事ニ示シ、勸誘シテ曰ク、神苑ノ事業ト相待テ、神宮參拜ノ衆庶ニ便シ、且神都將來ノ殷盛ヲ促サンガ爲メ、交通機關ヲ備フルノ必要ヲ感ズ、子夫レ奮テ鐵道敷設ヲ企畫セヨ、今日計查スル所ノ人員ニ照シ、成算的確タリ、何ゾ遲疑ヲ須ヒンヤト。蓋伯ハ我國鐵道ノ嚆矢タル日本鐵道ノ創立ニ於ル偉功ト經驗トヲ以テ、爛眼忽チ伊勢街道ノ現狀ヲ看取

シ其將來ヲ推斷シテ熱心勸奨セラル、所又根據ヲ存セズンバアラズ。參宮鐵道ノ基因實ニ茲ニ在リ。
所謂參宮鐵道ハ、津以南山田ニ至ル坦道二十餘哩ノ運輸機關ニシテ、主トシテ旅客ノ交通ヲ目的トセリ。本會會頭吉井伯ノ勸誘ニ基キ、幹事太田小三郎之ガ創立ヲ圖ル。同志ノ發起ニ列スル者數名、相共ニ地方ニ説キテ株主ヲ募リ、或ハ東上シテ朝野ノ間ニ奔走シ、特ニ其株式若干ヲ帝室財産中ニ加ヘラル、ノ光榮ニ浴シタリキ。而シテ其事業成立ニ至ル迄、地方ノ意向、冷熱屢變シ備サニ創業ノ艱難ヲ嘗メ、社長太田小三郎經營ノ下ニ、明治二十六年十二月開通式ヲ舉グ。爾來參宮旅客、年ヲ逐ウテ増加シ、神都繁榮ノ機運亦茲ニ啓ケ、其營業收益モ常ニ好果ヲ報ズ、果シテ是吉井伯ノ先見ニ違フエトナシ。明治四十一年國有線ニ編入セラル、乃チ本會ノ事業ト相待

テ永久堙沒スベカラザルノ歴史ヲ存セルヲ以テ茲ニ其概ヲ記ス。既ニシテ、太田幹事ハ、會頭及佐野子ト京都ニ分袂シ、三月下旬故山ニ歸ル。會員并ニ地方官民等、上京ノ勞ヲ謝シ成功ヲ祝セザル者ナシ、皆其顛末ヲ聞シトナ欲セリ。是ニ於テ四月十三日、地方創立員ヲ會シテ顛末ヲ報告ス。

越テ二十四日、地方會員等、同志百九十七名ヲ募リ、太田幹事ヲ招キテ山田大世古町龍重光ノ邸ニ慰勞會ヲ開ク。席定マルヤ發起人總代小林文助、慰勞ノ詞ヲ陳ブ、太田幹事之ニ對スル答辭ヲ述ベ、且頌ツニ報告書ヲ以テシテ上京顛末ノ口演ニ代フ、一座霽然、宴ヲ了シテ散ズ。慰勞ノ詞并ニ上京報告書左ノ如シ。

太田君ノ東上ヲ勞フ詞

我宇治山田町有志者ハ、神苑會幹事太田小三郎君ガ、客年十二月同會ノ事務ヲ負ウ

テ東上シ、爾來三閱月、今ヤ十分ノ功ヲ奏シ、歸郷セラレシヲ以テ、君ガ同會ノ爲ニ盡
 サレタル誠意ト偉績トニ對シ、感銘ニ堪ヘズ、茲ニ寸分ノ謝意ヲ表スル爲メ、慰勞ノ
 宴ヲ開クニ決シ、之ヲ君ニ告グルニ、君快ク諾セラレ、公私繁劇ノ際ヲモ厭ハセラレ
 ズ、本日来臨ノ光榮ヲ辱フセリ、之レ我有志ノ先ヅ謝辭ヲ呈スベキ所ナリ
 願フニ、往年君ガ神苑會創設ノ舉ヲ首唱セラレ、ヤ、或ハ有司ニ説キテ協贊ヲ仰ギ、
 或ハ地方有志ニ勸メテ同意ヲ求メラレタリ、當時、神苑創設ノ事タル、皆其美舉タル
 ヲ知ルト雖モ、其計畫ノ大ナルガ爲メ、可否ノ論議相半シ、間々又障害ノ前途ヲ遮斷
 スル如キモノアリ、君能ク此艱難ニ處シ、其志操確乎トシテ、勳カズ以テ漸ク其端緒
 ヲ開クニ至レリ、然レドモ、同會ノ基礎未ダ牢固ナラズシテ、會務ノ進捗ヲ望ムノ時
 期ニ達セズ、之レ君ヲ始メ、我有志者ノ深く憂ヲ抱ク所ナリキ、今我有志者ガ特ニ君
 ノ勞ヲ慰セント欲スル所ノモノハ、客冬以來、永ク京城ニ在リ、風雨霜雪ノ艱苦ヲ辭
 セズ、日夜奔走、只管會務ノ進捗、基礎ノ牢固ナランコトヲ企圖セラル、外ナカリ
 シニ在リ、宜ナル哉、神苑創設ノ舉ハ、長クモ九重ノ聖聽ニ達シ
 今上陛下 皇太后 皇后兩陛下ノ嘉納セララル、所トナリ、金圓下賜ノ恩典アリ、而

シテ 有栖川宮殿下本會總裁タルヲ許容アラセラレ、吉井伯閣下亦本會會頭ノ任
 ヲ諾セラル、其他貴顯紳士ノ奮テ本會ヲ翼贊セラル、ニ至ルモノハ、偏ニ
 皇祖ノ神威ト 今上陛下ノ聖德トノ致ス所トハイヘ、君ガ至誠至忠ノ精神ニ賴ラ
 ズンバ、又今日ノ盛運ニ會スベカラズ、本會ノ基礎是ニ於テ乎固ク、會務ノ舉ル期シ
 テ俟ツベキナリ、之レ我有志者ガ君ノ誠意ト功績トヲ旌表シ、永ク記憶シテ忘レザ
 ランガ爲メ、特ニ本日ノ宴ヲ開ク所以ナリ、謹デ君ガ來臨ヲ謝シ、併セテ將來益健康
 ニシテ本會ノ爲ニ盡力セラレンコトヲ祈ル

明治二十二年四月二十四日

慰勞會發起人總代

小林 文 助

上京願末報告書

老生、往年拙劣ヲ願ミズ、諸君ノ撰詮ニ膺リ、叨リニ神苑會幹事ノ職ヲ辱ス、以來諸君
 ノ熱心ト諸君ノ協力トニ由リ、創設ノ事業稍條緒ニ就クト雖モ、其基礎未ダ以テ固
 シト謂フベカラズ、其計畫未ダ以テ定レリト謂フベカラズ、而シテ前途悠遠、運歩艱
 難、如何ニシテ之ガ發達ヲ試ルノ得策ナル乎、諸君ト共ニ寢食ヲ廢シ、日夜經營スル

實ニ一日ニアラズ、老生ノ微力ヲ以テ斯ノ重任ヲ負荷シ、志念、刻モ安ズル能ハズ、斷然客年十月ニ至リ意ヲ東上ニ決シ、其十二月十六日ヲ以テ鄉關ヲ發シ、上京ノ程ニ就キシナリ

此行ヤ管ニ本會ノ伸縮消長ニ關スルノミナラズ、實ニ本會運命ノ存スル所重且大ナリト謂フベシ、幸ニ能ク赤衷ヲ徹底スルヲ得ン乎、積年ノ宿志茲ニ啓ケ、神恩ノ萬一ニ酬ヒ奉ルノ光榮ヲ得ン、否ズンバ則チ戴クニ日月ナク、容ル、ニ天地ナキノ非運アラント、深ク老生ノ戒心スル所ナリ、而シテ其入京スルヤ、晨ニ貴顯紳指ノ間ニ周圪シ、夕ニ知己舊交ノ間ニ往來シ、贊襄ヲ請ヒ或ハ意見ヲ叩キ、畢生ノ全力ヲ傾ケ、雨風霜雪ノ間ニ奔馳計畫スル殆ンド、三閱月、其積誠ノ結果ハ本會ヲシテ不拔ノ根柢ヲ固メシメ、又其計畫モ稍一定ノ域ニ進ミシハ、蓋 神宮無窮ノ聖德、至大ノ盛恩、天地感應ノ致ス所ナリト雖モ、抑亦諸君ガ三年一日ノ如ク、耐忍不拔ノ精神ト、又山崎本縣知事指揮ノ宜シキトニ因ラズンバ、焉ンゾ今日諸君ト共ニ一場ノ快話ヲナスコトヲ得ン、是所謂神人一和、功用遠邇ニ顯レ、諸君ト俱ニ有爲ノ精神益々鞏固ナルヲ信ズ、畏レナガラ我 帝國ノ權勢ヲ完シ、我國體ヲ内外ニ明ニシ、我 神宮ノ德

シ恩ヲ燦シ、我縣下ノ福祉ヲ進ムルニ於テ本會ノ事業與テ力アリ、嗚呼相與ニ欣賀セズンバアル可カラザル也

今ヤ諸君ニ見ユルニ際シ、敢テ一粲ニ供セン爲メ、滯京中ノ經歷ヲ概述スル所アテシ、其談話ノ雜駁、或ハ其順序ノ錯綜スルモノハ、諸君請フ之ヲ諒セヨ

老生發程ニ當リ、山崎知事ヨリ各貴顯ニ宛タル添書二十餘簡ヲ與ヘラル、而シテ縣知事ハ老生ニ先ンズル一日ニシテ着京セリ、爾來相共ニ各大臣貴顯ヲ訪問シ本會ノ要旨且將來ノ計畫ヲ開陳スルヤ、皆之ヲ容レラレ、其周圪尤懇到セリ、就中、松方大藏兼內務大臣ハ、老生ト舊交親善ノ故ヲ以テ、伯ニ就キ腹心ヲ開キ餘蘊ナク之ヲ詢ル所アリ、伯ハ久シク大政ノ要路ニ立チ、世況ニ通曉スルノ慧眼ヲ以テ、適切ナル所見ヲ內諭サレタリ、乃チ伯ガ本會ノ企圖ヲ認メテ美舉トナスノ點ニ至テハ、固ヨリ老生等ト其感ヲ同フスト雖モ、本會ガ會テ目途トセル百貳拾萬圓ノ募集額ハ、或ハ粗大ノ恐ナカラン乎、往年下野ノ有志者ガ保冕會ヲ唱フルニ方リ、我政府モ此舉ヲ贊美スルノミナラズ、各貴顯紳士ノ獎勵斡圪少ナカラザルニ、今ニ其目的ヲ達スル能ハズ、蓋神苑會ノ企圖ヲ以テ保冕會ト同視概論スベキニ非ラズト雖モ、其募集事

件ニ取テ參考トナスベキ類例ハ、宜シク同會ニ鑑ム可キ所鮮ナカラザル也ト、伯ハ又歩ヲ進メテ曰ク、本會ノ趣旨ヲ貫徹セント欲セバ、則チ信用ヲ博セザルベカラズ、其信用ヲ博セント欲セバ、則チ宮内大臣ニ之ガ代表者タランコトヲ請フノ緊要ナルヲ論サレタリ、又佐野樞密院顧問官其他各貴顯ノ所見モ之ト異ナラザルナリ、於是宮内大臣ニ請フニ本會會頭タランコトヲ以テシ、又計畫豫算案ノ起稿ニ着手セシナリ、土方宮内大臣ノ本會ヲ是認セラル、ハ、昨冬巡視ヲ辱フセルノ一事ヲ以テ諸君ノ知了セラル、所ナラン、然ルニ頃日 皇居御移轉式次デ憲法發布式等ノ大典ニ際會シ、公務ノ頻繁ナル之ヲ處理セラル、ノ閑地ナシ、今大臣ノ内諭ヲ概言セシニ、凡ソ本會ノ事タル我 帝室國家ノ面目ニ繫ルヲ以テ、畏クモ天皇陛下ニ奏上セリ、遠カラズ 聖旨ノ在ルアラン、而シテ本會ヲ經綸スルニハ應ニ 皇族ヲ戴テ之ガ統督ヲ仰グベシ

有栖川一品親王殿下ハ勳績威望中外ニ顯赫タリ、盛徳ノ高キ其右ニ出ヅル者ナシ、又往年本會ヨリ内願ノ因ミアリ、宜シク 殿下ヲ總裁ニ戴クベシ、又佐野樞密院顧問官ハ敦厚溫籍ニシテ、意想周到ナリ、嘗テ協會ノ事ヲ幹シ、頗ル會務ニ熟セリ、宜シ

ク佐野顧問官ニ任ズルニ會頭ノ事ヲ以テスベシ、其他評議員ヲ廟堂ノ元勳、在野ノ名士中ヨリ舉ゲ會議ニ參列セシメン、予近日、有栖川宮及佐野子ニ之ヲ請ハント欲スト、越テ十二月二十七日ニ至リ、本縣知事ヲ宮内省ニ召サレ優渥ナル 聖旨ヲ添ヘラレ、金壹萬圓本縣ヘ向ケ御下賜アラセラルベキノ恩命ヲ忝ス之レ寔ニ本會ノ經理ニ於テ無上ノ榮典ニシテ、 聖恩ノ深キ感泣自ラ止ム能ハズ、時ニ歲晚ニ瀕シ、有司頗ル多忙ニ處スルヲ以テ、後事ハ新年ヲ俟テ規畫スルコト、ナリタリキ既ニシテ二十二年ノ新天地ヲ迎ヘタリ、然レドモ本年ハ之レ、帝國萬世ノ基礎則チ憲法御發布ノ期ニ近ヅキ、之ガ準備ヲ要スル爲メ、老生ガ頼リテ以テ詢ラント欲スル顯要ノ有司諸公ハ、概ネ繁務ニ鞅掌セラレ、自ラ本會計畫上ニ時日ヲ移サザルヲ得ザルモノアリ、而シテ

有栖川熾仁親王殿下ノ總裁タルコトハ既ニ御許容被爲在ト雖モ、佐野子が會頭タルハ未ダ子ノ承諾ヲ經ザル所ナリト聞キ、老生ハ其ノ決定ヲ促ガス可キノ緊急ヲ感ジ、屢佐野子ヲ訪フモ、子ハ本會ニ對シ懇到周匝ナル意見ヲ持シ、誓テ本會會頭ハ宮内省長次官ニ於テ當ラザル可カラズ、予ハ評議員中ノ主幹タラント欲スト、固ク

執テ勳カズ、又松方伯モ佐野子ト同ジク之ヲ極論シ、遂ニ二月十四日宮内次官吉井伯本會會頭ト一定セリ、蓋シ土方子佐野子松方伯ノ大ニ與リテ力アル處ナリ、本會會頭吉井伯ハ國老中ノ耆宿ニシテ貴顯諸公ノ最モ敬重セラル、所況ンヤ宮内ノ要地ニ在ルヲヤ、是ニ於テ老生ノ喜宛然トシテ乳兒ノ慈母ニ於ル心地セリ、然レドモ何人ガ副會頭ノ任ニ當ラルベキカ未ダ決定ノ運ニ至ラザリキ

宜ナル哉、本會ハ會頭其人ヲ得テ着々進行ノ度ヲ高メタリ、既ニ二月二十一日會頭吉井伯ハ土方子佐野子松方伯山崎本縣知事石井佐賀縣知事鹿島宮司及老生等ヲ濱町常磐亭ニ招キ、本會組織ノ内議ヲ開ケリ、又二月二十五日内議ヲ吉井會頭ノ邸ニ開カレタリ、其相會スル諸氏ハ、佐野子、杉子、香川子、櫻井内事課長、飯田内藏助及鹿島氏老生等ナリ、此日評定ノ要旨ハ寄附募集及取扱ノ方法并ニ評議員囑托ノ貴顯紳士ヲ

有栖川總裁宮ニ申稟シ、併テ招狀ヲ發セラレンコトヲ請フ等ノ事ナリ、則チ其貴紳ハ三條内大臣、山田司法大臣、松方大藏兼内務大臣、谷中將副島樞密院顧問官、山尾宮中顧問官、花房宮中顧問官、杉皇太后宮大夫、香川皇后宮大夫、芳川内務次官、渡邊大學總長、九鬼圖書頭、高崎東京府知事、櫻井内事課長、國重社寺局長、飯田内藏助、原六郎、西村虎四郎、澁澤榮一、岩崎彌之助、松尾儀助等ノ諸氏及鹿島氏老生等也、而シテ三月一日、有栖川宮別當山尾庸三子ヨリ、來七日有栖川宮ニ午後二時參殿スベキ旨、殿下ノ台命ナリトノ御招狀ヲ發セラレタリ、三月四日

皇太后

皇后兩陛下ヨリ金五千圓御下賜ノ旨、吉井會頭ニ向ケ御達ノ榮ヲ得タリ、噫夫レ皇恩ノ遍キ辭ヲ措ク所ヲ知ラズ、既ニシテ三月七日ニ至リ、有栖川宮ニ參殿者ヲ舉グレバ、吉井本會會頭、土方宮内大臣、副島樞密院顧問官、佐野樞密院顧問官、佐々木樞密院顧問官、谷中將花房宮中顧問官、香川皇后宮大夫、芳川内務次官、九鬼圖書頭、渡邊大學總長、高崎東京府知事、櫻井内事課長、飯田内藏助、澁澤榮一、原六郎、西村虎四郎、松尾儀助ノ諸氏トス、鹿島氏老生亦之ニ陪ス、此日、總裁宮ノ命ヲ以テ諸氏ハ皆評議員タルコトヲ受ケラレタリ、而シテ三條公松方伯、山田伯、杉子ハ當日ノ席ニ臨ムヲ得ザリシモ、必ズ評議員タルノ命ニ應ゼラルベシ、又、總裁宮ノ指定ニ由リ、渡邊大學總長副會頭ノ任ヲ受ケラレタリ、以上諸氏ハ實ニ是レ國家ノ元勳名士、然ラザ

レバ則チ聲望一世ヲ傾ケ、令譽當代ニ藉甚タルノ高門也。谷子ガ本會ニ對スルノ所見ハ既ニ一昨年來遊ニ際シテ談話セラレシ所ヲ以テ明知ス可キナリ、故ニ老生ガ着京後子ヲ訪ウテ本會進捗ノ狀ヲ詳述スルニ當リ、子ハ大ニ其發達ヲ喜バレ、爾來深ク贊翼ヲ加ヘラレタリ。

此日評定ノ要領ヲ敘スレバ、則チ左ノ如シ
神苑會ハ三重縣下有志者ノ創立ニ係リ、今ヤ
皇帝陛下

兩后陛下ノ聖聽ニ達シ、帝國臣民ノ贊翼スル所是レ昭代ノ一大事業ナリ、今ヨリ本部ヲ東京ニ移シ、三重縣下ニ支部ヲ置キ、從來經營ノ事務ヲ攬ベテ東京本部ニ繼續シ、更ニ本支部管理ノ條項ヲ規定スベシト、又目途ノ金額或ハ四拾萬圓ト云ヒ、或ハ百貳拾萬圓ト云フ、然レドモ之ヲ今日ニ評定スルハ、或ハ不可ナラン、寧ロ其額ヲ掲ゲザルヲ以テ可トス、且又歴史博物館ノ如キハ別ニ其館名ヲ設ケ、漸次歴史博物館タラシムル階梯ヲ樹ツルニアリ、宜シク此意ヲ布衍シテ更ニ規則ノ修正ヲ施シ、併セテ目下背紫ノ方圖ヲ定ムベキニ一決セリ、依テ佐野芳川、櫻井澁澤原ノ五氏修正

委員タルノ命ヲ受ケタリ、特ニ會頭吉井伯來勢ノ事ヲ決シ、發程ノ期將ニ近キニアラントスルヲ以テ、委員諸氏ハ同九日ヲ期シ、宮内省ニ於テ會議ヲ開カル、コトニ決ス、既ニシテ九日ヲ迎フ、其評決スル所第一各地方ノ知事ヲ委員長ニ、各郡長ヲ委員ニ、囑シ以テ其地方ニ於ケル本會寄附ノ事ヲ管轄セシムル事第二創立ノ地タル三重縣下ハ、知事ヲ幹事長兼委員長トシ、書記官及度會郡長及創立有志中ヨリ若干名ヲ以テ幹事トシ、各郡長ヲ委員ニ、囑スル事第三東京ニ幹事ヲ置キ、本會一般ニ係ル庶務ヲ理セシムル事第四從來方ヲ盡セシ三重縣ノ首唱者ハ、創立員トシテ向後特ニ理事ヲ委スル所アルベシ、就中捐金巨額ヲ致シ、若クハ功勞著キ者ハ當ニ優待ノ法ヲ定ムベキ事第五三重縣幹事ニ於テ專決施行シ得可キ事項ト、其決ヲ東京本部ニ取ル可キ事項トヲ起案シ、本會ニ提出スベキ事第六會頭、副會頭、評議員、委員等ニハ總テ總裁ノ囑托書ヲ與フル事第七管財ハ第一國立銀行及三井銀行ニ委託シ、各地方ハ之ト連絡ヲ通ズル銀行ニ於テ取扱ハシム、但シ三重縣ニ在テハ其管內各地ノ銀行ニ於テスルモ妨ゲナキ事第八三重縣下ノ寄附金ヲ四月三十日迄ニ徵收シ、從來ノ負債ヲ償還シ得ルヲ期トシテ、事務ヲ幹事長ニ引繼ガシメ、幹事長ハ書類

ヲ東京ニ致シテ會頭ニ具申スベキ事、第九庶務主計兩部員ハ其事務引継ギノ時ヲ區域トシテ更ニ役員ヲ選任スル事、第十前二款ノ評議ニ從ヒ山崎知事ヲ幹事長兼委員長ニ、岩尾書記官滿岡度會郡長太田小三郎ヲ幹事ニ任ズル事ノ十款ニ在リ、老先以爲ラク、本會ノ經緯茲ニ於テ乎定リ、會員ノ組織茲ニ於テ乎成レリ、其章程ノ消長執行ノ順序ニ至テハ、爾來多少ノ變更ヲ要スル者アリト雖モ、初メ諸君ト俱ニ此盛事ヲ希圖シ、竟ニ前陳諸君ノ清聽ヲ煩ヌノ時運ニ達スルヲ得タリ、老生、客冬以來奔命ニ勞レ、殆ンド負担ニ堪ヘザルヲ以テ、今回ノ上京ハ茲ニ之ヲ終局ト定メ、匆忙歸裝ヲ整ヘ、吉井佐野ノ二公ニ追隨シ、遂ニ三月十四日ヲ以テ歸宅セリ、次デ又二公ニ追從シテ大和ヨリ京地ニ抵リ、未ダ一日モ席ヲ暖ムルノ閑ヲ得ズ、是ヲ以テ意ハズ諸君ニ接スルコトヲ怠レリ、諸君希クハ本會ノ發達ヲ賀セラレ、向後ニ於テ一層團結ヲ固フシ、大ニシテハ國家ノ萬一ニ酬ヒ、小ニシテハ發起者タルノ榮譽ヲ不朽ニ傳ヘラレンコトヲ併テ老生ヲ尤ムルニ疎濶ノ罪ヲ以テセラル、ナクンバ幸甚

明治二十二年四月

太田 小三郎

宮廷ノ賜金ハ、茲ニ本縣知事ノ保管ヲ請フ所ナリ、今ヤ會頭ノ臨檢

ナ了シ、苑地施工ノ順序既ニ決セルヲ以テ、四月下旬請ウテ之ヲ事務所ニ受領ス。此日縣下ノ郡長、皆縣廳内ニ會ス、太田幹事之ニ臨ミテ贊助ノ勞ヲ謝シ、併セテ上京顛末ヲ報告ス。(報告書前掲ノ如シ) 昨年以來、在京福地復一ニ托セル歴史博物館陳列項目、大略調査ヲ了シ、本年三月三十一日限其囑托ヲ解ク。

客月、命ヲ 總裁殿下ニ承ケタル佐野子以下ノ修正委員五名、本會擴張ノ趣旨并ニ規則書ヲ草シ、殿下ノ高裁ヲ經タリ、茲ニ至リテ本會規則書始メテ確定ス。

神苑會規則并主意書

神苑會擴張の主意

伊勢の

神宮は

天祖の神靈を奉祀する所にして、歴朝の尊奉する所億兆の仰敬する所なり、故に

古來全國の民、此

神都に膺至して以て

皇恩を謝し

皇徳を仰ぐ、爰に三重縣下有志の徒、首唱して本會を創設し、宮域の規模を恢弘し、

神苑を開き、其他各種の計畫を爲し、以て

神徳を顯揚し、億兆仰敬の意をして益々厚からしめんことを謀り、身力を勞し、貨財

を捐し、事業已に緒に就けり

宮廷特に金圓を賜ひ、民志を獎成す、茲に於て

熾仁親王殿下を總裁に推戴し、我輩も亦日本國民の本分を體し、本會の職務に當り、更に其規模を擴張し、全國一致の協會となし、以て忠愛の精神を發揚せんことを企圖す、幸に同胞の諸彦共に力を戮せて此舉を翼賛あらんことを冀望す

明治二十二年四月

神苑會會頭 伯爵 吉 井 友 實

神苑會副會頭 渡 邊 洪 基

神苑會規則

第一條 本會ハ神苑會ト稱シ、熾仁親王殿下ヲ仰デ其總裁トス

第二條 本會ハ

神宮宮域ノ規模ヲ恢弘シ、苑圃ヲ開キ、徵古館ヲ設ケ、待客ノ館舎ヲ建營スル等、

神都ヲ清潔美麗ニシ、且參拜者ノ便益ヲ謀ルヲ以テ其目的トス

第三條 本會ハ事務所ヲ東京三重ノ二個所ニ設ク

但東京事務所ハ當分麴町區飯田町五丁目八番地ニ設置ス

第四條 本會ノ目的ヲ翼賛シ、金圓ヲ寄附セントスルモノハ、金圓寄附ノ約束宿所姓名等ヲ具載シタル書面ヲ以テ、東京三重ノ二個所ニ設ケタル事務所若クハ各所ノ委員ニ申出ヅベシ

第五條 一時若クハ五個年以内ノ年賦ヲ以テ、拾圓以上ヲ寄附スルモノヲ會員ト

シ、證牌ヲ附與ス、同拾圓未満五圓以上ヲ寄附スルモノヲ贊助員トシ、證票ヲ付與

ス、同五圓未満ノ寄附者ハ別ニ名稱ヲ附セズ、尤壹圓以上ヲ寄附スルモノニハ證

認狀ヲ交附シ、壹圓未満ヲ寄附スルモノニハ領收證書ヲ交付スルニ止ム

但證牌ハ三種ニ區別シ、拾圓以上五拾圓未滿寄附者ハハ紅紐、五拾圓以上百圓未滿寄附者ハハ紫紐、百圓以上寄附者ハハ黃紐ノ證牌ヲ付與ス

第六條 總テ本會ニ金圓ヲ寄附シ又ハ功勞アルモノニハ、參拜及遊覽ノ爲メ漸次施設スル所ノ方法ニ依リ、相當ノ待遇及便利ヲ付與スルモノトス

第七條 本則施行前、三重縣ニ於テ神苑會ニ加名シ盡力シタル者ハ、特ニ創立會員ト稱シテ永ク其功勞ヲ表彰ス

第八條 本會ハ會頭、副會頭、評議員、幹事長、幹事委員、長委員ヲ以テ組織シ、之ヲ囑託ス

但在三重ノ幹事長、幹事ハ同地居住ノ者ニ之ヲ囑託ス

第九條 本會ノ事務ハ、評議員會ヲ設ケテ評議セシメ、會頭、副會頭、幹事長、幹事之ヲ施行スベシ

但三重ニ於ケル本會計畫ノ事業ハ、幹事長、幹事ヲシテ之ヲ經營セシムルモノトス

第十條 本會資金ノ監査ハ、評議員中ニ管財員ヲ設ケテ之ヲ管セシムルモノトス

第十一條 評議員會ハ總裁之ヲ招集シ、總裁若クハ會頭、副會頭、其議長トナリ、議事ヲ整頓ス、會頭、副會頭ハ其職務ヲ以テ評議員タルベシ

第十二條 本會ハ便宜ノ各所ニ委員ヲ置キ、其地方ニ隨テ委員中ノ一名ヲ委員長トナス、委員長在京ノ時ハ評議員ノ資格ヲ有シ、其本所ニ於テハ會頭ノ代理者トシ、其委托ノ條件ニ從ヒ委員ニヨリテ會務ヲ處辨ス

第十三條 會頭及幹事長ハ有給ノ書記若干名、其他本會ノ用ニ供スベキ傭員ヲ選任スルコトヲ得ベシ

第十四條 本會經營ノ事務ハ會頭ニ於テ詳細ノ目論見書及圖面ヲ調製シ、費用ノ豫算ヲ附シ總裁ニ出シ、總裁ハ之ヲ評議員會ニ附シ議決ノ上之ヲ舉行セシムルモノトス

第十五條 會頭ハ毎年二回、本會經常臨時費用ノ豫算ヲ調製シ、總裁ニ出シ、總裁ハ之ヲ評議員會ニ附シ議決ノ上之ヲ施行セシムルモノトス

第十六條 本會ニ寄附スル金圓、東京ハ第一國立銀行及三井銀行、各地方ハ之ト連絡アル銀行、三重ニ於テハ特ニ指定セル銀行ニ送附シ、其受領證ヲ受クベシ、各銀

行ハ一ヶ月毎ニ之ヲ本會ニ報告スベシ、本會此報告ヲ受ケタルトキハ、直ニ豫定ノ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ廣告スベシ

第十七條 本會ノ資金ハ、會頭ニ於テ評議員會ノ決議ヲ經、東京三重ニ於ケル確實ナル銀行ニ預托シ、又ハ公債證書及政府ノ保證アル會社ノ株券ヲ買入レ、増殖ノ方法ヲ設ケテ保管スベシ

第十八條 本規則ニ定ムル所ノ臨時并ニ通常費豫算額ニ基キ支出スベキ金員ハ、東京ニ於テハ會頭、三重ニ於テハ幹事長ノ證認ヲ受ケ、幹事之ヲナスベシ

第十九條 本會出納ノ計算ハ、東京及三重事務所共幹事ニ於テ毎月末ニ月表ヲ製シテ會頭ノ認可ヲ經、而シテ會頭ハ更ニ東京及三重事務所ノ分ヲ合セテ本會出納ノ月表ヲ製シ、之ヲ次回ノ評議員會ニ報告スベシ

但三重事務所ノ出納月表ハ、同所幹事長ノ認可ヲモ受クベシ

第二十條 本會出納ノ決算ハ、毎年六月、十二月ノ兩度ニ之ヲナシ、其季内事務ノ景況ト共ニ評議員會ニ提出シテ證認ヲ受ケ、其大要ヲ新聞紙ニ廣告スベシ

第二十一條 本會經營ノ事業ニシテ、三重幹事ニ於テ施行スベキ事項ニ就キ、幹事

長ニ於テ決裁專行スベキモノト、會頭ニ決ヲ取ルベキモノトハ、別ニ規定スル所ニ據ル

第二十二條 豫算外、臨時費用ヲ要スル場合ニ於テハ、臨時ニ評議員會ヲ招集シテ議決セシムルコトヲ得

第二十三條 要急ノ場合ニ於テハ、議決ヲ經ズシテ會頭之ヲ支出シ、評議員會ニ對シ辨明ノ責任ニ當ルベシ

客月東京ニ於ル評議員會決定ノ方針ニ從ヒ、四月以降創立事務所ハ事務引繼ノ準備ニ匆忙タリ。蓋今ヤ創立ノ境ヲ脱シテ成立ノ域ニ移ラントシ、將來ノ事業經營ニ關シテハ、收支豫算ヲ編製スル等、百方多端繁劇ヲ極ム。

當時、既ニ東京事務所ヲ麴町區飯田町五丁目八番地ニ假設シ、幹事管財員ヲ定メ、皇典講究所員ニ囑スルニ書記ヲ以テス。然レドモ未ダ三重支部ノ組織ヲ了スルニ至ラズ、乃チ事務引繼ヲ了ル迄、姑ク

創立以來ノ役員ヲ評議員トシ、幹事太田小三郎ヲ補佐シテ相共ニ事務ヲ經理ス。五月二日左ノ分擔ヲ定メ、備員ヲ督シテ各擔務ヲ分掌ス。

主計專務	宇仁田宗馨
寄附金募集兼土木	村井恒藏
庶務兼苑藝	大岩芳逸
庶務兼記録	藤井清司
寄附金募集兼出納	山羽九郎兵衛
寄附金募集兼用度	竹内善兵衛
土木兼出納	村田徳三
苑藝兼用度	上野梧一
苑藝兼出納	小川宗一

五月下旬事務引繼ノ準備漸ク整頓ス、幹事太田小三郎書類ヲ携ヘ

テ上京シ(地方役員上野梧一・村田徳三・竹内善兵衛ノ三名モ隨行ス)六月初旬本會東京事務所ニ於テ會頭吉井伯ニ引繼ヲ行フ、此日總裁殿下ニモ台臨アラセラレ、評議員山田伯・佐野子・佐々木子・芳川顯正其他ノ紳士之ニ參列シ、莊重ナル形式ヲ以テ太田幹事捧グル所ノ報告書類ヲ受領セラル、報告書并ニ目錄左ノ如シ。

神苑會創立事務所引繼報告書

本會創立事務ハ明治十九年六月ヲ以テ起リ、明治二十二年四月ヲ以テ終局トス、而シテ事務ノ引繼ハ山崎三重幹事長ノ調査ヲ了シ、其仔細ハ幹事長ノ證明書ヲ添ヘラレタル簿冊四十三卷ニ載セテ詳カナリ、然レドモ之ヲ大別スルトキハ、第一寄附金、第二苑地工事、第三收支決算、第四借入金決算、第五本會所有財産、第六創立事務員ノ經歷、第七本年四月ヨリ九月ニ至ル連帶事務豫算ノ七項ニ過ギズ、故ニ今其事務ノ大要ヲ七項ニ摘探シテ創立事務所引繼報告書一篇ヲ製シ、閣下觀覽ノ便ニ供セントス。

第一項 寄附金募集

寄附金ハ明治十九年六月以降、神宮司應補助金并ニ首唱地タル宇治山田三十個町及舊神領四十五個村ノ寄附金ヲ以テ根據トシ、漸次二十年ヨリ二十一年ニ至リ縣下二十郡ニ及ボシタリ、蓋其募集方法タル首唱地ハ任意寄附金ノ外、一戸三個年間四十五人ヅ、其他度會郡ハ一戸三個年間六人ヅ、人夫若クハ一人拾錢ト見做シ一戸六十錢宛ノ寄附金ニ議決セリ、猶二十郡ノ如キハ、昨二十一年當時石井縣知事ヨリ各郡長ニ内示書ヲ發シテ之ヲ獎勵ス、又之ニ添エ本會ヨリ發セシ募集法案ハ一人別貳錢ヅ、三個年間即金六錢ヲ以テ最低度ノ標準ヲ示シタリ、爾來縣知事ノ更迭、次デ市町村制ノ實施ニ際會シテ自カラ遷延ニ涉リシモ、即今追々標準ノ目的ヲ達スルノ期ニ到來セリ、依テ既定及豫定ノ金額ヲ掲グル左ノ如シ

一金拾六萬四千四百七圓七拾參錢

寄 附 總 額

內

金參萬圓

神宮司應補助金

金六萬九千九百貳拾九圓貳拾五錢

度會郡ニ於テ既定額

金四萬七千九拾圓四拾八錢

度會郡ヲ除キ縣下二十郡豫定額

金貳千貳百八拾八圓

他府縣有志十九名ノ寄附額

金壹萬圓

宮 內 省 御 下 賜 金

金五千圓

兩皇后宮職御下賜金

以上

第二項 神苑地工事

本會創立ノ初豫メ工事着手ノ順序ヲ定メ、第一着 兩宮接續神苑、第二着倉田山神苑トス、然ルニ是ニ先ダテ明治十九年十二月二見浦ニ賓日館ヲ建築シテ 皇太后陛下ノ行啓ニ當リ、御泊ニ供ヘ、爾來之ヲ本會待客所ニ充テタリ、其翌二十年七月ニ至リ、第一着工事、兩宮接續神苑地、宇治館町、山田豐川町、田中中世古町、岡本町ノ宅地買收及家屋撤去ノ事ニ着手シ、遂ニ同年十二月ニ至リ之ヲ結了セリ、其宅地坪數一萬九千六百四十坪餘、撤去ノ家屋百六十九戶、其坪數四千三十坪餘ナリ、依テ此兩苑地ニ對シ、明治二十一年一月以來四月迄又之ニ連帶セシ當九月ニ至ル土木及苑藝實施ノ大要ヲ掲グレバ、 內宮ニ於テハ苑地均シ、 宮域石垣積立、參道國道里

道苑中小逕ノ改修、五十鈴川岸石垣積立、山神川改修及兩岸景石積立、石橋架設、宇治橋上流ノ附寄洲ト苑地トノ勾配ヲ直シ、阿龜笹隈笹ヲ植付、并ニ苑中樹木芝ノ植付、又之ニ相對シタル丸山、翠ヶ岡、岡田林ノ風致林ヲ買入レ、松櫻八千株ヲ植付タルコト等也

外宮ニ於テハ苑地均シ、宮域溝堀、石垣積立、御橋移轉及石橋架設、參道、國道、里道、苑中小逕ノ改修、須崎川掘削、兩側石垣及架橋、勾玉池堀鑿、同小溪大景石据付、高倉山山間ヨリ勾玉池ニ湖流ヲ通シ、土橋及石橋ノ架設、宮域廢溝ノ埋立、樹木芝ノ植付等

兩宮何レモ苑藝師小澤圭次郎意匠ヲ立テ、專ラ天然ノ風致ヲ存スルヲ以テ築苑ノ主眼トセリ、但シ工事ノ監督ハ舉テ縣廳ニ之ヲ委ネ、又請負工事ハ總テ公入札ノ法ヲ用ヒ來レリ、其費用ノ大要ヲ掲グレバ左ノ如シ

一金五萬四千貳百拾貳圓六拾八錢壹厘 工 事 費

內 金壹萬七千拾五圓八拾五錢貳厘 本年自四月豫算額

金四萬八千九百四拾八圓四拾八錢九厘 苑 地 工 事 費

金五千貳百六拾四圓拾九錢貳厘 賓日館建設及修繕費

以上

第三項 收支決算

收支決算ハ明治十九年六月ヲ以テ起リ、明治二十二年四月ヲ以テ終リトス、其仕拂殘金八千七百七拾貳圓六拾貳錢九厘、內金貳千八百拾貳圓六拾貳錢九厘、二十二年四月末日ノ現在高、金參百拾圓、請負人保證金、金五千五百拾圓、第五國立銀行借入金ハ、第五國立銀行山田支店ニ之ヲ預ケ入レタリ、但シ出納金ハ、本年四月三十日迄、滿岡度會郡長之ヲ監督セリ、即其大要ヲ掲グル左ノ如シ

內 一金五萬七千四百七拾五圓貳拾五錢參厘 收 入 總 額

金壹萬圓也 宮 內 省 御 下 賜 金

內 金四萬六千貳百七拾七圓貳拾四錢七厘 神宮補助及管内寄附金

金參千七百七拾五圓四拾錢	寄附人夫
金五百四拾壹圓壹厘	管外寄附金
金六百五拾七圓五厘	雜收入
但寶日館席料并ニ遊覽券賣却代預金利子其他	
一金五萬四千五百貳拾八圓六拾貳錢四厘	支拂總高
內	
金六千參百五拾九圓七拾四錢參厘	事務所費
但諸雇給諸手數料備品消耗品印刷郵便稅電信料運搬費賄費修繕費雜費等	
金五千百參拾七圓參拾五錢八厘	賓日館建築
金八百九拾七圓拾壹錢貳厘	神苑會創立費
金壹萬八百四拾五圓貳拾參錢參厘	工事費
金五千參百六圓壹錢八厘	地所買上代
金壹萬九千五百五拾參圓五拾壹錢四厘	家屋立退料
金百六拾四圓五拾貳錢五厘	地租地方稅并ニ登記料

金千六百八拾八圓四拾六錢

寄附金募集費

但雇給旅費廣告料雜費等

金千百拾八圓參拾四錢七厘

賓日館費

但雇給備品消耗品接待費修繕費造園費雜費等

金參千五拾八圓參拾壹錢四厘

借入金利子

一金貳千九百四拾六圓六拾貳錢七厘

差引殘高

內

金貳千八百拾貳圓六拾貳錢九厘

現在高

金百參拾四圓也

假出金及繰換金

以上

第四項 借入金決算

借入金ノ儀ハ第一着工事ノ 兩宮接續地買入及家屋撤去賓日館建築ノ如キ、一時
 參萬餘圓ノ多額ヲ要シ、終ニ役員中ニ於テ無限責任ヲ以テ金貳萬圓餘ヲ借入レ之
 ヲ以テ結了セリ、爾來漸次辨濟シ、即今殘金五千五拾圓ナリ、然レドモ該金ハ本年上

半季豫算ノ寄附金ヲ收入シテ全ク償却スルノ見込ナリ、今其決算ヲ掲グレバ左ノ如シ

一金參萬貳千六百四拾壹圓四拾七錢六厘	借入	高
内		
金貳萬七千五百九拾壹圓四拾七錢六厘	返却	高
差引金五千五拾圓	現殘	高
以上		

第五項 財産統計

創立以來本年四月迄ノ財産ヲ統計スル左ノ如シ

一金壹萬千八百參拾四圓四拾參錢九厘	總	高
内		
金四千百九拾八圓七拾九錢		
宅地一萬三千七百三十一坪五合		
金八百五拾五圓六拾五錢		

田畑山林原野草生地沼合計反別十五町七反一畝二十五步

金五千六圓五拾貳錢貳厘

賓日館建坪百六十九坪二合五勺并附屬井戸湯殿車置場雪隠外ニ土藏(七坪)一個所

金千七百七拾參圓四拾七錢參厘

疊建具椅子テーブル其他日常必要ノ器具等二千五百五十九點

第六項 創立事務員經歷

明治十九年六月創立ノ際浦田長民ヲ假會頭トシ、庶務主計兩部員若干名ヲ置キ會務ヲ整理シ、明治二十年七月浦田長民之ヲ辭ス、依テ同月會員總會ヲ以テ鹿島則文ヲ假會頭ニ、太田小三郎ヲ幹事ニ選舉ス、是ニ於テ鹿島假會頭左ノ數名ヲ指名シテ會務ニ與カラシム、爾來今日ニ繼續セリ
庶務部長村井恒藏主計部長宇仁田宗馨庶務部日勤員大岩芳逸吉川清三郎藤井清司主計部日勤員村田德三上野梧一竹内善兵衛山羽九郎兵衛小川宗一
以上

第七項 收支豫算

本年四月ヨリ九月迄ノ收支豫算ヲ掲グル左ノ如シ

一金四萬參千貳百參拾四圓貳拾五錢

收入豫算高

但御下賜金、神宮司廳補助金、管内外寄附金、資日館收入

内

金貳萬貳百四拾貳圓八拾錢九厘

支出豫算高

但事務所費、工事費、寄附金募集費、借入金利子

差引

金貳萬貳千九百九拾壹圓四拾四錢壹厘

差引殘豫算高

内

金貳萬千九百四拾參圓

借入金返戻高

金千四拾八圓四拾四錢壹厘

後期へ繰越高

計

以上陳述ハ本會創立以來ノ經歷及本年九月ニ至ル連帶事務ノ大要ナリ、伏テ請フ

意通ゼズ、事瞭カナラザル所ハ、別紙庶務主計兩部ノ引繼書ニ就キ覽觀ヲ賜ハラシ
コトヲ、誠恐謹言

明治二十二年五月

神苑會元假會頭 鹿島 則文

代理

神苑會元幹事 太田 小三郎

神苑會會頭伯爵 吉 井 友 實殿

(添付書類) 庶務部主管書類目録

一 創始以來至二十年七月諸書類一括

一 同圖書類一括

明治二十年七月以降至十二月帳簿并ニ記録書圖書ノ部

一 決議書類一冊

一 各所往復書類一冊

一 募集件決議綴一冊

一 願伺屆書類一冊

- 一日誌一冊
- 一受書綴一冊
- 一度會郡寄附金明細簿二冊
- 一書類送致簿一冊
- 一郵便發送簿一冊
- 一歸任屆綴一冊
- 一缺勤屆綴一冊
- 一受附簿一冊
- 一雜書綴一冊
- 一募集係往復簿一冊
- 一報告書一冊
- 一度會郡各町村募集係人名報道書綴一冊
- 一建議書綴一冊
- 一記銀一冊

明治二十一年度^{自一月至十二月}帳簿ノ部

- 一決議書綴一冊
- 一願伺指令綴一冊
- 一道路變更願書控三冊
- 一苑地ニ關スル決議錄一冊
- 一各所往復書綴一冊
- 一願伺屆書綴一冊
- 一缺勤屆綴一冊
- 一神宮及神都ノ事ニ關シ取調書案一冊
- 一工事用物品受渡簿一冊
- 一地所買上家屋立退料等ニ關スル調査委員引繼書綴十二冊
- 一受書綴一冊
- 一雜書綴一冊
- 一縣下二十一郡寄附金臺帳十五冊

- 一 他府縣特別寄附者名簿一冊
- 一 備員事務明細日記一冊
- 一 役員出勤簿一冊
- 一 縣下各町村戶長贊助員假名簿一冊
- 一 度會郡村落募集係人名簿一冊
- 一 宇治山田市街近傍圖一枚
- 一 倉田山開設圖二冊
- 一 神社會開設主意草案一部
- 一 倉田山圖一葉
- 一 電氣燈見積案一部
- 一 歷史博物館裝置案三部
- 一 博物局一覽一部
- 一 兩宮苑地畫圖二葉
- 一 古模樣圖一部 博物館建設見積案一部

- 一 歷史博物館衣服部草案一部
- 一 持田政安博物館建設圖三葉
- 一 博物館及彰德館植物園倭姬命肖像圖四葉
- 一 坪井福地ノ苑地ニ關スル書類一括
- 一 工事目論見書綴一冊
- 一 同上出來形精算書綴一冊
- 一 同上內譯明細書綴一冊
- 一 道路改修人夫員數帳一冊
- 一 工事請負人夫出面帳一冊
- 一 寄附人夫出面帳一冊
- 一 工事用雜書一冊
- 一 寄附金募集係決議綴一冊
- 一 道路變換願書控綴一冊
- 一 豐川町道路變換願書控綴一冊

一 受附簿一冊

一本會工事請負規則二冊

明治二十二年度帳簿ノ部

一 縣廳郡役所願伺屆綴一綴

一 決議書綴一綴

一 願伺屆書綴一綴

一 各所往復書綴一綴

一 募集係復命書綴一綴

一 地所關係決議書綴一綴

一 工事用決議書綴一綴

一 雜書一綴

一 受書一綴

一 會員名簿一冊

一 縣下各郡發起人名簿一冊

一 日常定日臨時執務分擔員名簿一冊

一 勾玉池橋圖一枚

一 五鈴館建築圖一枚

一 同附屬建物畫圖一枚

一 鐵欄圖二枚

一 堤正勝撰主意書一枚

一 本會假規則草案見積書一括

一 番號帳一冊

一 物品入夫寄附錄一冊

一 園藝入夫出頭簿一冊

一 買上人夫出面帳一冊

一 寄附人夫出面帳一冊

一 部員以下辭令伺一冊

一 部員諸屆簿一冊

第四編 創立第四期 明治二十二年

- 一 雇入人夫出面帳一冊
 - 一 請負工事受書綴一綴
 - 一 工事目論見帳綴一綴
 - 一 工事諸往復綴一綴
 - 一 出來形精算帳綴一綴
 - 一 土木工事金高簿一冊
 - 一 土木工事豫算調帳一冊
- 印刷物ノ部
- 一 本會創立願百二十四部
 - 一 本會規則書千四百五部
 - 一 神苑計畫書八十八部
 - 一 本會事務成績書四十一部
 - 一 本會規則書一葉刷五百五十四葉
 - 一 寄附金連名簿美濃紙列千四百部
半紙列千三百三十部

- 一 二十一年度事務成績報告書一括
- 一 歷史博物館裝置物未定稿十三部
- 一 本會工事請負規則一冊
- 一 縣下寄附金募集法案四十八部
- 一 本會假規則七十七部
- 一 神苑興造名勝太旨一括
- 一 贊助員依頼書一括
- 一 募集掛依頼書一括

庶務部事務引繼演述書(省略)

主計部主管書類目錄

第一號

- 一 自明治十九年六月金錢受拂簿 一冊
- 一 至同二十二年三月 金錢受拂簿 一冊
- 一 明治二十年度自廿一年四月金錢受拂簿 一冊
- 一 明治廿一年度自廿二年四月金錢受拂簿 一冊

第四編 創立第四期 明治二十二年

第四編 創立第四期 明治二十二年

- 一同 上 自廿一年十一月現金受拂簿 一冊
- 一同 上 至廿二年三月現金受拂簿 一冊
- 一同 上 收支金內譯簿 一冊
- 一同 上 借入金受拂簿 一冊

第二號

- 一 明治廿一年度 自廿一年四月至廿一年十月 收號決議案 一綴
- 一同 上 支號決議案 一綴
- 一同 上 報號決議案 一綴
- 一同 上 支拂金領收證書 二綴
- 一 明治廿一年度 自廿一年十一月至廿二年三月 收號決議案 一綴
- 一同 上 支號決議案 一綴
- 一同 上 報號決議案 一綴
- 一同 上 支拂金領收證書 一綴

第三號

- 一 當座預金通帳 一冊

第四號

- 一 當座預金約定書 一冊

第五號

- 一 廿二年度上半年收入金內譯簿 一冊
- 一同 上 支出金內譯簿 一冊
- 一同 上 寄入金內譯簿 一冊
- 一同 上 借入金內譯簿 一冊
- 一同 上 假替金內譯簿 一冊
- 一同 上 現金受拂簿 一冊

但本項五冊ハ日常不可缺諸帳簿ニ付主計部ニ備置候事

第六號

- 一同 上 收號決議案 一綴
- 一同 上 支號決議案 一綴
- 一同 上 報號決議案 一綴
- 一同 上 支拂金領收證書 一綴

第四編 創立第四期 明治二十二年

一同 上四分收支現計書 一綴

第七號

一 明治十九年六月ヨリ
同 廿二年四月マテ 借入金決算書 四冊

第八號

一 借入金證券元帳 一冊

第九號

一 山岡足穂へ貸金拾圓證書 一通

第十號

一 寄託金内譯簿ノ寫 一枚

第十一號

一 寄附金仕譯書 一冊

第十二號

一 寄附金臺帳 五十三冊

但本項臺帳ハ日常不可缺帳簿ニ付主計部ニ備置候事

第十三號

一 寄附金取扱約定書 一冊

第十四號

一 地所一筆限取調書 一冊

第十五號

一 賓日館并ニ附屬建物縮圖 一枚

第十六號

一 宇治館町土藏縮圖 一枚

第十七號

一 財産統計表 一冊

第十八號

一 明治廿二年四月中購入財産明細表 一枚

第十九號

一 遊覽券臺帳 一冊

第二十號

一 明治廿二年上半個年收支豫算報告書一冊

第二十一號

一 苑地工事費豫算仕譯書

二冊

第二十二號

一 借屋契約書

二冊

右之通ニ候也

明治二十二年五月十日

主計部事務引繼演說書(省略)

右創始以來事務引繼終了ニ至ル間ヲ以テ本會創立ノ時期トナシ、
茲ニ段落ヲ劃シテ次グニ成立第一期ヲ以テス。

神苑會史料

第五編

第五編

成立第一期

自明治二十二年六月
至同二十三年十二月

明治二十二年六月、幹事太田小三郎上京提出ノ報告書類ヲ東京事務所ニ繼承ス。本年四月以來規則書ヲ修正シ經營ノ順序方針ヲ定メ、事務所ヲ東京・三重ノ兩地ニ置キ、東京事務所ヲ以テ本會組織ノ幹部トセリ、其職員左ノ如シ。

總裁 有栖川宮熾仁親王殿下

會頭 伯爵吉井友實

副會頭 渡邊洪基

評議員

伯爵山田顯義

子爵土方久元

伯爵副島種臣

子爵谷

干城

子爵佐野常民

伯爵佐々木高行

第五編 成立第一期 明治二十二年

子爵 福羽美靜 從三位 花房義質 子爵 山尾庸三
 從三位 芳川顯正 子爵 杉孫七郎 子爵 香川敬三
 從三位 九鬼隆一 從四位 櫻井能盛 從四位 重野安釋
 男爵 高崎五六 從四位 澁澤榮一 正五位 原六郎
 西邑虎四郎 正五位 川田小一郎 伊集院兼常

管財委員

櫻井能盛 原六郎 澁澤榮一

東京幹事

國重正文 飯田巽 永井久一郎 中村秋香

東京事務所書記

青戸波江 飯島誠 山本道昌

雇員

澁谷吉彌

三重事務所職員左ノ如シ。

三重幹事長

山崎直胤

三重幹事

岩男三郎 鹿島則文 滿岡勇之助 太田小三郎

三重委員

長沼東夫	內田常矩	根津恂	伊藤祐賢
福原公亮	小池正一	柚原具致	中田正朔
東吉貞	尾寺信	川口常文	宇仁田宗馨
村井恒藏	大岩芳逸	藤井清司	村田德三
上野梧一	小川宗一	竹内善兵衛	山羽九郎兵衛
山本如水	田邊雷藏	酒井禮一	町田今亮
田門愿一	鈴木隆	松岡利弼	永島雪江
八尾信夫	町井治	勝島政次郎	下村御楸
新谷貞信			

三重事務所書記

世古口眞七 下山保福 渡邊 漸 小林文助
 吉川清三郎 米山孫十郎
 雇員

山本清次郎 藤田 清

六月十八日、三重縣下ニ於ル從來ノ功勞者ヲ詮定ス。本會創立ニ關シ特ニ其功勞ヲ表章スベキ者はナリ。

功勞者

太田小三郎 宇仁田宗馨 大岩芳逸 村井恒藏
 吉川清三郎 藤井清司 村田徳三 上野梧一
 小川宗一 竹内善兵衛 山羽九郎兵衛 山崎直胤
 石井邦猷 鹿島則文 岩男三郎 滿岡勇之助
 右功勞者ニ亞ギ創立會員ノ待遇ヲ與ヘラレタル者左ノ如シ
 浦田長民 白井清榮門 平生彦十郎 橋爪孫七

富澤利七 黒部ウネ 北川治郎兵衛 岡村長四郎
 板本三右衛門 久保田 五兵衛 西田七左衛門 浦田九左衛門
 青木治助 竹内善四郎 河村清兵衛 世古善兵衛
 島田長兵衛 宇仁田 仁兵衛 秋田喜助 世古口喜右衛門
 杉野九妹 野村四郎兵衛 山本伊兵衛 山崎石齋
 山中崔十

本會組織ノ更新ト相待テ處務章程ヲ規シ、又趣旨ノ擴張ト相伴
 ウテ會員待遇法ヲ一定スルヲ要ス、今專ラ三重事務所ヲシテ其案
 ナ起草セシム。

三重縣下各郡、未ダ寄附金ヲ決了セザルモノアリ、之ガ完結ヲ促シ
 シニハ宜ク自今毎月、各郡ノ成績表ヲ製シテ、郡長并ニ發起者ニ頒
 ツベシトシ、六月十九日左ノ信書ニ添テ之ヲ各郡長ニ送致ス。

時下愈御清適欣賀ノ至ニ御座候、陳ハ巖ニ縣下有志ノ徒首唱トナリ神苑會ヲ創設

シ、先以テ管内特志者ノ贊助ヲ仰ギ、尋デ廣ク義捐金ヲ全國ニ募集スルノ目的ニ有之候處辱クモ此舉 宮廷ニ達シ、特典ヲ以テ巨多ノ金圓ヲ賜ヒ、其他貴顯紳士ヨリモ寄附金等續々有之依テ更ニ其規模ヲ擴張シ、今般 熾仁親王殿下ヲ總裁ニ仰ギ、吉井宮内次官、渡邊大學總長ヲ正副會頭ニ推薦シテ各其允諾ヲ得、該會ヲシテ全國一致ノ協會タラシムル等、其事業益盛大ナルニ至レリ、尤該會開設ノ旨ハ、宮域ヲ恢弘シテ益 神德ヲ顯揚シ、仰敬ノ意ヲシテ益厚カラシメントスルニ外ナラザル儀ニ有之候得共、其所在地即本縣ニ於テハ其關係スル所亦鮮少ナラザル儀ニ付、特ニ 總裁殿下ヨリ小官ヘ該會幹事長ノ任ヲ囑託セラレ、尙若男書記官其他ニモ幹事ノ職ヲ囑託セラレタル儀ニ有之、且又全國一致ノ協會ト相成候ニ付テハ、各府縣知事ニモ、渾テ該會幹事ヲ囑託セラル、趣ニ有之候間、貴官ニ於テモ豫テ該會舊委員ヨリ御協議ニ及候通、精々此盛舉ヲ翼贊シ、寄附金ヲシテ速ニ相纏メシメ候様御盡力ノ程希望ノ至ニ不堪候、尙本縣内ハ他府縣トモ異ナル儀ニ付、寄附金額ノ如キモ他府縣ニ比シテ寡少ナル様ニテハ如何トモ被存候間、其邊宜敷御諒得相成候様致度、尙又今般各郡寄附金成績月表、別紙ノ通調製候、ニ付、御參考ノ爲御回送及候、然

ルニ寄附金高ノ儀ハ表面掲記ノ通、一二郡ヲ除クノ外、未ダ豫算額ニ達セズ、或ハ一モ記帳ノ場合ニ至ラザルモノモ有之、彼此ノ間甚平衡ヲ失候哉ニ存候間、此上トモ精々御斡旋相成豫定ノ如ク相運候様致度、且別表ハ爾後毎月調製候ニ付、其都度御送附ニ及ブベキ筈ニ有之候、此段得貴意候、早々不備

年 月 日

神苑會幹事長 山崎 直胤

各郡長宛 (各通) (寄附金成績表省略)

右三重縣下ニ於ル督勵ト同時ニ、東京事務所ニ在テハ正副會頭ノ署名ヲ以テ、院省廳長官、各府縣知事ニ左ノ通牒ヲ發シ、又特ニ東京橫濱ノ富豪三百二十名ニ招狀ヲ送り、六月二十九日芝離宮ヲ拜借シテ茲ニ招集ス。正副會頭、告グルニ本會擴張ノ趣旨ヲ以テシ、率先贊翼ノ模範ヲ表示セラレ、ンユトヲ求メ入會證用紙ヲ交付ス。是レ實ニ全國ニ向ヒ募集ノ方法ヲ開始スル所ナリ。

(院省廳長官ニ對スル通牒文)

神苑會擴張ノ主意并ニ規則別紙ノ通ニ御座候間、何卒御賛成被下御_院中ニ於テモ可成廣ク協賛ヲ得候様仕度、尤本會ノ舉ハ主意書記載ノ通、日本國民トシテ、各自國祖ヲ仰敬スルノ意ヲ表スルニ外ナラザル儀ニ付、右ノ旨趣御合置被下、協同一致速ニ本會ノ目的相達候様御添力ノ程、偏ニ奉希望候謹言

明治二十二年六月 日

神苑會副會頭 渡邊 洪基

神苑會會頭 伯爵 吉井 友實

院省廳長官 伯爵 氏 名宛(各通)

(各府縣知事ニ對スル通牒文)

拜啓然者 神宮神苑開設ノ儀ハ、初三重縣有志者中ニ於テ神苑會ノ舉有之候處、今般尙又同會擴張、其企圖完全候様致度見込ニ有之、右主意并ニ規則等別冊ノ通ニ御座候間、何卒御賛成被成下、御_院下ニ於テモ可成廣ク協賛ヲ得候様仕度、尤本會ノ舉ハ、日本國民トシテ各自國祖ヲ仰敬スルノ意ヲ表スルニ外ナラザル儀ニ付、右之旨趣御合置被下、協同一致速ニ本會ノ目的相達候様御協力之程、偏ニ奉

希望候謹具

明治二十二年六月 日

神苑會副會頭 渡邊 洪基

神苑會會頭 伯爵 吉井 友實

府縣知事宛(各通)

次デ東京事務所ハ、全國官公吏員ヲシテ本會擴張ノ主旨規則ヲ認知セシムルノ必要ヲ感ジ、内閣官報局ニ請フニ廣告ノ事ヲ以テス。同局之ヲ容レ、七月十五日發行官報第一八一二號廣告欄中、題スルニ「神苑會廣告」ノ目ヲ以テシ、本年四月改定ノ主旨規則全文ヲ掲載セリ。

六月以來立案中ノ事務規程及會員接待規則、賓日館管理規則等其稿ヲ脱シ、八月下旬、總裁殿下ノ裁可ヲ經テ之ヲ定ム。

神苑會東京事務所事務規程

第一條 東京事務所ノ事務ヲ分チテ、庶務會計ノ二トシ、幹事之ヲ分擔シ、書記之ニ從事ス

第二條 事務所役員會ハ、期日ヲ定メ之ヲ開ク

第三條 凡ソ事ノ大體ニ關セザルモノハ、擔任幹事一名ノ捺印ヲ以テ正副會頭ノ承認ヲ受ケ、之ヲ施行スルコトヲ得、但財務ニ關スルモノハ、管財員中一名ノ捺印ヲ要ス

第四條 例規アル常務及正副會頭ノ承認ヲ得タル金錢ノ支出ハ、擔任幹事一名ノ捺印ヲ以テ直ニ之ヲ施行ス

第五條 書記ハ有給無給ノ二種トス、有給書記ハ一個月金拾五圓以内ヲ以テ概額トシ、無給書記ハ半年若クハ一個年間ニ於テ、金員又ハ物品ヲ報酬ス、但有給書記ノ給額ハ、事務ノ繁閑ニ依リ之ヲ定ム

第六條 書記ノ外、月給若クハ日給ヲ以テ傭員ヲ置キ、本會ノ事務ニ從ハシム、其月給ハ金拾圓以内、日給ハ金五拾錢以内ヲ以テ概額トス

第七條 幹事ハ豫算定額内ニ於テ、傭人ヲ使用スルコトヲ得

第八條 金員寄附ノ申込書ハ、庶務係之ヲ受ケ、寄附金名簿ニ登記シ、金額ノ記載ヲ了スルニ及ビ、會計係ニ回付シ、寄附金臺帳ニ登記ス、但金額ヲ記シタル申込書ハ、便宜ニ依リ會計係之ヲ受ケ臺帳登記ノ後、庶務係ニ回付シ、寄附金名簿ニ記載スルコトアルベシ、但記了ノ申込書ハ總テ庶務係ニ於テ之ヲ保存スベシ

第九條 寄附金申込人名其金額ヲ得ルトキハ、庶務係ニ於テ新聞紙ニ廣告ス

第十條 銀行各月寄附金受領報告ハ、會計係之ヲ受ケ、寄附金臺帳ニ登記シ之ヲ庶務係ニ回付シ、庶務係ハ證認狀并ニ證牌證票等ノ交付及新聞紙廣告ノ手續ヲナス

第十一條 寄附者人名及其金額ハ、每一個月、庶務係之ヲ三重事務所ニ通知スベシ

第十二條 年賦ノ寄附金ハ、其第一回ノ拂込ヲナシタルトキ、第十條ノ手續ヲナスベシ、但新聞紙廣告ハ、拂込ニ關セズ、申込ノ際直ニ第九條ノ手續ヲナスベシ

第十三條 職員會務上ニ要スル所ノ實費ハ、會頭ノ見込ヲ以テ便宜之ヲ支給スルコトアルベシ

第十四條 職員會務ニ依リ旅行スルトキハ、適宜ノ旅費又ハ車馬賃ヲ給スルコト

第十五條 經常及臨時費共、豫算中、過不足ヲ生ジタルトキハ、中科目以下流用ヲナスコトヲ得、但會頭ハ決裁施行ノ後、之ヲ評議員會ニ報告ス

第十六條 凡ソ事ノ大體ニ關スル者ハ、委曲ノ調書ヲ製シ、會頭之ヲ總裁ニ上稟シ、評議員會ノ評議ヲ得テ之ヲ決行ス、其種別大要左ノ如シ
建築土木等總テ新規ノ施設ニ關スル類ノ事

新ニ本會ノ規則ヲ設ケ及從前ノ規則ヲ改定スル類ノ事

本會規則第十五條本會經常臨時費用ノ豫算ヲ定ムル類ノ事

同規則第十七條本會資金保管處分ニ係ル事

第十七條 本會規則第八條委員以上ノ囑託ハ囑託案ヲ取調、會頭之ヲ總裁ニ上稟ス

神苑會三重事務所處務規則

第一條 三重事務所ノ事務ヲ分テ庶務會計ノ二科トス、其分掌事項左ノ如シ
庶務課

一 事務所内取締ノ事

一 書記備員ノ囑託解免ニ關スル事

一 來賓接遇ノ事

一 文書往復ニ關スル事

一 諸會議及議決施行ニ關スル事

一 會員證牌贊助員證票寄附者證狀ニ關スル取調ノ事

一 諸印鑑保管ノ事

一 賓日館管理ノ事

一 諸願伺届報告其他要件記録ノ事

一 本會組織ニ關スル書類及印刷諸規則類保管ノ事

一 議案ノ回送并ニ配附ニ關スル取扱ノ事

一 諸方法規則文書等立案ノ事

一 各所寄附金募集實況取調ノ事

一 寄附物品受領取扱ノ事

- 一 寄附金ニ關スル書類及帳簿保管ノ事
- 一 寄附金ヲ帳簿ニ記載シ會計及東京事務所ニ報告スル事
- 一 寄附金揭示報告ノ事
- 一 寄附金統計表及報告書調製ノ事
- 一 工事目論見帳豫算測量圖書調製ノ事
- 一 工事入札ニ關スル事
- 一 工事監督雇人足指揮監督ノ事
- 一 苑地計畫并ニ地所ニ關スル事
- 一 園藝職并ニ雇人夫取締監督ノ事
- 一 苑地掃除并ニ保管ノ事
- 一 園藝使用購入品受渡并ニ保管ノ事
- 一 園藝ニ關スル器具保管ノ事
- 會計課
- 一 出納概則ニ依リ事務取扱ノ事

- 一 收支豫算調製ノ事
 - 一 收支報號ノ憑書調製ノ事
 - 一 收支金額ニ對スル領收證書受渡ノ事
 - 一 收支現計畫及決算書調製ノ事
 - 一 財産管理及目錄計算表調製ノ事
 - 一 物品購入公賣ノ事
 - 一 事務所備品保管并ニ目錄調製ノ事
 - 一 給仕小使雇入解雇ノ事
 - 一 諸消耗品受渡并ニ保管ノ事
- 第二條 幹事ハ各主掌ノ事務ヲ管理シ書記以下ノ役員ヲ指揮監督ス但シ其主掌ノ事務ト幹事限リ施行スベキモノトハ幹事長之ヲ定ム
- 第三條 書記ハ幹事ノ指揮監督ニ從ヒ各主科ノ事務ニ従事ス
- 第四條 書記ハ有給無給ノ二種トス有給書記ハ一個月金貳拾五圓以内ヲ以テ概額トシ無給書記ハ半年若クハ一個年ノ終リニ於テ金員又ハ物品ヲ報酬スル

第五條 書記ノ外、月給若クハ日給ヲ以テ備員ヲ置キ、本所ノ事務ニ從ハシム、其月給ハ金拾圓以內、日給ハ金貳拾錢以內ヲ以テ概額トス

第六條 凡ソ事務取扱上ニ要スル處務手續文書取扱手續當直手續等ハ各主掌幹事協議ノ上之ヲ定メ、幹事長ニ報告スルモノトス

第七條 三重事務所ニ於テ用ユル印章左ノ如シ(印章略之)
三重事務所事務執行權限概目

東京本部ノ裁決ヲ仰グベキ事項

- 一新ニ興スベキ苑地計畫ノ事
- 一本會規則變更加除ニ關スル事
- 一幹事以上役員ノ囑託解任ノ事
- 一字治山田支部事務所處務規程及其他諸規則ノ事
- 一本會ノ名義ヲ以テ新ニ負債ヲ起ス事
- 一毎半個年収入金及支出金ノ豫算額ヲ定ムル事

一 毎一個年収入支出決算報告ノ事

一 他府縣下(三重縣)ノ寄附金募集ノ事

一 寄附金取扱ニ付他府縣下ノ銀行ト條約ノ事

一 會員ヘ證券ヲ贈ル事

一 土地家屋賣買贈與、其他法律上權利義務ニ關スル事

一 以上ニ掲ゲザル事項ト雖モ重大ノ事件

幹事長若クハ幹事ニ委任セラル、事項

一 支部擔當ニ係ル寄附金募集ニ付、派出并ニ處分ニ關スル事

一 特別會員來郡ノ際、内規ニ從ヒ接遇ヲナス事

一 幹事以下ノ役員ヲ任命シ、又ハ出張旅行ヲ命ズル事

一 公入札ヲ以テ工事ヲ命ジ、又ハ物品ノ買入賣拂ヲナス事

一 賓日館ヲ管理スル事

一 土地物品貸借ニ係ル事

一 從來ノ負債ヲ償還スル事

一 豫算額ノ收入金ヲ徵收スル事

一金錢出納及財産物品取扱順序ヲ定メ之ヲ三重縣并ニ所屬郡役所ニ届出ル事

一 收支金取締ニ付地方銀行ト條約取結ノ事

一 不用物品ヲ賣却スル事

一 事務所ヲ移轉シ及修繕スル事

一 第一着ノ苑地ニ施行スベキ事業ヲ結了スル事

神苑會三重事務所事務取扱手續

第一章 事務取扱順序

第一條 本會三重事務所處務規程第六條ニ據リ左ノ手續ヲ定メ事務ヲ取扱フベシ

第二條 凡ソ事務ヲ處辨セントスルトキハ其主務員ニ於テ議案ヲ起シ各科回議ノ上事務執行權限ニ據リ稟議ヲ經テ執行スベシ

第三條 事務兩科ニ連繫スルモノハ各主科ノ間ニ於テ協議シ若意見ヲ異ニスルトキハ事務執行權限ニ據リ稟議決ヲ請フベシ

第四條 各科共其事務成績ニ付毎年末ニ於テ一覽表ヲ作り説明書ヲ付シ幹事長ニ報告スベシ

第二章 文書取扱心得

第五條 庶務科長ハ文書ヲ査閲シ重大ノ件ト認ムルトキハ直ニ幹事ニ開申シ其指揮ヲ受ケ處分スベシ

第六條 受附係ハ接受并ニ發送ノ文書共各簿冊ニ記載シ各番號ヲ付シ各主科ヘ配付シ又ハ發送ノ上受領者ノ檢印ヲ受ケ置クベシ

但幹事長若クハ幹事ノ親展書ハ庶務課長ニ於テ直チニ進達シ其指揮ヲ受ケテ處分スベシ

第七條 各主務員ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ處理シ合議若クハ回覽ヲ要スルトキハ第二條ノ手續ニ依ルベシ

第八條 往復諸種ノ書類ハ淨寫校合ノ上原案ト契印シ其種類ニ從ヒ各番號ヲ記シ發送スベシ

但議案ニハ發送年月日ヲ記シ置クベシ

第九條 凡ソ議案ハ庶務ニ於テ之ヲ調査シ各番號ヲ付シ、回議決定ノ上其主科ニ返付スベシ

第十條 議案ノ回送アルトキハ各科員之ニ檢印シ、若シ意見ヲ異ニスルトキハ主務者ニ協議スベシ、協議調ハザルトキハ、其理由ヲ附箋シ幹事長若クハ幹事ノ裁決ヲ仰グベシ

第十一條 急速ヲ要スル議案ハ、急印ヲ押シ迅速回付シ、遲滯セシムベカラズ

第十二條 決定セシ議案ハ、其主科ニ於テ、更ニ各科員ニ回示セシ上之ヲ保管シ、何時タリトモ直チニ文書ノ所在ヲ知り得ルヲ要ス

第三章 服務心得

第十三條 執務時間ハ其季節ニ從ヒ之ヲ定ムト雖モ、事務頻繁ナルトキハ定時限外ナルモ從事スベシ

第十四條 各科員ハ本務外ト雖モ、事務繁忙ナルトキハ相互扶助スベシ

第十五條 各科員出勤スルトキハ、直チニ出勤簿中日課ニ檢印ヲ押シ、然ル後服務スベシ

第十六條 事務員ハ本會ニ關スル文書類ハ、公務ノ外他人ニ示シ、又ハ謄寫セシムルコトヲ得ズ

第十七條 事務員ハ本會ニ關係アル工事會社ノ社員タル事ヲ得ズ

第四章 雜則

第十八條 各科員其使用ニ關スル備品ハ、別ニ定ムル規定ニ依リ之ヲ保管スベシ

第十九條 諸購入品并ニ印刷ニ付スベキ書類ノ合議案ニハ、總テ見積書ヲ付シ、決定ノ上會計課ヘ回付スベシ

第二十條 金圓ノ受授ハ、會計規則ニ據リ之ガ取扱ヲ爲スベシ

第二十一條 筆紙墨其他必要物品ハ、都テ請求用紙ニ品目量數及記名檢印シ、用度員ニ就キ之ヲ要ムベシ

第二十二條 事務員病氣又ハ事故ノ爲缺席スルトキハ、午前十時迄ニ其事由ヲ記シ届出ベシ、若シ半途缺勤スルモノハ幹事若クハ同僚ニ斷リ然ル後退出スベシ

第二十三條 事務員病氣療養ノ爲轉地セント欲スルモノハ、其日限ヲ定メ醫案ヲ添ヘテ願出ベシ

第二十四條 非常ノ事件又ハ事務所近傍ニ失火アルトキハ、即時事務所ニ出頭スベシ

第五章 當直心得

第二十五條 休日及退出後ハ、書記以下事務員ノ内、一名當直スベシ
但一時雇ノ者ハ此限ニ非ズ

第二十六條 當直順序ハ抽籤ヲ以テ定メ、其順序ニ依リ名牌ヲ掲ゲ、出張歸着引籠等ノ者ハ該届書ニ據リ點檢シ、當直人名牌ハ毎朝朱書ノモノニ翻シ置クベシ
但當直ノ者ヨリ順次次番ヘ通知スベシ

第二十七條 休日ノ當直ハ晝夜ヲ分チ交番スベシ、晝直ノモノハ出勤例刻ヨリ、夜直ノモノハ日没前ニ出頭交番スルモノトス

第二十八條 出張巡回或ハ病氣引籠等ニシテ當直ノ順序ヲ過去リ、又ハ當直ノ日不參セシモノハ、出勤ノ日ヨリ二日目ニ相勤ムベシ

第二十九條 當直ハ次條以下ニ定ムル手續ニ照準シ事務ヲ處理スベシ

第三十條 當直ハ各主任者退出ノ際、事務所印箱及鍵箱等封印ノ儘領收管守シ、出

勤ノ際之ヲ交付スベシ

第三十一條 退出後又ハ休日ニ到達スル文書ハ、左ノ區別ニ從ヒ處辨スベシ

第一項 幹事長幹事其他記名親展書ハ其宛名先ヘ送付スベシ

第二項 事務所宛ノモノハ之ヲ開封シ、其急速ヲ要スルモノト認ムルトキハ各主任者ヘ送付スベシ、其尋常ノモノハ日誌簿ニ記載シ翌日受付係ヘ交付スベシ

第三項 以上文書類ヲ送付シタルトキハ、送致簿ニ記載シ領收者ノ檢印ヲ受クベシ

第四項 寄附金ヲ領收シタルトキハ、納書ニ依リ假領收書ヲ作り、主任者ノ認印ヲ求メテ之ヲ交付シ、翌日主任者ヘ引渡ヲ爲スベシ

但封金ナルトキハ其儘管守シ、當直簿ニ記載シ主任ヘ交付スベシ

第三十二條 當直ハ臨時發送ノ書類物件ハ、受付ニ代リ之ヲ取扱フベシ

第三十三條 當直ノ者俄ニ病氣等ニテ缺勤スルトキハ、次番ノ者ヘ通知交代スベシ

三重幹事分掌項目

庶務部	岩男 幹事	滿岡 幹事
土木部	太田 幹事	柚原 委員
會計部	太田 幹事	小池 委員
	滿岡 幹事	鹿島 幹事
	小池 委員	宇仁田 委員

一各幹事ハ分掌條件ニ基キ其主務員ヲ指揮監督シ之ヲ執行セシム
 一事件各部ニ連繫スルモノハ各主掌幹事ヘ合議ヲ要ムベシ若シ急施ヲ要スル場
 合ニ於テハ其主タル事務主掌ノ幹事ニ於テ之ヲ決シ然ル後各幹事ヘ報知スベ
 シ
 一幹事中事故若クハ他行ノ場合ニ於テハ他ノ幹事代理スベシ
 一委員ハ事務執行上ニ付幹事ヲ佐ク

神苑會接待規則

第一條 凡ソ本會會員及贊助員ノ參拜アルトキハ第三條以下ノ種別ニ據リ懇篤

待ヲ爲スベシ但會員ノ妻子ハ本條ニ準ジ之ヲ接待スルモノトス

第二條 參拜者ハ本會ノ會員證牌若クハ贊助員證票ノ携帶ヲ要ス

第三條 本會ニ於テ爲スベキ接待ハ之ヲ分チテ左ノ三等トス

一等 百圓以上ノ寄附者

二等 五拾圓以上百圓未満ノ寄附者

三等 拾圓以上五拾圓未満ノ寄附者

第四條 一等接待ハ左項ニ依リ懇篤之ガ取扱ヲナスベシ

奏樂祈禱

參拜ノ際神樂殿ニ於テ神樂ヲ奏シ神饌一萬度御祓大麻ヲ授與ス

御神寶拜觀并ニ微古館縱覽

御歴代御獻納ノ御物并ニ撤下御神寶ノ拜觀ヲ紹介シ且本會微古館ヲ縱覽セ
 シム

本會接待

本會待客館并ニ二見賓日館ニ於テ饗饌ヲ供スベシ此兩館ニ宿泊スルハ會員

以上ハ本會ニ於テ案内ヲ爲シ、始終懇切ニ周旋スベシ

第五條 二等接待ハ左ノ手續ニ依リ接遇ヲナスベシ

祈 禱

參拜ノ際祈禱所ニ於テ祈禱ヲナシ、大麻神饌ヲ授與ス

御神寶拜觀并ニ徵古館縱覽

拜觀并ニ縱覽切符ヲ附與ス

本會接待

本會待客館并ニ二見寶日館ニ於テ茶菓ヲ供スベシ、但參拜祈禱ノ際ハ本會ニ於テ案内ヲ爲スベシ

第六條 三等接待ハ左ノ手續ニ依リ接遇ヲ爲スベシ

大麻神饌授與

守祓并ニ直會拜受ノ切符ヲ附與ス

御神寶拜觀并ニ徵古館縱覽

拜觀并ニ縱覽切符ヲ附與ス

第七條 二等三等ノ接待ヲ受クベキモノニシテ、二見寶日館へ宿泊ノ需メアルト

キハ、時宜ニ依リ其宿泊ヲ許シ、又ハ饗饌ヲ供スルコトアルベシ

第八條 贊助員參拜ニ當リ、事務所ニ通告アルトキハ、參拜神寶拜觀徵古館縱覽ノ周旋ヲ爲スベシ

第九條 會員并ニ贊助員ノ宿泊ハ、望ニ依リ本會指定ノ旅館ニ案内シ、誠實ノ取扱ヲナサシメ、又本會事務所ニ於テ百事懇切ニ周旋シ特別便利ヲ與フベシ

第十條 縣内ノ沿道各驛ニ於テハ、身元確實ナル旅籠屋ヲ選ビ、神苑會認可休泊所ノ標札ヲ掲ゲシメ、本會會員ニ對シ特別懇切ノ取扱ヲナシ、若シ旅客充滿シ其他止ムヲ得ザル差支アルトキハ他ノ休泊所ニ案内シ、不都合無キ様取扱フベシ

第十一條 神苑會認可休泊所ノ標札ヲ掲ゲン旅籠屋ニシテ、會員ニ對シ不都合アリタルトキハ、會員ヨリ其休泊所ノ屋號ヲ神苑會事務所ニ通知スベシ、事務所ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スモノトス

神苑會接待內規將來ノ目的

- 一 黄色證票佩用者ヲ第一等トス
 - 一 紫色證票佩用者ヲ第二等トス
 - 一 紅色證票佩用者ヲ第三等トス
 - 一 賛助員證票携帶者ヲ第四等トス
- 接待ノ品種
- 一 待賓館及ビ賓日館宿泊
 - 一 待賓館及ビ賓日館休憩
 - 一 待賓館及ビ賓日館饗應
 - 一 御神寶拜觀
 - 一 祈禱
 - 一 神樂
 - 一 大麻授與
 - 一 御饌授與
 - 一 尋常旅舎ニ就キテノ待遇

- 一 三重縣内沿道各驛休泊所ノ特待
- 一 沿道路程圖附與
- 一 神宮近傍名所圖畫附與
- 一 三重縣内名物產物考附與
- 一 特設人力車支給

賓日館管理規則

登館者心得

- 第一條 本館ハ神苑會ノ迎待スル賓客及會員ノ外ハ、同會三重幹事ノ許諾ヲ得タルモノ及ビ來觀券ヲ携帶スル者ニ非ザレバ館内ニ入ルコトヲ得ズ
- 第二條 凡ソ館内ニ於テ二時間以上休憩シ若クハ宿泊セントスルモノハ、會員タルノ内外ヲ問ハズ、神苑會三重幹事ノ許諾ヲ得タル證アルニアラザレハ其需ニ應ゼズ

但其需ニ應ジタル後ト雖モ、臨時差支ヲ生ジタル時ハ謝絶スルコトアルベシ

第三條 本館ニ休憩若クハ宿泊スル者ハ左ニ掲グル席料ヲ要ス

二時間以上六時間以内、會員一人ニ付金五錢、會員外ハ金貳拾錢

六時間以上、十二時間以内、會員一人ニ付金拾錢、會員外ハ金四拾錢

但十二時間以上ハ、十二時間ヲ増ス毎ニ金貳拾錢ヲ追加ス、尤モ會員ハ金五錢トス

第四條 館内ニ休憩若クハ宿泊中ニ於テ、海水温浴ヲ望ミ、又ハ飲食ヲ欲スル者、又ハ宿泊ニ要スル寢具其他用品ハ、時宜ニ依リ、特ニ其依頼ニ應ジ、本館ノ賄人ヲシテ調進セシムルコトアルベシ、尤モ此場合ニハ相當ノ實費ヲ要スル者トス

第五條 館内ニ登覽セントスルモノハ、神苑會三重事務所ヨリ發行スル來觀券ヲ本館又ハ最寄賣捌所ニ付テ購需シ、各一人毎ニ一枚ヲ携持シ本館ニ差出スベシ、其來觀券携持者ト同行スル十歳以下ノ者ハ此限ニ非ズ

但本館差支アルトキハ、臨時登覽ヲ謝絶スルコトアルベシ

第六條 來觀人ニハ本館ノ茶菓ヲ供シ、適意遊覽セシム

但館内ニ在ル事、二時間ヲ超ユベカラズ

第七條 凡ソ館内ニ在リテハ、靜肅ヲ旨トシ、喧噪ニ涉ルノ行爲アルベカラズ

第八條 本館樓上ニ於テハ、神苑會三重幹事長ノ特許ヲ得ルニアラザレバ酒食スル事ヲ得ズ

第九條 本館ノ建物及器什等ヲ汚損スベカラズ、若シ汚損シタル者アルトキハ、相當ノ賠償ヲ要求スルモノトス

第十條 本館差支アルトキ、又ハ痲病ヲ目的トスル時ノ休泊及傳染病ノ虞アルモノ、瘋癲、白痴、爛醉者ト認ムルモノ、登覽ハ謝絶スベシ

第十一條 來觀人ハ本則ヲ守リ館守人ノ指示ニ從フベシ、若シ之ニ違背スルトキハ館内ヲ退去セシム

館守人心得

第十二條 館守人ハ館内ヲ取締リ、且登館者ニ對シ懇切ニ接遇スベシ

第十三條 神苑會三重幹事ノ許諾ヲ得テ休憩若クハ宿泊スル者アルトキハ、其人名等ヲ表記シ、退館ノ際、席料ヲ要求スベシ

第十四條 前條ノ席料ハ、仕譯書ヲ添へ、及ビ來觀人ヨリ收受スル來觀券ハ、其都度順序ヲ逐ヒ番號并ニ月日ヲ記入シ置キ、毎月曜日、神苑會事務所ニ差出スベシ

但來觀券ノ番號ハ毎月首ニ起シ其月末ニ止ムルモノトス

第十五條 本館ニ於テ賣渡スベキ來觀券ハ豫テ神苑會三重事務所ヨリ受取置キ、其賣渡シタル料金ハ、毎月曜日ニ仕譯書ヲ添ヘ、該事務所ヘ差出スベシ

第十六條 本則第五條ニ依リ、溫浴又ハ飲食又ハ宿泊ヲ望ム者アルトキハ、成ル可ク其依頼ニ應ジテ調進セシメ、賄人ヨリ仕出書ヲ徴シ其實費ヲ要求スベシ

第十七條 來觀人ニ供スル茶菓ハ、豫テ神苑會三重事務所ヨリ實物ヲ以テ受取り置キ、一個月分ノ使用高ヲ記載シ、翌月五日限り該事務所ヘ報告スベシ

第十八條 本館ノ建物及器什等ヲ汚損シタル者ニ對シ、賠償ヲ求ムル場合アルトキハ、神苑會三重事務所ノ指揮ヲ請フベシ

第十九條 館守人以下、賄人等ニ於テハ、本則第四條第五條ニ掲グル席料及實費ノ外ハ、茶代謝儀其他何等ノ名義ヲ以テスルモ、金錢若クハ物品ヲ受クルコトヲ得ズ

九月五日、本會會員證牌規則ヲ設ケ、會員證認狀書式ヲ定ム。其證牌ハ 神宮遷御式舉行前ニ交付スルヲ以テ最モ時機ヲ得ルモノト

シ。八月十日、三重幹事長意見ヲ具シ、速ニ圖案ヲ選定シ、調製ヲ了セラレシメ、トナ會頭ニ稟請ス。茲ニ至リテ先ヅ規則ヲ定メ、次デ日期シテ證牌ヲ調製ス。

神苑會會員證牌規則

第一條 神苑會會員證牌ハ、本會 總裁殿下ノ令旨ヲ奉ジ會頭之ヲ交付ス

第二條 會員證牌ハ、八稜鏡形ニシテ左ノ圖ノ如シ (圖略ス)

第三條 會員證牌ハ三種ニ區別ス

第一 白銅製鍍銀 紐色 黃

右金百圓以上寄附者ニ交付ス

第二 白銅製鍍銀 紐色 紫

右金五十圓以上寄附者ニ交付ス

第三 白銅製鍍銀 紐色 紅

右金拾圓以上寄附者ニ交付ス

第四條 創立會員ニ交付スル證票ハ鏡面ニ成ノ字ヲ嵌入ス

第五條 會員證票ノ略章ハ左圖ノ如クニシテ同ジク色ヲ以テ別ツ (圖略ス)
寄附金證認狀書式

第一 凡ソ何人ニ依ラズ二人若クハ數人ニテ本會ヘ金員又ハ物件等ヲ寄附スル
トキハ其金額ニ應ジ第一號以下ノ證認狀ヲ附與ス

第二 寄附金額拾圓以上又ハ之ト同價ノ物件ニ對スル證認狀ハ會員證牌拾圓未
滿五圓以上ハ贊助員證牌ヲ以テ之ニ副フ

但創立會員證牌ハ寄附金額ニ關セザルコトアルベシ

第三 年賦ノ寄附者ニハ第一回金員拂込ノ際都テ前條ノ取扱ヲ爲スベシ
證認狀第一號 (金拾圓以上及之ト同價ノ物件ヲ寄附セシモノ)

證

一金 圓也 (物件ハ其物件ヲ記ス)

右本會設立ノ主旨ヲ賛成セラレ書面ノ金員物件ハ書面ノ通御寄附相成候段領
承本會規則ニ照シ事業擴張ノ資ニ供スベク候依テ 總裁熾仁親王殿下ノ命ヲ
奉ジ會員證牌御交付ニ及ビ候也

年 月 日

神苑會副會頭 氏 名印

神苑會會頭 氏 名印

氏 名殿

同第二號 (金拾圓未滿五圓以上又ハ之ト同價ノ物件ヲ寄附セシ者)
證

一金 圓也 (物件ハ其物件ヲ記ス)

右本會設立ノ主旨ヲ贊助セラレ書面ノ金員物件ハ書面ノ通御寄附相成候段領
承本會規則ニ照シ事業擴張ノ資ニ供スベク候依テ贊助員證牌御交付及ビ候也

年 月 日

神苑會副會頭 氏 名印

神苑會會頭 氏 名印

氏 名殿

同第三號 (金五圓未滿壹圓以上又ハ之ト同價ノ物件ヲ寄附セシモノ)
證

一金 圓也 (物件ハ其物件ヲ記ス)

右金員(物件ハ書面ノ通御寄附相成候段領承本會事業ノ資ニ充テ申ベク候也
年 月 日 神苑會副會頭 氏 名印
神苑會會頭 氏 名印

氏 名殿

十月一日、度會郡役所内ニ式場ヲ設ケ、創立會員、普通會員、贊助員等
ヲ招キテ、證牌交付式ヲ行フ、之ヲ本會證牌交付ノ嚆矢トス。此後又
式ヲ行フコトナク、隨時適宜ノ方法ヲ以テ交付ス。

此日、九條道孝公、神宮祭典(遷宮式前ニ於ル祭典ニ
リ式後ニ亘ル諸祭典)ニ關シ、勅使トシテ
參向アラセラル、本會乃テ請ウテ交付式ニ臨場ヲ仰ギ、幹事委員等
之ニ列シテ式ヲ行フ。授クル所ノ計數、創立會員證牌(牌面ニ旻ノ篆
字ヲ象嵌セルモノ)四十九名(内黃紐四十四、紫紐四、赤紐二)、會員證牌
四百十六名(内黃紐三、紫紐三十七、赤紐三百七十六)、贊助員證牌百九
十七名トス。其後謹ンデ 朝彥親王殿下ニ黃紐證牌一個ヲ奉呈ス、

此外本月十五日迄ニ新ニ入會セシ者百四十七名ニ對シ、各證牌ヲ
交付ス。

神宮式年造替ノ功竣リ、遷御式ノ日既ニ定マル、盛典ノ舉行ニ相伴
ヒ、苑地清麗ノ實蹟ヲ舉ントスルハ本會積年ノ企望ナリ。是ニ於テ
今春以來、銳意土功ヲ督勵シ、造苑ノ地區今稍見ルベキモノアルニ
至ル。本會施工以前、陋巷、宮域ニ迫リ穢汚名狀ス可ラズ、其舊觀ヲ
眼底ニ印スル者ニシテ始メテ能ク本會改修ノ光景ヲ識別スベシ。
十月三日、三重創立會員三十九名連署シテ土方宮内大臣ニ謝狀ヲ
呈ス、蓋本會創業ノ央ニ當リ、指導懇篤、而シテ太田幹事ノ上京ニ際
スルヤ、總裁會頭ノ推薦并ニ會務擴張ノ規畫等、主トシテ其深厚ノ
配慮ニ藉ラザルハナシ、是レ三重創立員ノ衷情ヲ表スル所以ナリ。

(謝狀寫)

某等三重神苑會員一同ニ代リ謹デ白ス閣下本會創業ノ央ニ膺リ親シク計畫昭垂ノ榮ヲ忝シ爾來閣下ノ高猷ヲ謹承シ會員相共ニ匪勉事ニ從ヒ況ク朝野名士ノ翼贊ヲ被リ成業ノ隆運ヲ期スルニ至レリ某等ノ光榮素懷不過之創立ノ際ニ當リ殊ニ銘肝措ク能ハズ茲ニ聊感喜ノ情ヲ陳ジ敢テ謝狀ヲ奉呈ス恐惶頓首

明治二十二年十月三日

神苑會三重創立會員

太田 小三郎

宇仁田 宗馨

村井 恒藏

(以下三十六名連名略ス)

子爵 土方久元閣下

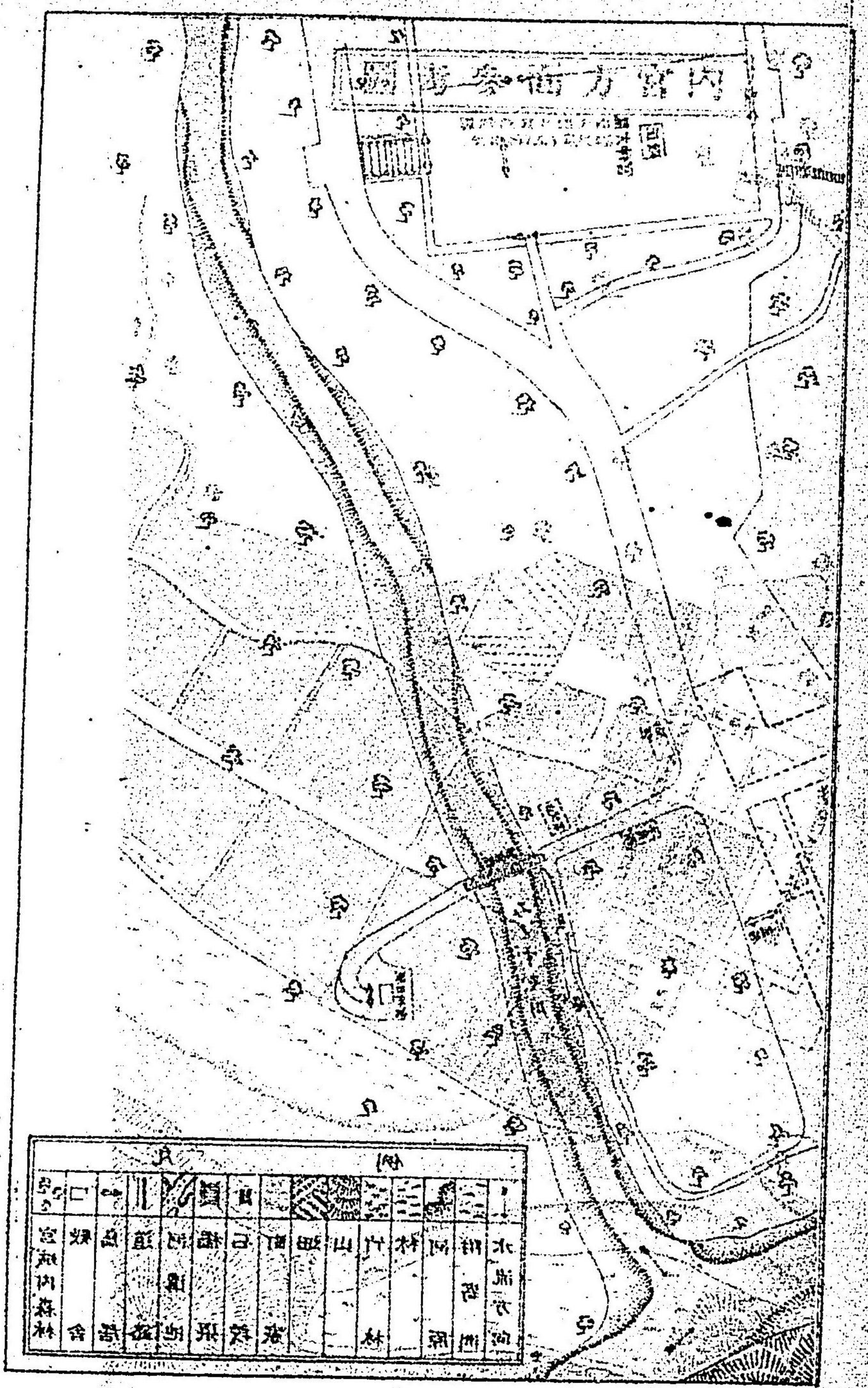
神宮式年遷宮ノ盛典本月二日(内宮)及五日(外宮)ニ舉行アラセラル、拜觀者遠邇接踵神都ノ殷賑名狀シ難シ此日儀式儼然濫リニ宮域ニ入ルヲ許サレズ本會豫テ神宮司廳ノ承允ヲ得テ特ニ拜觀ノ

區域ヲ指定セララル。乃チ舉行ニ先ダテ徧ク之ヲ會員ニ告グ是ヲ以テ會員證牌ヲ佩ビ拜觀ノ榮ニ浴セシ者其數勝テ記スベカラズ次デ又撤下御物(御神寶)拜觀ノ特典ヲ與ヘラル。

十月十五日擧ニ就任セシ所ノ評議員ニ對シ、總裁殿下ヨリ囑託辭令書ヲ交付セララル。(其人名編首所掲ノ如シ故ニ略ス)

今ヤ 兩宮苑地大略土功ヲ了シ剩ス所樹木景石ノ補足等ニ過ギズ而シテ園藝ノ意匠技巧ヲ要スベキ點ナキニ至ル。園藝掛長小澤圭次郎督勵ノ績アリ部下ノ工匠東京ヨリ來レル者六名并ニ慰勞金ヲ與ヘテ之ヲ解備ス。

開苑前後ノ實地ヲ審カニセンガ爲メ本會精測スル所ノ圖アリ、解説ヲ附シテ以テ古今ノ沿革ヲ知ルニ備フ、即チ掲ゲテ參照ニ資スルユト左ノ如シ。



内宮方面参考圖解説

本圖ハ萬治元年今ヲ距ル凡ニ百五十年前及天保元年今ヲ距ル凡ニ八十年前ノ炎上記録ニ據リテ當時ノ宮域并ニ接近地ヲ調製シ、文字ヲ記入シテ以テ改修ノ地區ヲ甄別セルモノナリ。近古改修ノ事蹟ヲ徴センガ爲メ、茲ニ解説ヲ掲グルコト左ノ如シ。

延長四年今ヲ距ル凡ニ千年前ノ神祇官符ニ據レバ、古來、宮域ノ北端ハ宇治橋ニ達セシモノ、如シ。當時域内ニハ、齋館即チ禰宜物忌等ガ齋宿スル館舎ノ外、庶民ノ住居ヲ嚴禁セラレタリト雖モ、後世齋館ノ増加ニ從ヒ、火災ノ憂ナキ能ハズ。承暦三年今ヲ距ル凡ニ八百三十年前仁安三年今ヲ距ル凡ニ七百七十年前仁治元年今ヲ距ル凡ニ六百六十年前ノ慘狀是也。爾後又之ヲ顧ミズ、齋館ヲ建ルコト仍故ノ如ク、漸ク降リテ足利時代ニ移ルヤ、古規益廢レ、齋館ト民家ト相錯雜シテ殆ド、内院ニ接續シ、宇治橋以內、風、宮橋邊ハ専ラ庶民ノ侵蝕スル所トナリ、上館中館下館等ノ町名ヲ稱フルニ至レリ。永正二年今ヲ距ル凡ニ四百四十年前上館町ノ民家火ヲ失スルヤ、御厩子良館由貴殿忌火屋殿御倉瑞垣等ニ延燒セシモ、土着ノ民、因襲常ヲ爲シ、再ビ家宅ヲ建營セリト云フ。

第五編 成立第一期 明治二十二年

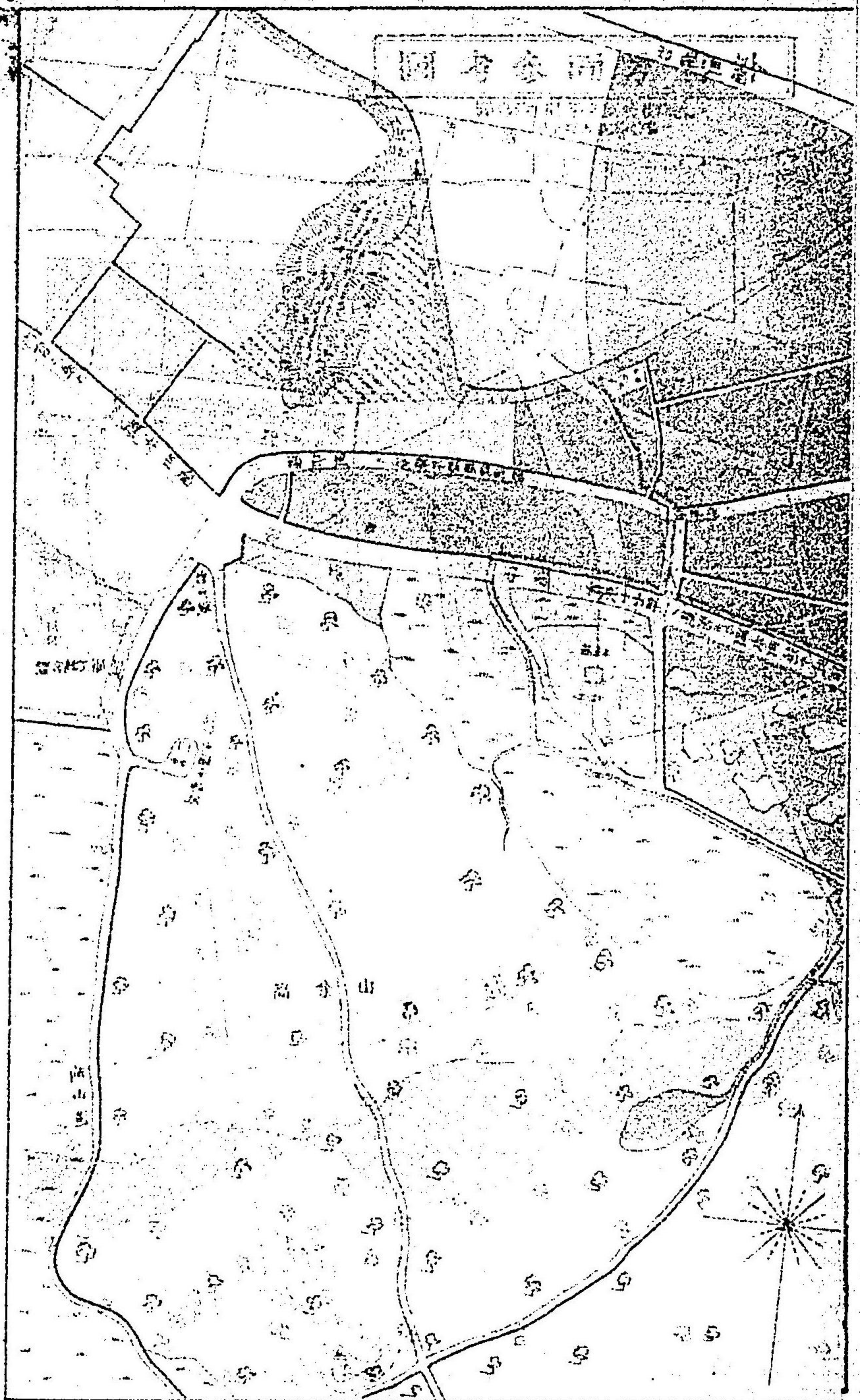
萬治ノ改修

永正火災ノ後百五十三年、萬治元年十二月、宇治橋外ノ民家火ヲ失シ、橋ヲ越テ館町ヲ燒燼シ、延テ正殿實殿御門御垣外院ノ殿舎ニ及ビ、荒祭宮風ノ宮モ炎上ス、民家ノ燒失セルモノ四百五十軒、時ニ大宮司大中臣精長、一ノ禰宜荒木田氏富山田奉行石川大隅守、其他有志ノ輩相謀リ、一ノ鳥居以內、風ノ宮附近ニ民家ノ建設ヲ禁制セラレシコトヲ京都并ニ關東ニ訴ヘ、再三詮議ノ末、齋館ハ五十鈴川端ニ設ケ、上館町ニハ民家ノ再建ヲ禁ジ、其換地トシテ川下ノ地ヲ交付シ、此處ニ移轉セシメラル。此改修ハ決然勵行ノ積ヲ認ムト雖モ、其區域單ニ上館ノ一町ニ止マレリ。

天保ノ改修

萬治以後百七十二年ニシテ、天保元年閏三月今ヲ距ルル八十年前再ビ宇治橋外ノ民家火ヲ失シ、下館中館兩町ノ民家ヲ燒燼シ、古殿外院ノ殿舎、荒祭宮等炎上ス。時ニ神宮上卿大納言三條實萬卿、深ク民家ノ接近ヲ憂慮セラレ、當局有志ノ輩ニ諮リテ、中館下館兩町ノ民家撤却ヲ決行セントセラレシガ、輒ク換地ヲ得ザルヲ以テ、目的ヲ完遂スルニ至ラズ、唯一部分タル一ノ鳥居以北御厩邊迄ヲ火除地トシ、御池ノ水ヲ引キ小橋

ヲ架設スルニ止マリキ、今尙存スル所ノ御橋宮城ト神苑地トノ境是ナリ、其火除地千六百十二坪、撤去ノ民家三十三戸、之ヲ天保年度ノ改修事蹟トス。



外宮
方面參考圖解説

本圖ハ寛永時代今ヲ距ル凡ニ百六十年前ヨリ、本會開苑前ニ至ル。外宮宮域并ニ附近ノ形状ニシテ、其改修事蹟ハ、圖中各事由ヲ特記シ、以テ一見認識ノ便ニ供セリ。

所謂圖中特記ノ事蹟トハ、第一永祿今ヲ距ル凡ニ百四十年前三ノ開鑿道路、第二寛永ノ新設參道、第三慶安今ヲ距ル凡ニ百五十年前ノ改修新道、第四寛文今ヲ距ル凡ニ百三十年前ニノ築堤土功是ナリ。

凡ソ域内ノ制禁、内宮ト相同ジキコトハ固ヨリ論ナシト雖モ、地勢ノ異ル所沿革ヲ異ニセザルヲ得ズ。往古ヲ案ズルニ山田ノ地、西北面廣濶平坦之ヲ貫クニ宮川ノ水脈數派ヲ以テシ、洪水時ニ至リ、宮域屢浸水ノ害ヲ被リシハ、長曆今ヲ距ル凡ニ百六十年前ノ舊記ニ徴スベキ所ナリ。後世宮川ノ堤防完成シ、流脈亦變ジテ氾濫ノ患ヲ免ル、ヤ、民家漸ク増加シ、土着ノ神官并ニ其縁故アル者等漸次、宮域ニ逼リ居住シ、長寛今ヲ距ル凡ニ百七十年前ノ頃、既ニ延長官符ノ禁ヲ犯セルノ狀アリ。降リテ世變ノ久シキ舊規傾敗、民家ノ宮域ヲ侵蝕スルコト、館町ノ内宮宮域ニ於ルト又何ゾ擇バン。然シテ北面一帶地形延長、範圍自カラ廣大ニ互レリ。

永祿ノ道路

永祿年間今ヲ距ル凡三百年前 郡宰、土部貞永、其邸宅ト 外宮表參道トノ中間ニ横ハレル高倉山端ヲ鑿開シ、以テ里人往還ノ便ニ供セリ。後世堀切ト稱セシ通路是ナリ、現今神苑地ノ東端ニ沿ヒ國道ニ位ス。

寛永ノ參道

在昔、外宮ニ參拜スル者多クハ城内參道ヨリ高倉山但俗天ノ岩戸ト稱スル岩窟ヲ迂回シテ岡本里ニ出デ以テ 内宮方面ニ向フ。寛永年間、山田奉行花房志摩守、一ノ鳥居口ヨリ岡本町ニ直通セル參道ヲ新設ス、幅五間延長百五十間之ヲ中道ト稱セリ。蓋南ニ高倉山ノ參道アリ、北ニ堀切ノ通路アリ、其中間ニ位スルヲ以テ名ク、圖中昔社ノ北面ニ沿フモノ是也、本會開苑前、一ノ鳥居ヲ出デ、 内宮ニ至ル者必此道ヲ取レリ、現今神苑地域ニ屬ス。

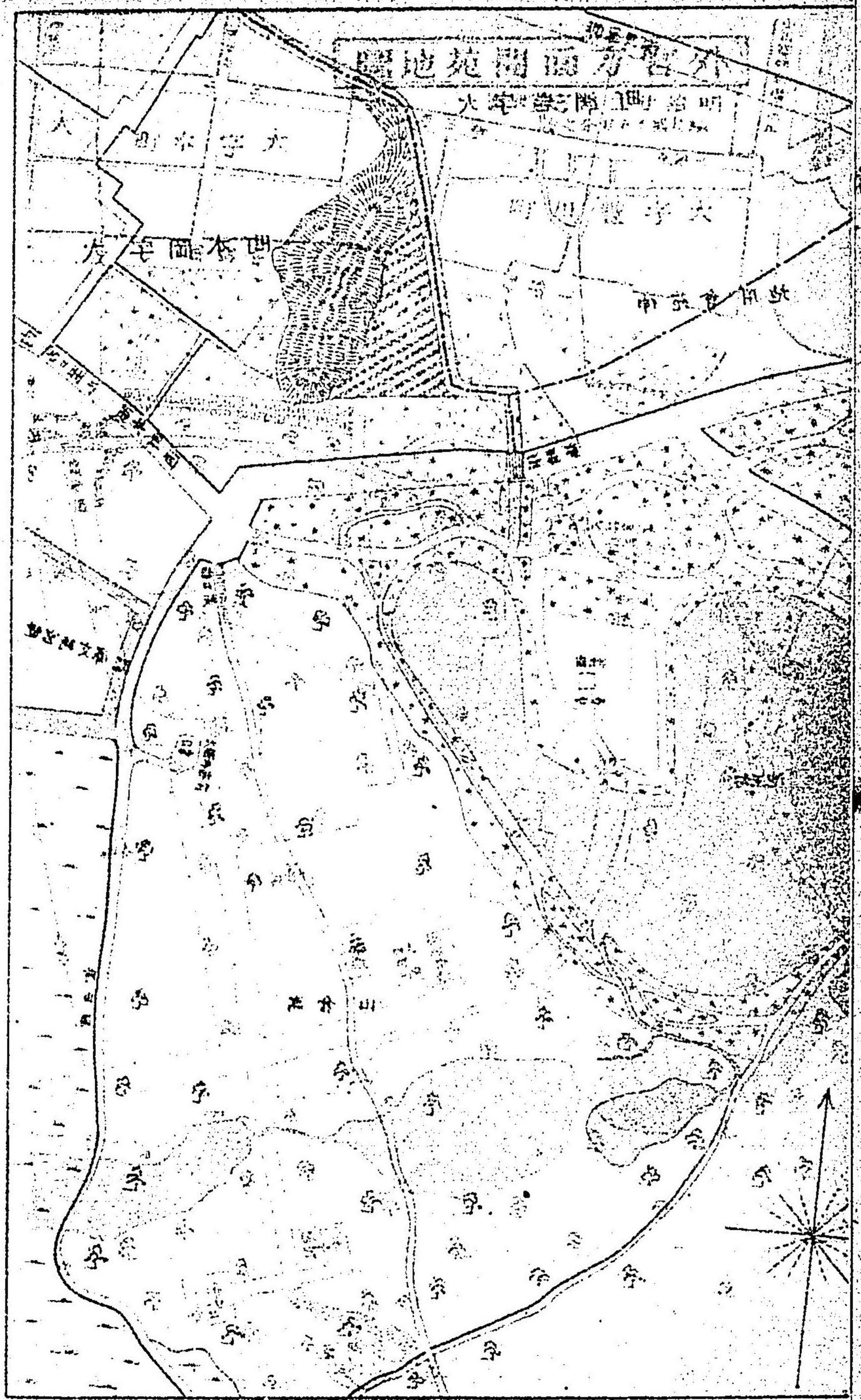
慶安ノ道路

慶安元年今ヲ距ル凡二百年前 山田奉行石川大隅守、豊川ニ沿ヘル民家十七軒、及世義寺附近ノ民家五十一軒ヲ撤去シ、豊川ノ幅ヲ三間ニ定メ、世義寺ヨリ一ノ鳥居ニ達スル迄、豊

川ニ沿ヒ幅五間ノ新道ヲ設ク、是ヨリ先キ、 宮城附近西北方ノ民家火ヲ失シ、城内山林ニ延及セシコト數回、是レ改修ノ因テ起ル所以ナリ、現今神苑地若クハ民有地ニ屬ス。

寛文ノ土功

寛文十一年今ヲ距ル凡二百年前 山田奉行桑山丹後守、 宮城西方ニ位セル世義寺ヲ撤却シ、且 宮城接近ノ民家ヲ大道十間ノ外ニ退ケ、同十二年、北御門口以西、八日市場町字坂之世古ニ至ル延長百八十間ノ陂堤ヲ築キ、傍ラニ溝渠ヲ設ク、實ニ前年ノ大火寛文十年巷間火ヲ失シ山田ノ町家總計九千七百餘軒ニ鑑ミ、豫メ 宮城ヲ防護センガ爲ナリ、當ノ内五千七百餘軒ヲ燒亡ス此際月讀宮モ炎上時設ケシ所ノ溝、後世之ヲ百間堀ト呼ベリ、明治三十五年、本會苑地ヲ擴張スルニ當リ、盡ク之ヲ埋却シ、現今神苑地内ニ孕在セリ。



外宮開苑地圖解説

本圖ハ神苑開成後ノ實測ニシテ、前出近古圖中、民家櫛比ノ北御門口ヨリ岡本町西端ニ至ル迄、及北御門口ヨリ西方、藤社ノ邊ニ至ル迄、盡ク之ヲ撤却シ、内宮神苑ト共ニ本會ノ經營セシ所ナリ。其撤去ノ民家百二十七軒、建坪四千七百七十一坪、地區面積一萬二千五百七十一坪餘、之ヲ内宮方面ニ比スレバ、形狀延長、且街衢ノ關聯ヲ制スルノ要アリ、是ヲ以テ施設ノ方法頗ル困難ヲ感ジ、先ツ苑地民家ノ間ニ幅七間ノ道路ヲ開通シ、舊社近傍ノ低地ニ勾玉形ノ池ヲ作り、參道ノ連絡ヲ計ル等、務メテ宮域ノ規模ヲ恢宏セリ。而シテ彼ノ永祿寛永ノ通路并ニ慶安寛文ノ改修ニ屬スル區畫ハ、共ニ本會造苑ノ部分ニ包含セラレ、今ヤ其遺迹ヲ認メザルニ至レリ。明治三十五年、神苑地ノ擴張ヲ圖リ、北御門口以西二三旅舎ノ大厦高樓ヲ掃蕩シ、以テ火災ノ危険ヲ遠ケ、悠久ノ宮域ノ森清ヲ拜スルコトヲ得タリ、圖中擴張苑地ト記入セル部分は也。

苑地ノ北東面、農業館及本會事務所ノ遺址三千八百七十五坪餘ノ地域ハ、創業以來

本會ノ用地トシテ漸次買収ヲ遂ゲシモノナリト雖モ、倉田山ニ移轉後、不用ニ屬セシヲ以テ全部之ヲ賣却セリ。目今山田郵便局伊勢電氣鐵道株式會社待合場及國道ノ一部并ニ之ニ沿ヘル民有地凡二千六百坪ノ地域是也。本是レ神苑事業ニ聯繫シ最近異動ヲ告シ地ナルヲ以テ特ニ其沿革ヲ概述スルモノナリ。

本圖ハ内外宮兩方面トモ明治三十八年調製ノ原圖ヲ縮寫セルモノナリ、故ニ外宮方面ニ於ル擴張苑地及ビ豊川町不用地等、未ダ開苑式當時ニ見ザリシ部分ヲモ記載セリ。

十一月、府縣ノ募集未ダ其狀ヲ審カニセズ、或ハ趣旨ノ徹セザル者アラシムトナ恐レ、正副會頭ノ名ヲ以テ再ビ各府縣知事ニ依頼書ヲ發ス。

神苑會擴張ノ事ニ就テハ、會テ書面ヲ以テ御依頼及置タル旨アリシガ、元來 神宮ハ本邦ノ基礎ヲ開キ給ヒシ、神廟ナレバ、吾日本國民タル者ノ崇敬ハ、國ノ開化ト相伴ヒテ益盛大ニ赴カン事ヲ希圖ス。此際適三重縣有志者ニ於テ神苑會開設ノ舉アリ、依テ我輩公衆ト共ニ國民タル本分ヲ盡サンコトヲ期シ、終ニ 殿下ヲ奉ジテ

總裁ト仰ギ本會擴張ノ企圖アルニ至レリ。本會ノ旨趣ヲ聞シ召シ 帝室并ニ 兩皇后陛下ヨリ特ニ金圓ヲ下シ賜ハリ、其他有志ノ寄附申込ヲ合セテ今日既ニ十八萬圓餘ノ金額ニ達ス。此金圓ヨリ巨額ナラザルニ非ズトイヘドモ、本會企圖ノ點ニ比スレバ猶遠ク及バザルモノアリ。抑我日本國民タル者ハ、古來人々一タビ 神宮ニ參拜スルヲ以テ通例トスルノ風習アリ、此風習ニ本ヅキ、向後ニ於テハ營ニ參宮ヲ必トスルノミナラズ、尙且之ヲ以テ一種無匹ノ快樂トナスノ感情アルニ至ラシムルニ非レバ、崇敬ノ實得テ見ルベカラズ、民俗ノ美、得テ保シ難カラン。參宮ヲ以テ快樂トナスノ感情ヲ生ゼシメンニハ、參宮ノ舉甚ダ容易ニシテ、且便利ヲ極メ、神地ニ在リテ接スル所ノ事物悉ク快適ナルヲ感ゼシムルニ在リ。現今幸ニ有志者ノ發起ニ依リ、參宮鐵道開設ノ舉アリ、乃チ之ニ本ヅキ參宮者ヲシテ尙種々ノ便利ヲ得セシメ、其 神地ニ在リテハ神苑ヲ清潔閑雅ニシテ、精神ノ爽快ヲ覺エ、歸郷ノ後之ヲ回想スルモ猶敬慕ノ情アラシメ、徵古館ヲ開キテ心目ヲ慰悅シ、兼テ百聞一見ニ如カザルノ智識ヲ授ケ、待賓館ヲ設ケテ待遇ヲ懇篤ニシ、大ニ便利ヲ達シ満足ヲ表セシムルガ如キ是ナリ。今日ニ於テ神苑ノ工事ハ略其緒ニ就クガ如シト雖モ、今

後猶經營ヲ要スベキモノアリ、從ウテ後來費額ヲ要スルモノ鮮少ナラズ、而シテ將來亦之ヲ維持スルノ資本ナカルベカラズ、是其廣ク有志者ノ協贊寄附ヲ要スル所以ニシテ、畢竟本會ノ企圖ハ、神苑ヲ以テ崇敬ヲ表セシムルノ機關トシ、以テ民俗ノ美ヲ百世ニ保存セシメントスルニ在リ、三重縣ハ、神宮所在ノ地ト云ヒ、且有志ノ獎誘ニ依リ入會者頗ル多ク、從テ其寄附金既ニ多額ニ達セルモ、其他ノ府縣ニ於テハ、概シテ入會者鮮ク、或ハ地方ニヨリテハ未ダ神苑會ノ名ヲ知ラザル向モアルベシ、故ニ今諸君ニ御依頼スル所ハ、御管下各地ニ於テ着實篤志ノ人物ヲ推薦シ、殿下ニ執達ノ上、之ヲ本會委員トシ、應分ノ寄附ヲ其地ニ獎誘シ、以テ本會ノ企圖ヲ完成セシメラレンコトヲ希望スルニ在リ、但本會ハ會社若クハ團體等ノ、或ハ一事業ニ依リ又ハ一個人ニ關シ、利益慈善ヲ謀ルガ如キ目的ニ出ルモノニアラズ、本會ノ舉タル、苟モ日本國民トシテハ何人ヲ問ハズ、其本分ニ於テ各應分ノ力ヲ盡サザルヲ得ザル者ナレバ、固ヨリ強迫等ノ手段ヲ須ヒズ、人々其内ニ願ミ、相共ニ樂ンデ贊成スルガ如キノ結果ヲ見ンコトヲ希望ス、我輩本會ノ職務ニ當リ今日諸君ニ斯ク御依頼ニ及ブガ如キモ、他ナシ、一ニ國民ノ本分ヲ盡サント欲スルニ由ルノミ毫モ

官職上ニ關スル所アルモノニハアラズ、諸君黨クハ之ヲ諒セラレヨ、參宮ヲ以テ通例トスルガ如キ習俗ハ、今日猶各地ニ存セルヲ以テ、隨テ本會ノ旨趣ヲ協贊スル者モ多カルベシト想像ス、故ニ諸君ニシテ眞實ニ本會ノ舉ヲ贊翼セラレ、遠ク百世ノ後ヲ鑒ミテ、我々神廟ノ爲盡力セラレンニハ、各地ノ委員多少其功ヲ奏スル所アリ、以テ本會ノ企圖ヲ完成スルニ至ルベシ、之ヲ要スルニ神都ニ至ル者ハ、神苑ニ就キテ一種無匹ノ快樂ヲ感ジ、快樂ヲ感ズルニ依テ益神都ニ至ルヲ希望シ、終ニ神苑ヲ以テ我國民一般ノ遊園トナスガ如キノ勢ヲ成シ、國ノ開化ト相伴テ、神廟ノ崇敬ヲ増サンコトヲ希望ス、伏テ乞フ諸君本會ノ旨趣ヲ翼贊御盡力アリテ希望ヲ達セシメラレンコトヲ。

明治二十二年十一月
 神苑會會頭 伯 吉 井 友 實
 神苑會副會頭 渡 邊 洪 基

十二月、三重縣知事山崎直胤、宮内省書記官ニ轉任セシナリ、以テ三重幹事長ノ職ヲ辭シ、後任、三重縣知事成川尙義ニ、三重幹事長ヲ囑託セララル。

明治二十三年一月一日、新年拜賀式ヲ三重事務所ニ行フ、是後毎年立テ、例トナス。

副會頭渡邊洪基、三重事務所ヲ巡視シ、會務進行ニ關スル件ヲ協議ス、賓日館ニ宿泊シ七日ヲ以テ神社港ヨリ乘船歸京ス。

一月四日、委員宇仁田宗馨ニ庶務兼會計課長ヲ命ズ。

十二日、三重幹事長成川尙義、神宮參拜ヲ了シ、苑地ノ實況及三重事務所ヲ巡視ス。

會計事務ニ關シ三重幹事長ニ稟議ヲ要スルモノ少カラズ、課長宇仁田宗馨、本月二十日三重縣廳ニ出張シ越テ三十日歸所ス。

二月九日、總裁殿下賜フ所ノ眞影ヲ三重事務所内ニ奉掲シ、幹事委員ヲ會シテ拜賀ヲ行フ。

十一日、幹事太田小三郎會務ヲ負ヒ上京ス。

内宮苑地、五十鈴川對岸ノ民有山林、反別二百十七町四反一步ハ本會ニ於テ風致保存ノ必要ヲ感シ、曩ニ之ガ購入ヲ約セル所ナリ、所有者浦田長民(本會創立ノ初度會郡長トシテ推レテ假會頭タリ)ト賣買價額既ニ協定ヲ告ゲ、本月二十八日ヲ以テ所有權ヲ本會ニ收得ス。

四月八日、北白川宮、神宮御參拜、賓日館ニ御宿泊アラセラル。

七月二十五日、事務上協商ヲ要スル件アリ、課長宇仁田宗馨東京事務所ニ出張シ、越テ八月十五日歸所ス。

十一月七日、會頭伯爵吉井友實、神宮參拜ヲ了シ、苑地視察ノ後、賓日館ニ宿泊ス、課長宇仁田宗馨、同館ニ出頭シ、會務ノ實績ヲ具申ス。二十七日、副會頭渡邊洪基、公使トシテ任ニ海外ニ赴クヲ以テ其職ヲ辭シ、花房義質其後ヲ承ケテ副會頭ノ職ニ就ク、後渡邊洪基ニ評

議員ヲ囑託セラル。

十二月三日、外宮神苑附近ニ農業館建設ノ件ヲ決議ス、其豫算建築費凡參千圓、陳列品購入費并ニ雜費凡參千圓、合計六千圓トス。是ヨリ先キ、外宮神苑ノ造設ニ方リ、北面一帶ニ沿テ國道改修ノ土功ヲ起シ、以テ苑地ト人家トノ區劃ヲ顯カニス。而シテ國道既ニ成ルヤ、一、鳥居口以東、沿道北面ノ人家猶陋態ヲ免レザルモノアリ、乃チ此部分ノ人家ヲ退ケ、其宅地ヲ買収シ、之ヲ掃清シテ以テ苑地對面ノ修觀ヲ圖ル。本年七月、徵古館ノ一部トシテ先ヅ農業館ヲ此ニ建設セントスルノ議アリ、計圖未ダ熟セズ、願フニ農業ノ事、品種繁錯、而カモ其學理ニ通シ實地ニ明カニ、且幹理ノ才ヲ具フルニ非レバ、適當ノ施設得テ望ムベカラザルヲ知ル。越テ十一月、會頭吉井伯ノ推選ニ依リ、貴族院議員從四位勳三等田中芳男ノ意見ヲ徵シ、

託スルニ農業館ノ事ヲ以テス、蓋適任其人ヲ得ル者ナリ、此ニ至リテ建設ノ議ヲ決シ、豫算ヲ概定スルト共ニ建設ノ旨趣ヲ發表ス。

農業館開設ヲ要スル旨趣

徵古館開設ノ目的ハ、本會規則第二條ニ掲載スル所ニシテ、早晚着手ヲ要スルモノナルモ、其規模頗ル大ニシテ範圍モ亦廣クレバ、一朝ニシテ完成ヲ期スベキニアラズ。抑本邦ノ國ヲ立ル、農ヲ以テ本トシ、而シテ農事ノ本邦ニ於ル、實ニ皇祖大神ノ恩賚ニ依ルモノナルハ、歴然トシテ史傳ニ徵スベキ所ナリ。我國民、神宮ヲ以テ農事ノ祖ト奉仰シ、農家ノ子弟必ズ一タビ、神宮ニ賽スルヲ期シ、頒曆授時ノ事必ズ、神宮ニ需ツガ如キ、古來ノ習俗洵ニ以アル哉。依テ按フニ、本會徵古館中、先第一着ニ農業館ヲ設置シ、普ク海内新古百般ノ農業具ヲ蒐集陳列シ、傍ラ標本及農業書ヲ收藏シテ、農業家ノ觀覽ニ資シ、尙種苗交換所ヲ置キ、四方ヨリ、集合スル參宮者ニ、多少ノ種苗ヲ携來交換シテ蕃殖ノ道ヲ講ゼンコトヲ獎勵シ、又漸ヲ以テ海外諸國ノ農業具及農業書ヲ購入臚列シ、以テ參考ニ供センニハ、目下本邦ノ農事ニ向テ裨益ヲ與フルモノ、決シテ少ナラザルベシ。是即チ百聞一見ニ若カザルノ

第五編 成立第一期 明治二十三年
三三四
提利ヲ收得シテ、其實業ニ便益ヲ興ヘ、益
神徳ヲ無窮ニ尊崇センコトヲ欲スルノ
旨趣ナリ。

神苑會史料

第六編

第六編

成立第二期

自明治三十四年一月
至同三十四年十二月

明治二十四年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ三重事務所ニ行フ。
一月二日、農業館建築委員長田中芳男三重ニ來リ、翌三日、副會頭花房義質亦到ル、三重事務所員之ヲ神社港ニ迎フ、并ニ山田尾上町旅館藤屋ニ泊シ苑地ノ視察ヲ遂ゲ、又農業館建設地ヲ踏査シ、外宮神苑改修道路ノ北側、豊川町ノ地ヲ相ス。是ヨリ田中建設委員長、暫ク山田ニ留マリ、專ラ本館設立ノ事ヲ督理ス。
二月二十三日、農業館建設ニ關シ、三重委員竹内善兵衛、山羽九郎兵衛、村田德三、上野梧一ニ建築掛ヲ、同大岩芳逸、小川宗一ニ物品陳列掛ヲ囑託シ、三重幹事長其辭令書ヲ交付ス、次デ三月十日、度會郡二